



IBM System x

**IBM Configuration Pack for
Microsoft System Center Configuration Manager
ユーザーズ・ガイド**

バージョン 5.0





IBM System x

**IBM Configuration Pack for
Microsoft System Center Configuration Manager
ユーザーズ・ガイド**

バージョン 5.0

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、101 ページの『著作権表示および商標』に記載されている情報をお読みください。

Edition notice

This edition applies to version 5.0 of the IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager User's Guide and to all subsequent releases and modifications until otherwise indicated in new editions.

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM System x
IBM Configuration Pack for
Microsoft System Center Configuration Manager
User's Guide Version 5.0

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2014.

目次

図	v
---	---

表	vii
---	-----

本書について	ix
--------	----

規則および用語	ix
---------	----

情報リソース	xi
--------	----

PDF ファイル	xi
----------	----

World Wide Web リソース	xi
---------------------	----

第 1 章 IBM Configuration Pack for Microsoft(tm) System Center Configuration Manager の概要	1
--	---

バージョン v5.0 の新機能	1
-----------------	---

IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 による IBM システムのサポート	2
---	---

Advanced Settings Utility (ASU)	2
---------------------------------	---

第 2 章 IBM Configuration Pack v5.0 のインストール	5
---	---

IBM Configuration Pack v5.0 のアンインストール	8
---------------------------------------	---

第 3 章 IBM Configuration Pack および Microsoft System Center Configuration Manager の操作	9
--	---

IBM Configuration Pack Editor の実行	10
-----------------------------------	----

ホーム・ページ	11
---------	----

「設定コレクション」ペイン	11
---------------	----

設定コレクションの作成	11
-------------	----

設定コレクションの表示	19
-------------	----

設定コレクションの編集	21
-------------	----

設定コレクションの複製	23
-------------	----

「構成項目」リスト・ペイン	24
---------------	----

構成項目の作成	24
---------	----

構成項目の表示	28
---------	----

構成項目の編集	30
---------	----

構成項目の複製	34
---------	----

構成項目の削除	35
---------	----

構成の説明ファイルに構成データをエクスポート	35
------------------------	----

構成の説明 .xml ファイルのインポート	38
-----------------------	----

ライセンス検証状況の検査	40
--------------	----

「SCCM 用の IBM Configuration Pack にエクスポート (Exporting to IBM Configuration Pack for SCCM)」機能	41
---	----

構成項目を IBM Configuration Pack .cab ファイル	
--	--

にエクスポート	41
---------	----

構成項目を SCCM コンソールにエクスポート	44
-------------------------	----

IBM Configuration Pack を SCCM 2007 コンソールに適用	46
---	----

DCM への構成データのインポート	47
-------------------	----

構成項目のプロパティの表示	52
---------------	----

基準の作成	54
-------	----

ベースラインをコレクションに割り当てる	59
---------------------	----

エンドポイントの基準の評価	61
---------------	----

評価レポートの表示	66
-----------	----

ホーム・ページの概要作成の実行	68
-----------------	----

IBM Configuration Pack を SCCM 2012 コンソールに適用	69
---	----

DCM への構成データのインポート	69
-------------------	----

構成項目のプロパティの表示	76
---------------	----

基準の作成	78
-------	----

ベースラインをコレクションに割り当てる	80
---------------------	----

エンドポイント上でのベースラインの評価	83
---------------------	----

評価レポートの表示	86
-----------	----

IBM Configuration Capture の実行	88
-------------------------------	----

第 4 章 ハードウェアおよびソフトウェアのサポート	95
----------------------------	----

第 5 章 トラブルシューティング	97
-------------------	----

著作権表示および商標	101
------------	-----



1. インストール・ウィザードのウェルカム・ページ	5	41. 「構成 XML ファイルのインポート」ウィンドウ	39
2. インストール・ウィザードのご使用条件	5	42. 設定コレクションの「Confirm Replace」ウィンドウ	39
3. 「試用バージョン」ページ	6	43. 「ライセンス」メニュー・オプション	40
4. 「宛先フォルダー」ページ	6	44. 「License Entitlement」ウィンドウ	41
5. 「プログラムをインストールする準備ができた (Ready to Install the Program)」ページ	7	45. 「SCCM 2007 用の IBM Configuration Pack にエクスポート (Export to IBM Configuration Pack for SCCM 2007)」ウィンドウ	42
6. インストール状況ページ	7	46. 「Export to IBM Configuration Pack」ウィンドウ	43
7. インストール完了ページ	8	47. 「エクスポートが正常に完了しました」ウィンドウ	43
8. 「ライセンスがありません」ダイアログ・ボックス	10	48. 「構成項目の選択」ウィンドウ	44
9. IBM Configuration Pack Editor のメイン・ウィンドウ	10	49. 「SCCM コンソール位置情報」ウィンドウ	45
10. 「General Information」ウィンドウ	11	50. 「構成項目情報」ウィンドウ	45
11. 「設定コレクションの情報」ウィンドウ	12	51. 「エクスポートが正常に完了しました」ウィンドウ	46
12. 「Property Thresholds」ページ	13	52. 構成のインポート・ウィンドウの機能	47
13. 「Setting Editor」ウィンドウ	14	53. エクスポートされた IBM Configuration Pack .cab ファイルの追加	48
14. 「プロパティーしきい値」ウィンドウ	19	54. エクスポートされた .cab ファイルの選択	48
15. 「設定コレクション・リスト (Setting Collection List)」ウィンドウ	20	55. 「Authenticode 署名の確認をスキップしますか? (Skip Authenticode Signature Check?)」ウィンドウ	49
16. 設定コレクションのプロパティー	21	56. 選択した .cab ファイルのインポート	50
17. 「General Information」ウィンドウ	22	57. インポートされた構成項目	50
18. 「Property Thresholds」タブ	22	58. 正常終了のウィンドウ	51
19. 複製機能	23	59. インポートされた構成項目を持つ SCCM	52
20. 「複製」ダイアログ・ウィンドウ	23	60. 「設定」タブ	53
21. 「General Information」ウィンドウ	24	61. 「検出方法」タブ	54
22. 「IMM Information」ウィンドウ	25	62. 「新しいConfiguration Baseline」機能	55
23. Asu.exe 検出通知ウィンドウ	26	63. 「構成基準の作成」ウィザード	56
24. 「設定コレクションの追加」ウィンドウ	26	64. 「アプリケーションと一般」リンク	57
25. 「設定コレクション」選択ウィンドウ	27	65. 「構成項目の選択」ウィンドウ	58
26. 「設定コレクションの追加」ウィンドウとリスト項目	28	66. 構成項目が示された「アプリケーションと一般 (applications and general)」リンク	59
27. 「構成項目」ウィンドウ	29	67. 「コレクションに割り当てる」機能	60
28. 構成項目のプロパティー	29	68. 「コレクションの選択」ウィンドウ	60
29. Configuration Pack Editor - 「一般情報」ウィンドウ	30	69. 「スケジュールの設定」ウィンドウ	61
30. 「IMM Account」タブ	31	70. 「コントロール パネル」フォルダー内の Configuration Manager	62
31. Asu.exe 検出通知ウィンドウ	32	71. アクションが開始されたことを示すウィンドウ	63
32. 「設定コレクション」タブ	32	72. 「構成」タブ	64
33. 「設定コレクションの追加」選択ウィンドウ	33	73. SCCM クライアント・エージェントの状況	65
34. 構成項目の複製機能	34	74. 「レポートの表示 (View Report)」ボタンが使用可能になっている「構成」タブ	66
35. 「複製」ダイアログ・ウィンドウ	34	75. 値を返さない評価対象の設定値	67
36. 構成ファイルへのエクスポート	35	76. Windows イベント・ビューアーのログ	67
37. 「構成の説明 (.xml) にエクスポート」ウィンドウ	36	77. 「ホーム ページの概要作成の実行」機能	68
38. 「構成の説明ファイルにエクスポート (Export to configuration description file)」ウィンドウ	37	78. 基準レポート	69
39. 「エクスポートが正常に完了しました」ウィンドウ	37		
40. 「構成ファイルのインポート」メニュー	38		

79. 「構成データのインポート」機能	70	95. アクションが開始されたことを示すウィンドウ	84
80. エクスポートされた IBM Configuration Pack .cab ファイルの追加.	71	96. 「構成」タブ	85
81. エクスポートされた .cab ファイルの選択	71	97. 「レポートの表示 (View Report)」ボタンが使用可能になっている「構成」タブ	86
82. 「パブリッシャー検査 (Publisher Check)」ダイアログ・ボックス	72	98. 評価された結果の要約	87
83. 選択した .cab ファイルのインポート	73	99. Windows イベント・ビューアーのログ	87
84. 構成データの確認	74	100. 修復された規則	87
85. 正常終了のウィンドウ	75	101. ウェルカム・ページ.	88
86. インポートされた構成項目を持つ SCCM	75	102. ASU ファイルの選択	89
87. 「設定」タブ	76	103. 「一般情報」ページ.	89
88. 「検出方法」タブ	77	104. 情報の収集.	90
89. 「Configuration Baselineの作成」機能	78	105. IMM 設定値	91
90. 「構成の追加 (Add Configuration)」ウィンドウ	79	106. uEFI 設定値	91
91. 「構成項目の追加」ウィンドウ	80	107. UEFI (Romley プラットフォーム) 設定値	92
92. 「コレクションにデプロイ (Deploy to a Collection)」機能	81	108. 「IMM Account」が正しくない	93
93. 「構成ベースラインの割り当て (Assign Configuration Baseline)」機能	82	109. 「Export」ページ.	93
94. 「コントロール パネル」フォルダー内の Configuration Manager	83	110. エクスポートが正常に完了しました	94
		111. IBM Configuration Pack Editor - 「Setting Editor」ページ	99

表

- | | | | |
|--------------------------|----|---------------------------|----|
| 1. 戻りの型別の比較演算子 | 15 | 2. サポートされているシステム. | 95 |
|--------------------------|----|---------------------------|----|

本書について

本書では、IBM® Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 をインストールし、これを使用してお客様の環境で IBM 構成データを作成および管理する手順について説明します。

規則および用語

本書で使用されている注意書き

以下の注意書きは、重要な情報を強調するために使用されています。

- 注:** これらの特記事項は重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。
- 重要:** これらの特記事項は、不都合なまたは困難な状態を避けるために役立つ情報またはアドバイスを提供します。
- 注意:** また、これらの特記事項では、プログラム、デバイス、またはデータへの考えられる損傷を示します。損傷が起こりうる指示または状態の前には警告通知が表示されます。

本書で使用されている用語

次のリストは、本書で使用されているいくつかの用語、頭字語、および省略語を説明したものです。

構成項目

構成項目

ASU IBM Advanced Settings Utility

SCCM Microsoft System Center Configuration Manager

DCM Desired Configuration Management

IBM システム構成設定

1 つの IBM 構成設定は IMM/uEFI の 1 つのプロパティとその予期値を定義しており、そのプロパティが予期値に準拠していない場合はエラーを返します。

IBM システム構成設定コレクション

1 つ以上の IBM システム構成設定を含む設定コレクション。このリリースでは、1 つのコレクションは IMM または uEFI のファームウェア・タイプを備えています。

IBM システム構成項目

他の IBM 設定コレクションから構成されている 1 つの構成項目。

IBM System Configuration Description

IBM 構成設定/構成項目情報を含んでいる XML ファイル。

DCM 構成項目

Desired Configuration Management システムの基本的な構造単位を指します。

DCM 構成設定

他の 構成設定から構成されている 1 つの構成設定。それぞれの構成設定で評価条件と重大度を定義できます。

DCM Configuration Baseline

他の**構成項目**から構成されている 1 つのConfiguration Baseline。基準は、SCCM クライアント・コレクションに割り当てることができます。それらの基準をエンドポイントで評価できます。

IBM Configuration Pack

IBM Configuration Pack は 1 つの .cab ファイルであり、**構成項目**とベースラインを含んでいます。 IBM Configuration Pack を DCM サーバーにインポートすることにより、**構成項目**とベースラインをインポートすることができます。

ダイジェスト・スキーマ

DCM では、Desired Configuration Management ダイジェスト定義 (XSD) は Desired Configuration Management 文書 (構成項目) (つまり、要素に課されている制約、表示できる属性、それら属性の相互の関係、および属性に含めることができるデータ型) を定義しています。IBM Configuration Pack XML ファイルは、DCM サーバーにインポートできるダイジェスト・スキーマの標準に沿っている必要があります。

IBM 構成データ

IBM システム構成項目**構成項目**、IBM システム設定コレクション、および IBM システム設定はまとめて IBM 構成データと呼ばれます。

IBM Configuration Pack Editor

IBM **構成項目**および設定コレクションを作成し、IBM 構成データをIBM Configuration Pack/構成記述にエクスポートできるエディター。

IBM Configuration Capture

このツールは IBM サーバーから IMM/UEFI/UEFI (Romley プラットフォーム) 設定値をキャプチャーし、キャプチャーした設定値を Configuration Description にエクスポートすることができます。

情報リソース

IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 の追加情報は、WWW 上で入手することができます。

PDF ファイル

PDF 形式で提供されている資料を表示および印刷します。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

PDF ファイルを表示または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。コピーを Adobe Reader Web サイトからダウンロードすることができます。

PDF ファイルの表示と印刷

IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions Web サイトにある PDF ファイルは、すべて個別に表示または印刷が可能です。資料ごとの製品ページを見つけるには、用意されているリンクをクリックしてください。

World Wide Web リソース

以下の Web ページでは、IBM System x、BladeCenter® ブレード・サーバー、およびシステム管理ツールの理解、使用、およびトラブルシューティングに役立つリソースが掲載されています。

IBM System x Integration Offerings for Microsoft Systems Management Solutions

ここでは、IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 の最新のダウンロードを見つけることができます。

IBM サポート・ポータル

IBM ハードウェアおよびシステム管理ソフトウェアのサポートを見つけます。

IBM ServerProven® ページ

IBM Server Proven Compatibility for System x and xSeries hardware, applications, and middleware ページ

IBM ServerProven Compatibility for BladeCenter products ページ

IBM System x、IBM BladeCenter、および IBM IntelliStation® ハードウェアとのハードウェア互換性に関する情報を取得します。

System Center Technical Resources ページ

System Center Configuration Manager のサポートを見つけます。

第 1 章 IBM Configuration Pack for Microsoft(tm) System Center Configuration Manager の概要

バージョン v5.0 の新機能

試用ライセンスのサポート

この製品のインストール時に製品ライセンスがアクティブ化されていない場合は、試用ライセンス・サポートが自動的にアクティブ化されます。完全な試用ライセンス・サポートを確実に受けるには、システム時刻を正確に設定します。試用ライセンスがアクティブにされた後、試用期間は 90 日間です。試用期間中は、プレミアム・フィーチャーが使用可能です。試用期間が残り 5 日を過ぎると、有効期限を知らせる通知が 24 時間ごとに表示されます。試用ライセンスの有効期限が切れた後は、製品ライセンスをアクティブ化しない限り、プレミアム・フィーチャーは使用できません。製品ライセンスは、以下から入手できます。

IBM Upward Integration for MSSC

フリー (無料) フィーチャー

このリリースには、以下の機能が含まれています。

IMM/UEFI/UEFI (Romley プラットフォーム) 設定値のキャプチャー

IBM Configuration Capture は IBM サーバーから IMM/UEFI/UEFI (Romley プラットフォーム) 設定をキャプチャーし、キャプチャーした設定を IBM システム構成記述ファイルにエクスポートできます。エクスポートされた構成記述ファイルは IBM Configuration Pack Editor にインポートできます。

プレミアム・フィーチャー

以下のフィーチャーは、v4.0 以降の有効な製品ライセンスによって使用可能にされる有料の機能です。

SCCM コンソールへの IBM System 構成項目のエクスポート:

構成項目を SCCM コンソールにインポートし、それらを SCCM クライアント・コレクションに割り当てる機能。

以下のフィーチャーは、v3.0 以降の有効な製品ライセンスによって使用可能にされる有料の機能です。

IBM システム構成データの作成:

IBM システム構成データは、IBM 構成項目、IBM Configuration 設定コレクション、および IBM 構成設定で構成されます。このリリースでは、IBM システム構成データの範囲は IMM/uEFI 設定値です。

IMM/uEFI の共通設定値のサポート:

IBM Configuration Pack Editor は、IBM システム構成設定の作成に役立つ IMM/uEFI のいくつかの共通設定値をサポートしています。

IBM システム構成データの IBM Configuration Pack へのエクスポート:

IBM Configuration Pack は、.cab ファイル内に構成項目および設定コレクションを含んでおり、DCM 標準に準拠しています。この IBM Configuration Pack を DCM サーバーにインポートすることができます。

IBM システム構成データの構成の説明へのエクスポート:

構成の説明は構成データを記述した XML ファイルです。ユーザーは構成データを共有および編集することができます。IBM 構成データを構成の説明にエクスポートしたり、構成の説明を IBM Configuration Pack Editor にインポートしたりすることができます。

IBM System 構成の説明のインポート:

構成の説明ファイルをインポートできます。このファイルには、1 つ以上の IBM 構成項目および設定コレクションが含まれている可能性があります。

IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 による IBM システムのサポート

IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 には、IMM/uEFI 設定を検査するための手段が用意されています。エンドポイントで検証する設定値を作成するには、IBM Configuration Pack Editor を使用します。

対象となる IBM 構成データは、IBM Configuration Pack Editor によって、SCCM DCM にインポートできる構成パック・ファイル (.cab) にエクスポートできます。管理者は、それらの構成データを SCCM で特定のコレクションに割り当てることができます。このような構成データには vbscript (ASU.exe ツールを起動してエンドポイントの準拠性を検証する) が含まれます。

Advanced Settings Utility (ASU)

IBM Advanced Settings Utility (ASU) を使用すれば、DOS、Linux、Solaris、Windows (WinPE を含む) などの、複数のオペレーティング・システム・プラットフォームでコマンド行からファームウェア設定を変更できます。このユーティリティは、BIOS コード、リモート管理アダプター・ファームウェア、リモート管理アダプター II ファームウェア、ベースボード管理コントローラー・ファームウェア、IMMなどをサポートしています。

注: IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 は ASU v3.60 以降をエンドポイント上で使用します (<http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/docdisplay?Indocid=TOOL-ASU>)。

注:

注: IBM 構成データには ASU.exe は含まれていないため、ここで説明するように ASU.exe をエンドポイント上の次のロケーションにコピーする必要があります。

ASU.exe ファイル (32 ビット OS の場合) または ASU64.exe ファイル (64 ビット OS の場合) をシステム・ディレクトリーの IBM_Support¥ASU¥ フォルダーの下にコピーします (例: C:¥IBM_Support¥ASU¥asu.exe、C:¥IBM_Support¥ASU¥asu64.exe)。

ASU.exe のロケーションは、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥(Wow6432Node)¥IBM¥ASU¥ の下にあるストリング・キー「Location」を更新することで、レジストリーに手動で記録する必要があります。

また、IBM Configuration Pack Editor で ASU.exe の絶対パスを入力することもできます。

第 2 章 IBM Configuration Pack v5.0 のインストール

手順

1. IBM Configuration Pack v5.0 インストーラー (.exe ファイル) をダブルクリックします。 IBM Configuration Pack のウェルカム・ページが開きます。

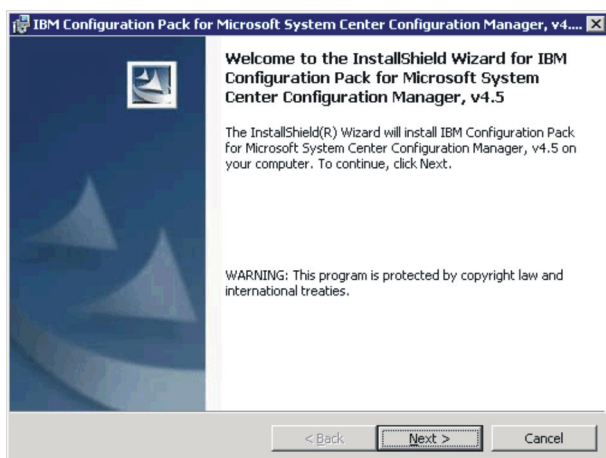


図 1. インストール・ウィザードのウェルカム・ページ

2. 「次へ」をクリックして、「使用許諾契約書」ページに進みます。

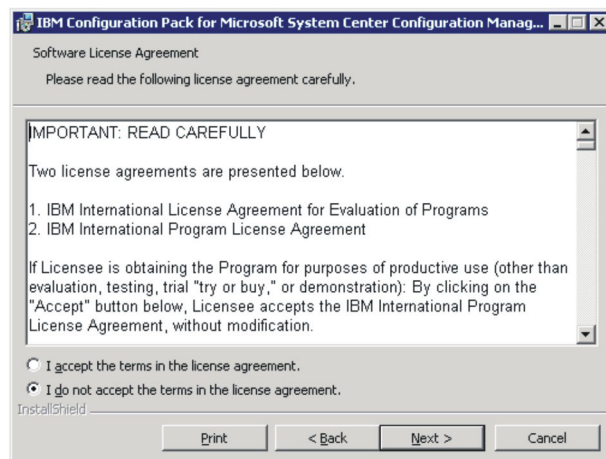


図 2. インストール・ウィザードのご使用条件

3. 「使用条件の条項に同意します」を選択して使用条件に同意します。
4. 「次へ (Next)」をクリックします。 製品ライセンスがアクティブ化されていない場合は、「試用バージョン」ページが開きます。それ以外の場合は、「宛先フォルダー (Destination Folder)」ページが開きます。
5. 「試用バージョン」ページで「IBM に問い合わせる」をクリックして有効な製品ライセンスを入手してから「次へ」をクリックすれば、「宛先フォルダー (Destination Folder)」ページに進むことができます。

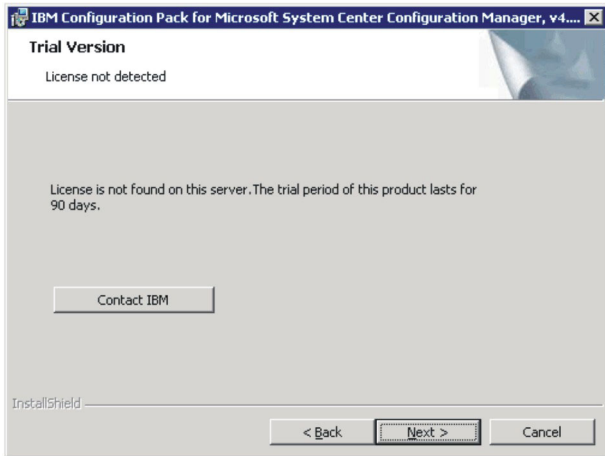


図 3. 「試用バージョン」ページ

6. 「宛先フォルダー (Destination Folder)」ページで「変更」をクリックすれば、IBM Configuration Pack をインストールするディレクトリーを変更できます。

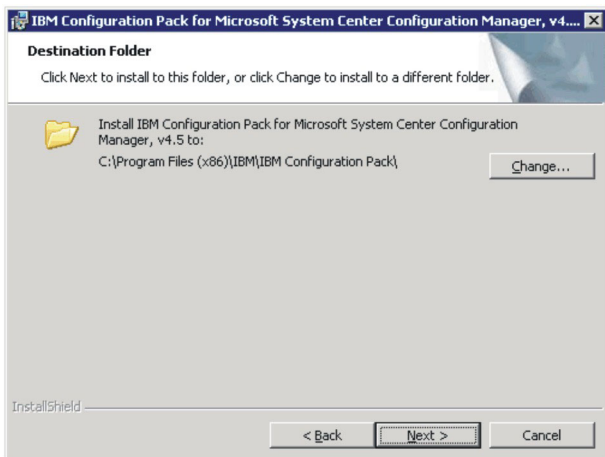


図 4. 「宛先フォルダー」ページ

7. 「次へ」をクリックして、「プログラムをインストールする準備ができました (Ready To Install the Program)」ページに進みます。

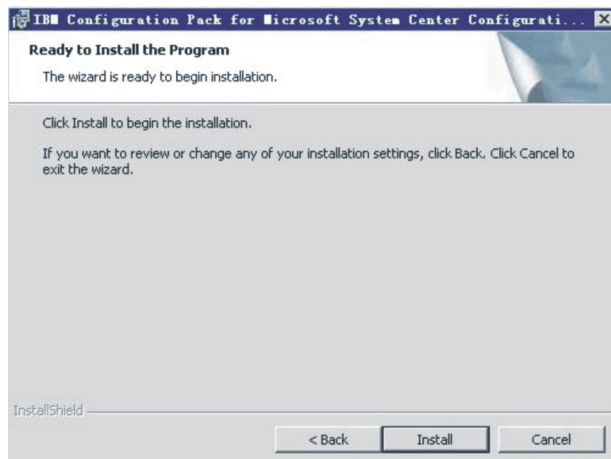


図 5. 「プログラムをインストールする準備ができました (Ready to Install the Program)」ページ

8. 「インストール」をクリックしてインストール・プロセスを開始します。

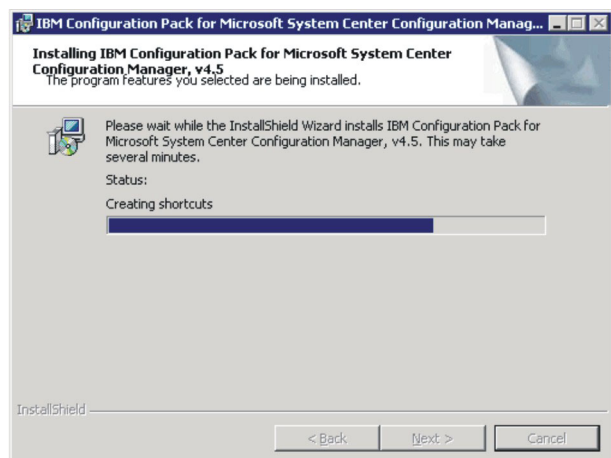


図 6. インストール状況ページ

9. 「終了」をクリックしてインストールを完了します。

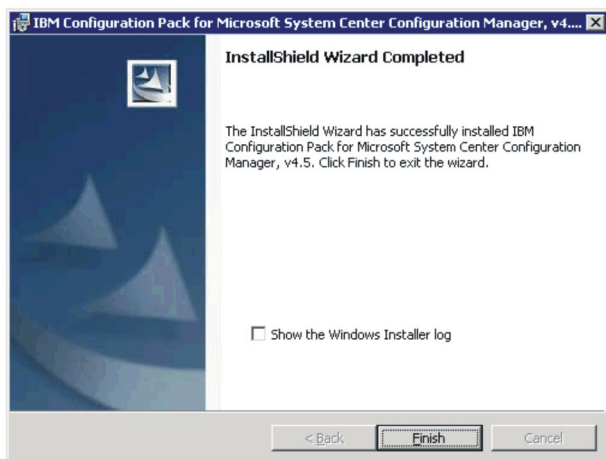


図7. インストール完了ページ

IBM Configuration Pack v5.0 のアンインストール

IBM Configuration Pack v5.0 をアンインストールする方法は 4 つあります。

- (推奨方法) IBM Configuration Pack v5.0 インストーラー (.exe ファイル) を実行して「**除去**」オプションを選択する。
- 「**プログラムの追加と削除**」(オペレーティング・システムが Microsoft Windows Server 2008 の場合は「**プログラムと機能**」) からアンインストールする。
- IBM Upward Integrated Installer を使用する (詳しくは、IBM Upward Integrated Installer ユーザーズ・ガイドを参照)。
- 「**スタート**」メニューのアンインストール・ショートカットを使用する。

注: 構成データを作成してある場合は、アンインストール・プロセス中に構成データのフォルダーを削除するかどうか通知されます。

第 3 章 IBM Configuration Pack および Microsoft System Center Configuration Manager の操作

IBM Configuration Pack v5.0 を使用すれば、IBM 構成データを作成して IBM Configuration Pack にエクスポートすることが簡単に行えます。

簡単な説明

IBM Configuration Pack for SCCM v5.0 を使用すると、SCCM DCM サーバーにインポートできる IBM 構成データを簡単に作成できます。SCCM DCM サーバーは IBM 構成データをクライアントに割り当て、そのクライアントが準拠しているのかどうかを評価します。

IBM Configuration Pack および SCCM DCM の使用方法を以下の手順で概説します。

1. 評価する IBM 構成データを作成します。構成データは、以下のいずれかの方法で作成できます。
 - IBM Configuration Pack Editor で IBM 構成データを作成します。詳しくは、11 ページの『設定コレクションの作成』、および 24 ページの『構成項目の作成』を参照してください。
 - IMM、UEFI、および UEFI (Romley プラットフォーム) モジュールがある IBM サーバーから IBM 構成データをキャプチャーします。詳しくは、88 ページの『IBM Configuration Capture の実行』を参照してください。
2. 作成した IBM 構成データを SCCM DCM サーバーにエクスポートします。詳しくは、41 ページの『構成項目を IBM Configuration Pack .cab ファイルにエクスポート』、および 47 ページの『DCM への構成データのインポート』を参照してください。
3. IBM 構成データを SCCM クライアントに割り当て、評価します。詳しくは、59 ページの『ベースラインをコレクションに割り当てる』、および 61 ページの『エンドポイントの基準の評価』を参照してください。

IBM Configuration Pack Editor の実行

「スタート」メニューから IBM Configuration Pack Editor のショートカットをクリックすれば、IBM Configuration Pack Editor を起動できます。

試用ライセンスの有効期限が切れていて、ライセンス資格が IBM System Configuration Server でアクティブ化されていない場合、IBM Configuration Pack Editor は、ライセンス資格をアクティブ化するように求めるメッセージ・ボックスを表示します。

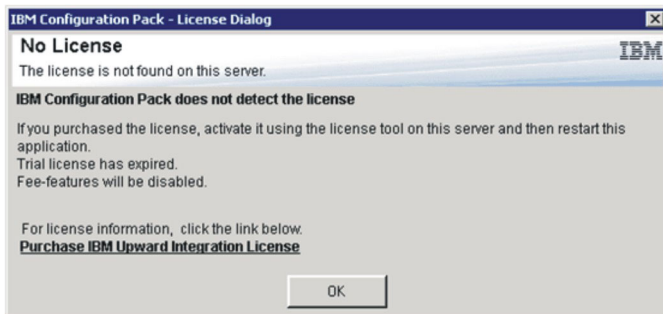


図 8. 「ライセンスがありません」ダイアログ・ボックス

IBM Configuration Pack Editor は、次のウィンドウを表示します。

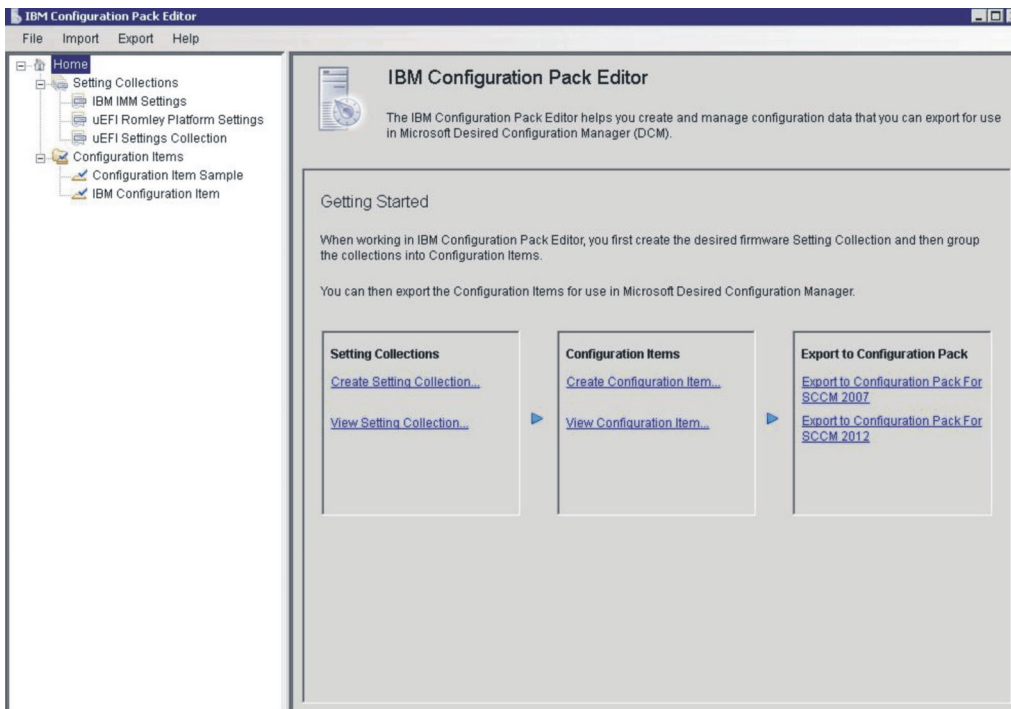


図 9. IBM Configuration Pack Editor のメイン・ウィンドウ

ウィンドウの左側のナビゲーション・ペインには、以下の項目が含まれています。

- 「ホーム」ツリー
- 設定コレクション・ツリー
- 「構成項目」ツリー

ホーム・ページ

このホーム・ページには、IBM Configuration Pack Editor の使用を開始する際の手引きとなる次の 3 つの連続した領域が示されています。

- 「設定コレクション」リスト
- 構成項目
- Export to IBM Configuration Pack

「設定コレクション」ペイン

このボックスには、「設定コレクションの作成」と「設定コレクションの表示」という 2 つのリンクがあります。

- 「設定コレクションの作成」をクリックすると、IMM/uEFI 設定コレクションを作成できるウィザードが開きます。
- 「設定コレクションの表示」をクリックすると、「設定コレクション」のツリー項目が表示されます。このツリー項目から既存の設定コレクションを表示できます。

設定コレクションの作成

このタスクについて

手順

1. 設定コレクションの名前と説明を入力し、「次へ」をクリックします。

注: 「名前」フィールドに名前は必須ですが、説明はオプションです。

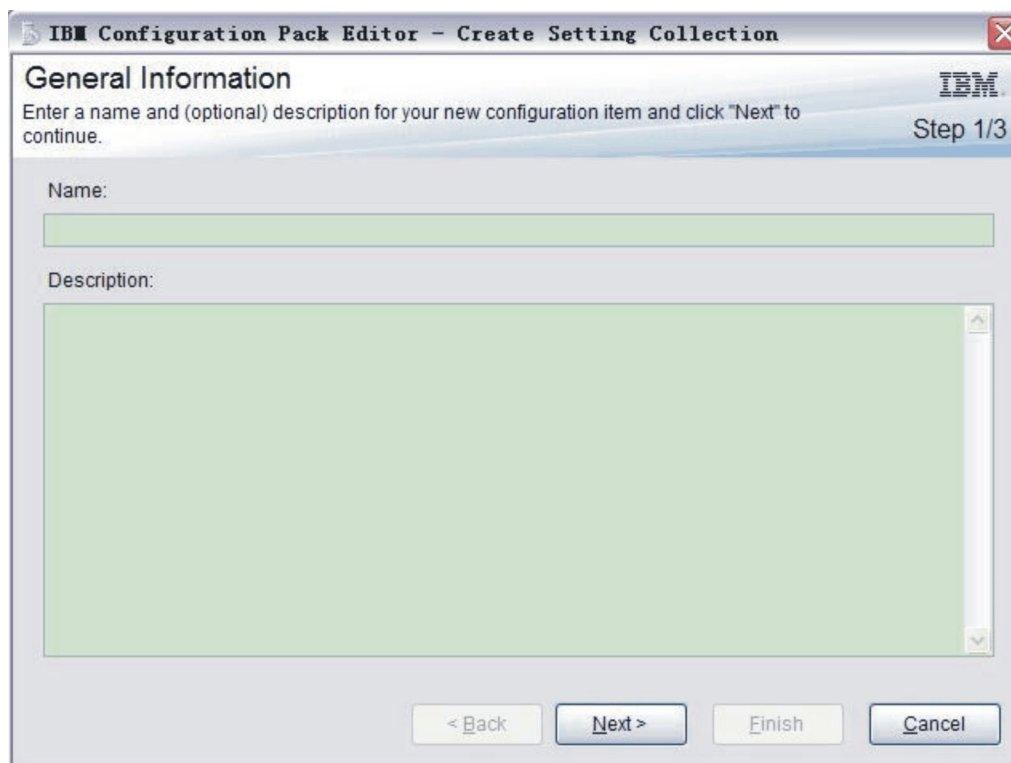


図 10. 「General Information」ウィンドウ

2. 新しい設定コレクションの設定タイプを選択します。

注: 設定値の型は、作成後に変更することはできません。

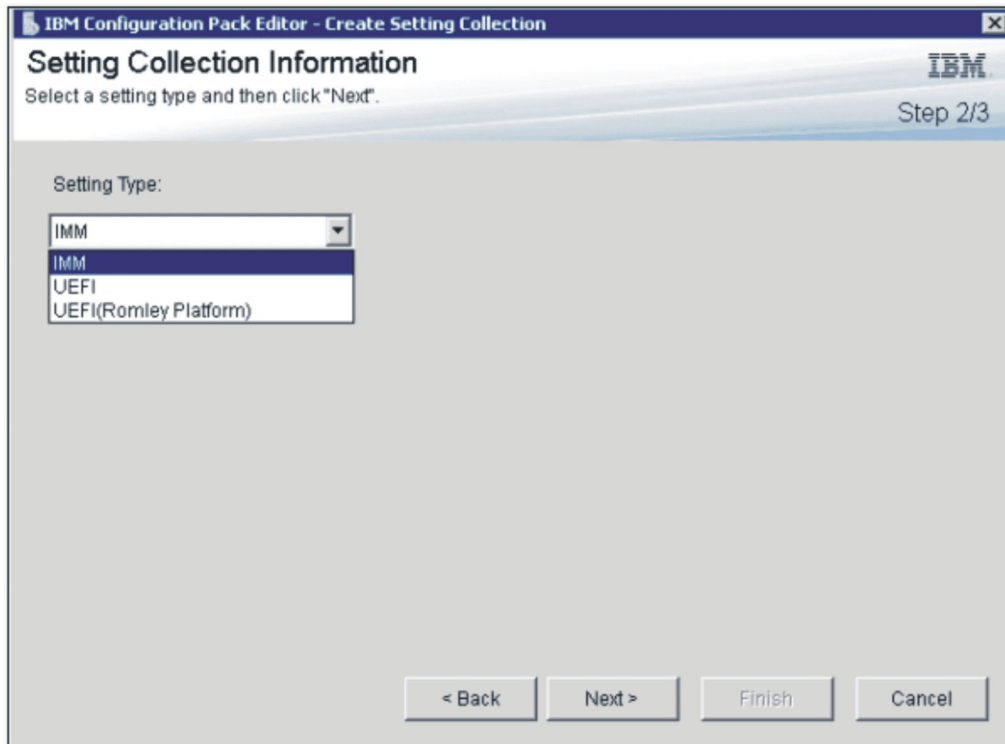


図 11. 「設定コレクションの情報」ウィンドウ

3. 「次へ (Next)」をクリックします。「プロパティーしきい値」ページが開きます。

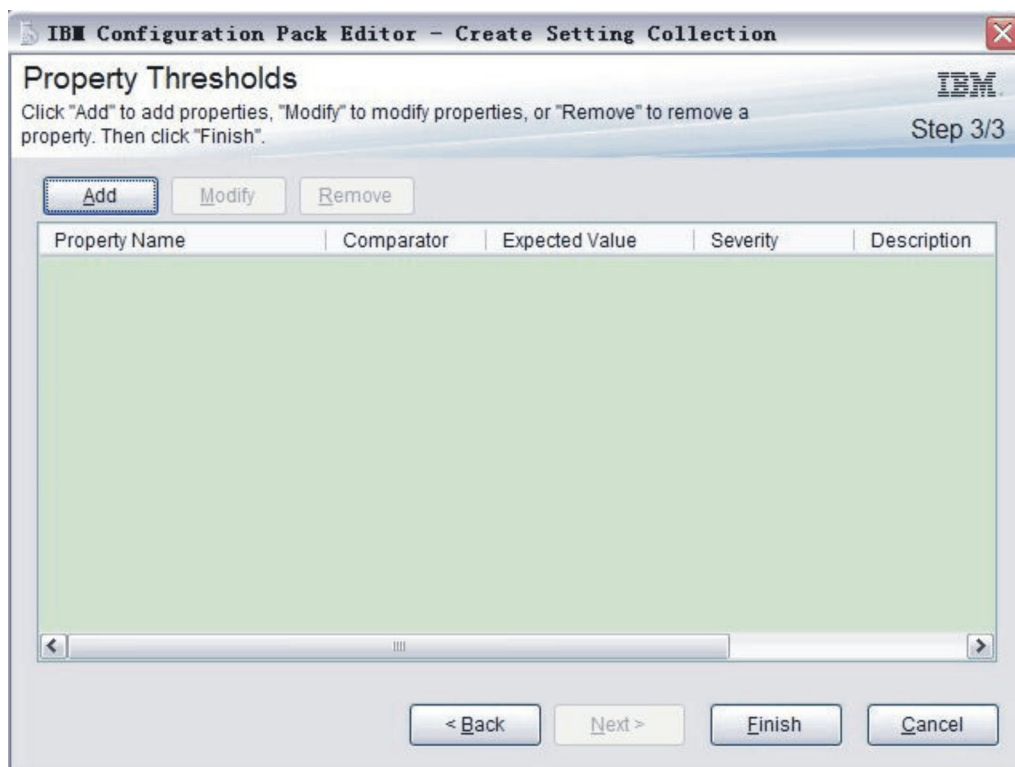


図 12. 「Property Thresholds」 ページ

4. 「Add」をクリックして新しいプロパティしきい値を追加します。「設定エディター」ウィンドウが開きます。

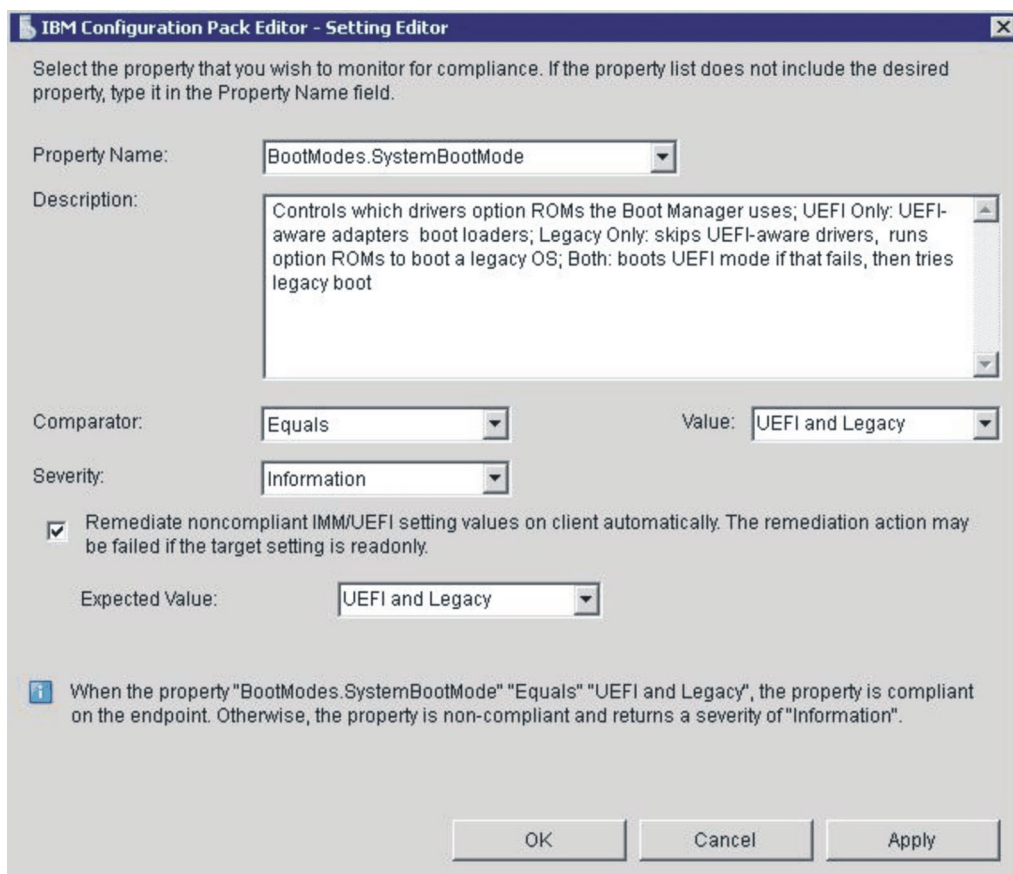


図 13. 「Setting Editor」 ウィンドウ

5. 以下のフィールドに入力します。

- **プロパティ名:** (「コレクション情報の選択 (Selecting Collection Information)」ウィンドウの「設定タイプ」で以前に選択した内容に応じて) 特定の IMM、UEFI、または UEFI (Romley プラットフォーム) 設定を選択します。
- **コンパレーター:** リストの各プロパティ名には、String、Integer、Version、Data Time などの戻りの型が関連付けられます。そのため、次の表に示されているリスト項目からコンパレーターを選択する必要があります。

表 1. 戻りの型別の比較演算子

戻りの型	コンパレーター	説明
String	等しい	評価プロパティーが Expected Value に等しい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	等しくない	評価プロパティーが Expected Value に等しくない場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	含む	評価プロパティーが Expected Value を包含している場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	いずれか	評価プロパティーが「予測値」にリストされているいずれかの値である場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。

表 1. 戻りの型別の比較演算子 (続き)

戻りの型	コンパレーター	説明
Integer	等しい	評価プロパティーが Expected Value に等しい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	等しくない	評価プロパティーが Expected Value に等しくない場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	小	評価プロパティーが Expected Value より小さい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	以下	評価プロパティーが「予測値」以下である場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	より大	評価プロパティーが Expected Value より大きい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	以上	評価プロパティーが Expected Value 以上である場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。

表 1. 戻りの型別の比較演算子 (続き)

戻りの型	コンパレーター	説明
Version	等しい	評価プロパティーが Expected Value に等しい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	等しくない	評価プロパティーが Expected Value に等しくない場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	小	評価プロパティーが Expected Value より小さい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	以下	評価プロパティーが「予測値」以下である場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	より大	評価プロパティーが Expected Value より大きい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	以上	評価プロパティーが Expected Value 以上である場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。

表 1. 戻りの型別の比較演算子 (続き)

戻りの型	コンパレーター	説明
Data Time	等しい	評価プロパティーが Expected Value に等しい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	等しくない	評価プロパティーが Expected Value に等しくない場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	小	評価プロパティーが Expected Value より小さい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	以下	評価プロパティーが「予測値」以下である場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	より大	評価プロパティーが Expected Value より大きい場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。
	以上	評価プロパティーが Expected Value 以上である場合、そのプロパティーはエンドポイントで準拠しています。そうでない場合、そのプロパティーは準拠していません。

- **Severity:** Information、Warning、Error の 3 つのレベルのいずれかを選択します。設定がエンドポイント上の予測値に準拠していない場合は、その設定から、選択された重大度レベルが返されます。

設定の後、「選択の要約」において、対応する**プロパティー・フィールド**、**値フィールド**、**コンパレーター・フィールド**、および**重大度フィールド**が自動的に入力されます。

注: プロパティー・サポート・リストに存在しないプロパティーを入力できますが、IBM Configuration Pack Editor はそのプロパティーを String 型であるとみなします。つまり、「コンパレーター」には、「Equals」、「Not

Equals」、「Contains」、および「One Of」のみがリストされます。その場合でも、プロパティの予測値を入力する必要があります。

さらに、「設定コレクション」には、重複する値を設定できます。

6. 新しいプロパティしきい値の追加が完了したら、「Apply」をクリックします。

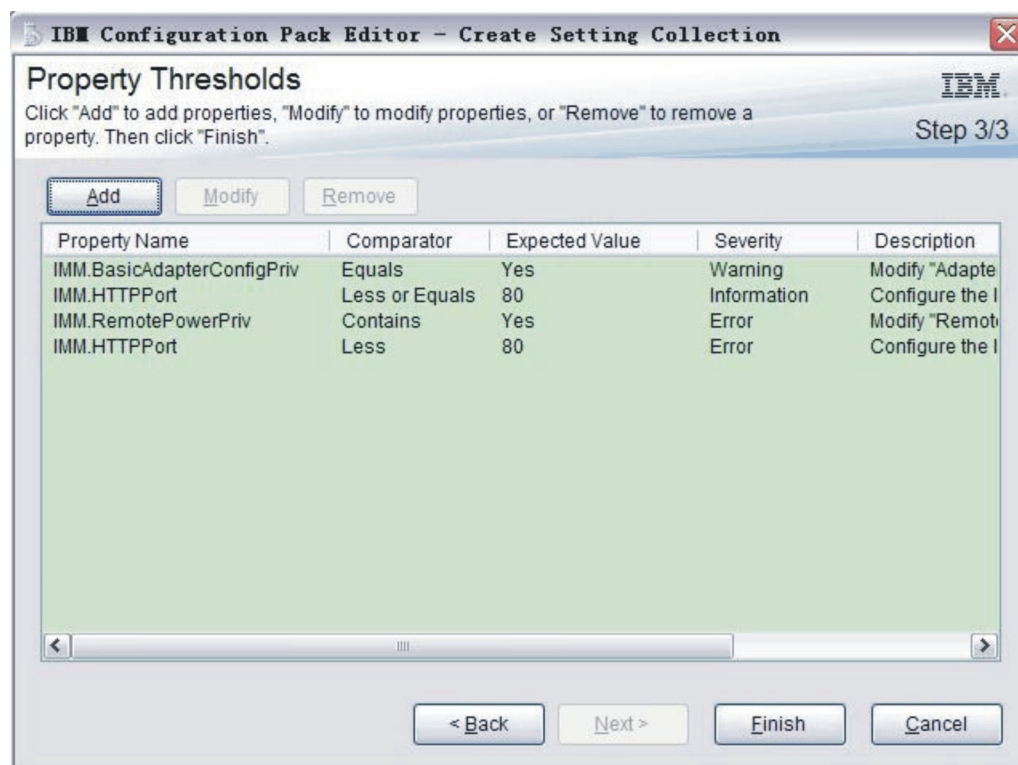


図 14. 「プロパティしきい値」ウィンドウ

7. 設定を変更するには、設定を選択して「変更」をクリックするか、または単に設定をダブルクリックします。設定を削除するには、1 つ以上の行項目を選択して「除去」をクリックします。

設定コレクションの表示

このタスクについて

「設定コレクションの表示」をクリックすると、右ペインに「設定コレクション」リストが表示されます。

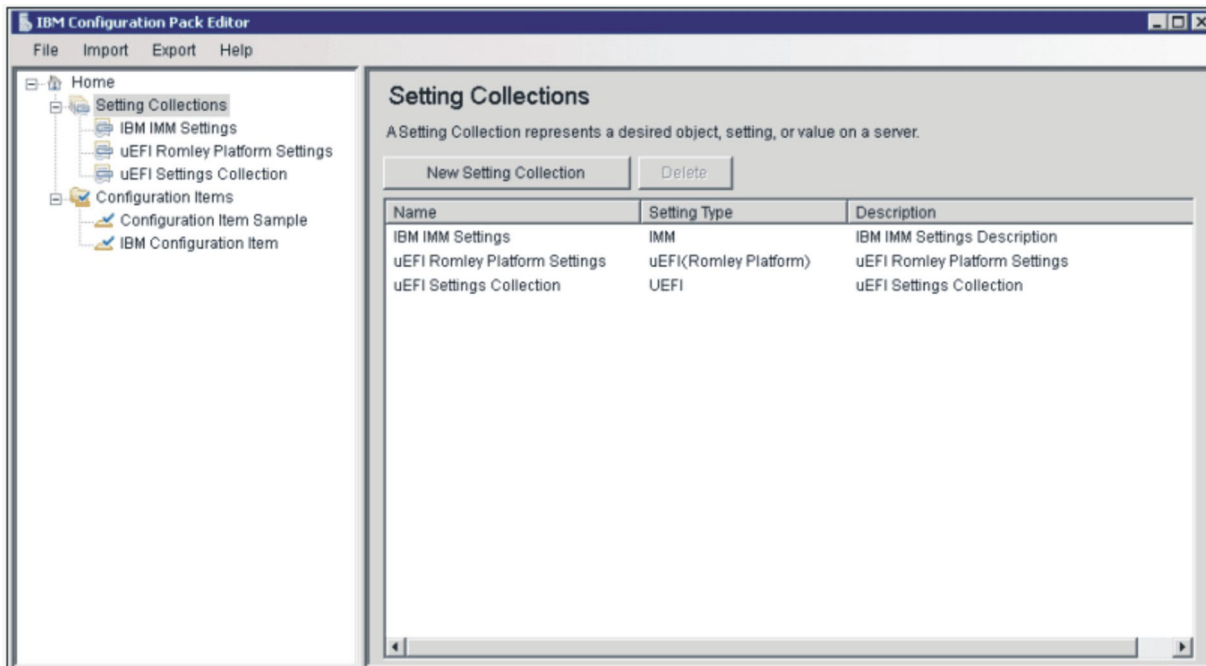


図 15. 「設定コレクション・リスト (Setting Collection List)」 ウィンドウ

手順

- 新規設定コレクションを作成するには、「設定コレクション」ツリー項目を右クリックするか、または「新規設定コレクション」をクリックします。
- 設定コレクションを削除するには、リストにある 1 つ以上の項目を選択して、「削除」をクリックするか、または **Delete** キーを押します。
- 設定コレクションを選択して、そのプロパティを表示または編集します。

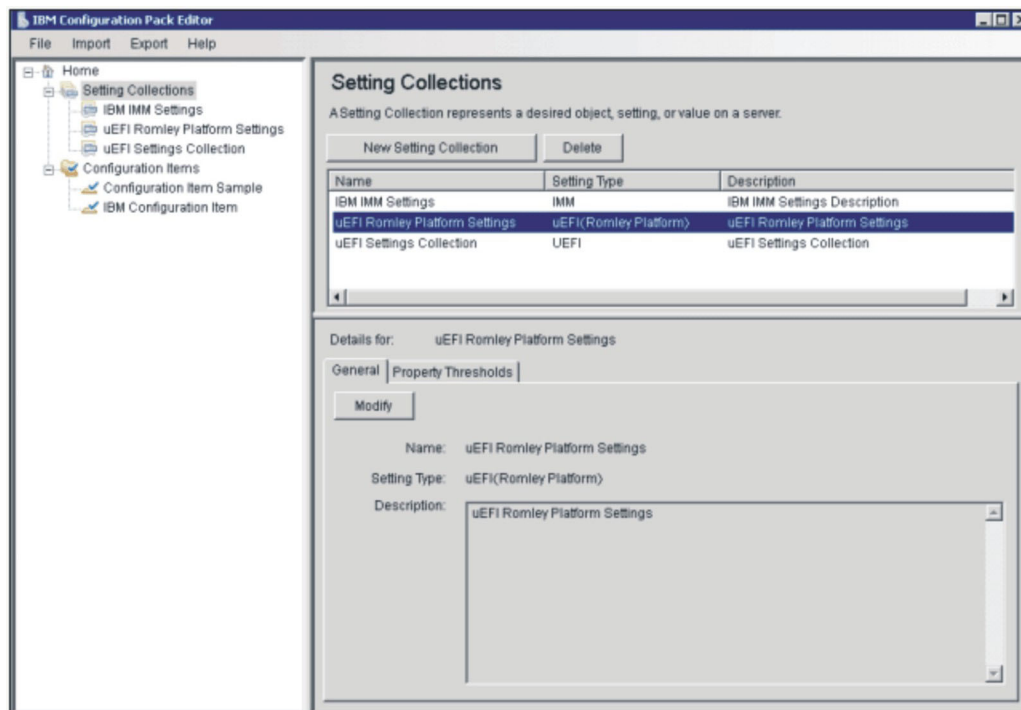


図 16. 設定コレクションのプロパティ

設定コレクションの編集: このタスクについて

設定コレクションは、手順に従って編集します。

手順

設定コレクションを編集するには、以下の手順に従います。

1. 「全般」タブで「変更」をクリックします。「一般情報」ウィンドウが開きます。

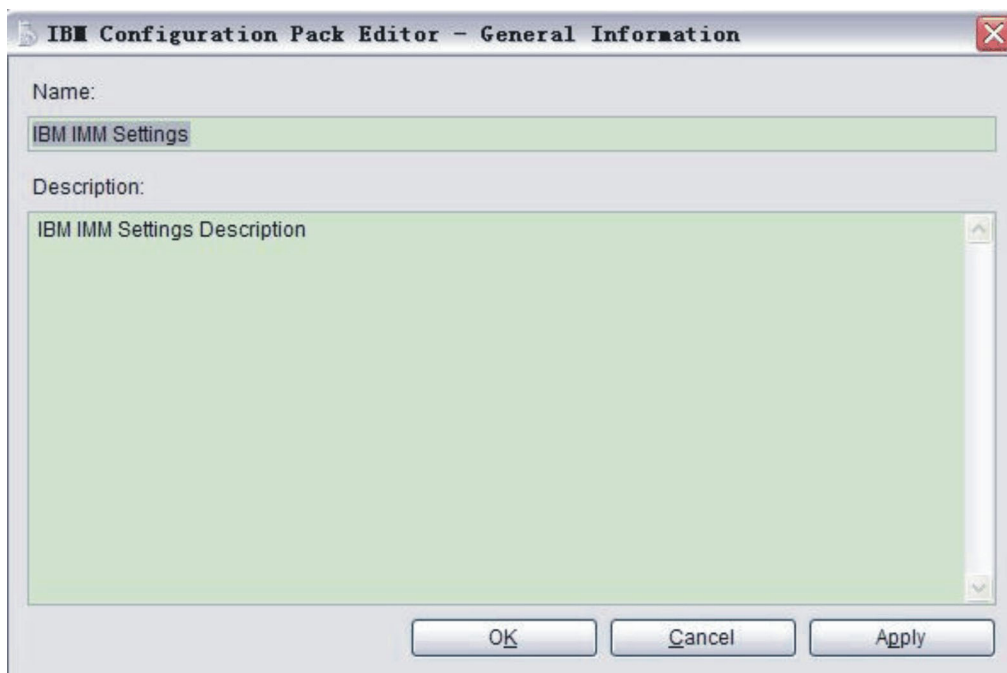


図 17. 「General Information」 ウィンドウ

2. この設定コレクションの「**Name**」フィールドおよび「**Description**」フィールドを編集します。コレクションの「名前」および「詳細」は変更できますが、「設定タイプ」は変更できません。
3. 「プロパティしきい値」タブをクリックします。選択された設定コレクションの既存プロパティしきい値がリストで表示されます。

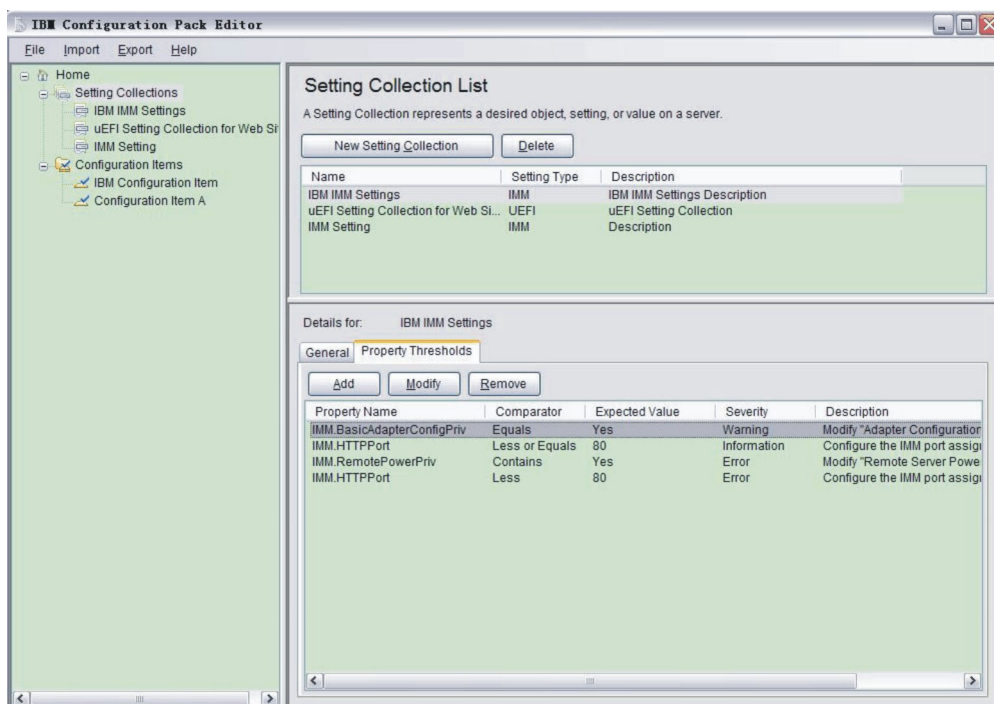


図 18. 「Property Thresholds」 タブ

4. 変更するタイプに応じて、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - プロパティ値に設定を追加するには、「追加」をクリックします。
 - 選択したプロパティ値を編集するには、「変更」をクリックします。
 - 選択したプロパティ値を削除するには、「除去」をクリックします。

注: 他の構成項目でも使用されている設定コレクションは削除されると、他の構成項目からも除去されます。

設定コレクションの複製: このタスクについて

設定コレクションを複製するには、設定コレクションリスト・ビューまたは設定コレクションツリー・ビューで任意の設定コレクションを右クリックします。

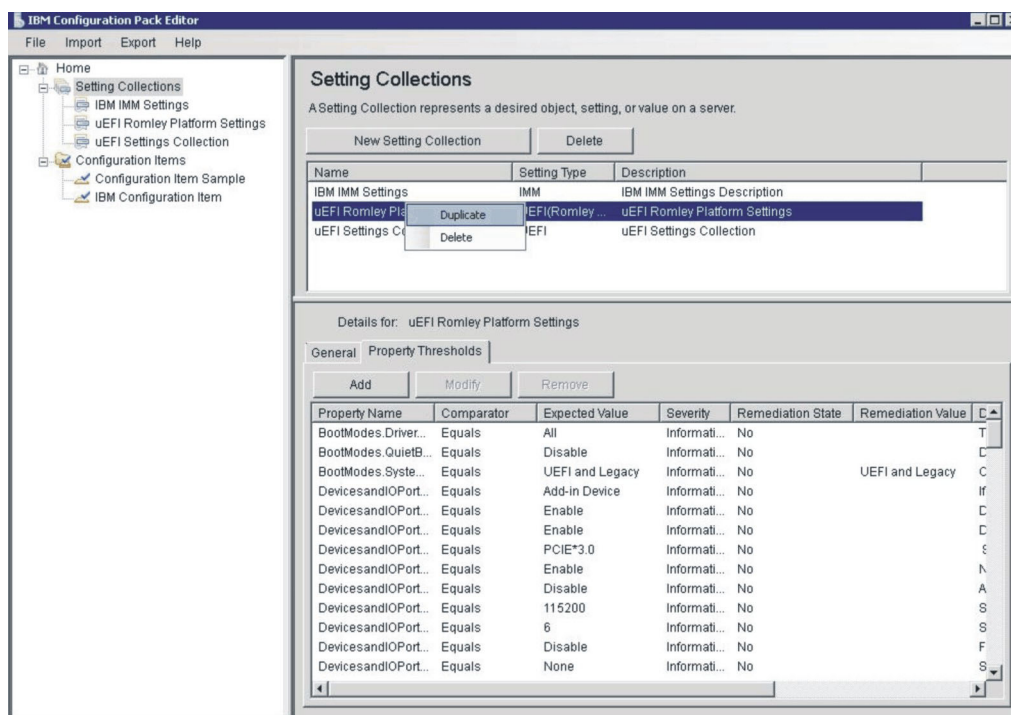


図 19. 複製機能

「Duplication Dialog」が表示されます。

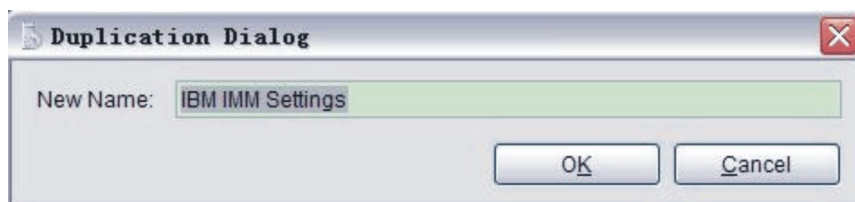


図 20. 「複製」ダイアログ・ウィンドウ

複製設定コレクションの名前を「新しい名前」フィールドに入力します。

注: 複製の設定コレクションの名前は、既存の設定コレクションと同じ名前でもかまいません。しかし、複製の設定コレクションには異なる名前を使用することをお勧めします。また、他の構成項目で使用されている設定コレクションを複製して

も、新たに作成された複製設定コレクションは、その構成項目から参照されません。

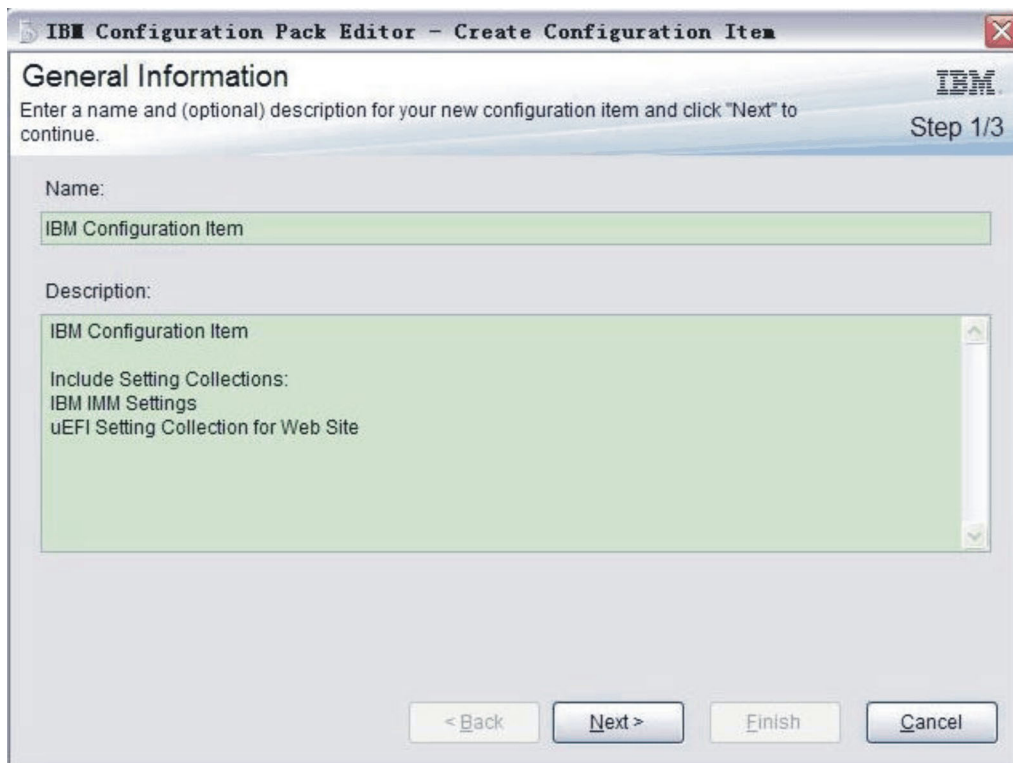
「構成項目」リスト・ペイン

「構成項目」ペインでは、以下のオプションを使用するなどして、構成項目を作成したり表示したりできます。

- 構成項目の作成
- 構成項目の表示

構成項目の作成 手順

1. 「構成項目の作成」をクリックします。構成項目の作成手順を案内するウィザードが開きます。



IBM Configuration Pack Editor - Create Configuration Item

General Information IBM Step 1/3

Enter a name and (optional) description for your new configuration item and click "Next" to continue.

Name:
IBM Configuration Item

Description:
IBM Configuration Item

Include Setting Collections:
IBM IMM Settings
uEFI Setting Collection for Web Site

< Back Next > Finish Cancel

図 21. 「General Information」ウィンドウ

2. 構成項目の名前と説明を入力します。

注: 「名前」フィールドは必須ですが、「詳細」フィールドはオプションです。

3. 「次へ (Next)」をクリックします。「IMM 情報 (IMM Information)」ウィンドウが開きます。

IBM Configuration Pack Editor - Create Configuration Item

IMM Information

Enter the user ID and password, and specify the location of the asu.exe file on the endpoint.
Click "Next" to continue.

Step 2/3

IMM Information

UserID
UserID

Password
***** ✓

Confirm Password
***** ✓

Specify the location of the asu.exe file on the endpoint
C:\IBM\ASUWin32\asu.exe

< Back Next > Finish Cancel

図 22. 「IMM Information」ウィンドウ

4. ターゲット・サーバー上の IMM のユーザー ID とパスワードを入力します。

注: ターゲット IMM 上でデフォルト・アカウントが使用されている場合、ユーザー ID とパスワードは必須ではありません。IBM Configuration Pack Editor は、ユーザー ID とパスワードが正しいかどうかを検査しません。

5. 「エンドポイントでの asu.exe ファイルのロケーションを指定します」というラベルが付いたフィールドに、ターゲット・サーバー上の ASU.exe ファイルへの絶対パスを入力します。ASU.exe ファイルを起動して設定を検出するために、このパスがコレクションの設定で使用されます。正しいパスが入力されない場合は、設定により、次の図に示された通知に従って ASU.exe ファイルの検出が試みられます。

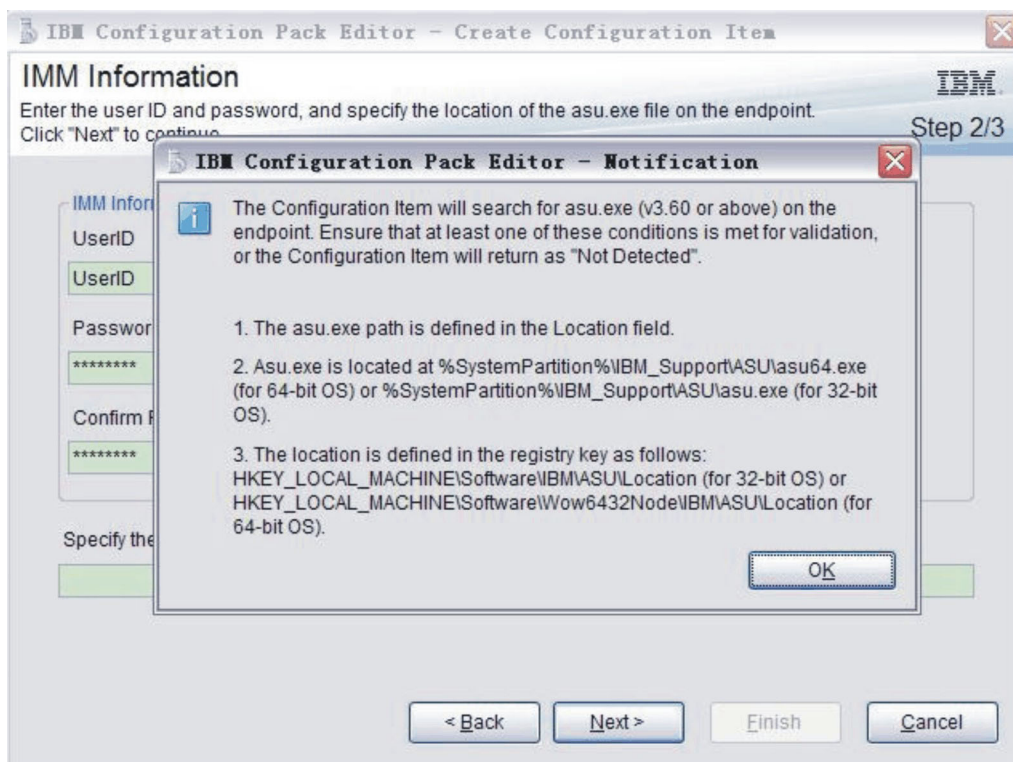


図 23. Asu.exe 検出通知ウィンドウ

6. 「次へ (Next)」をクリックします。「構成項目」ウィンドウが開きます。

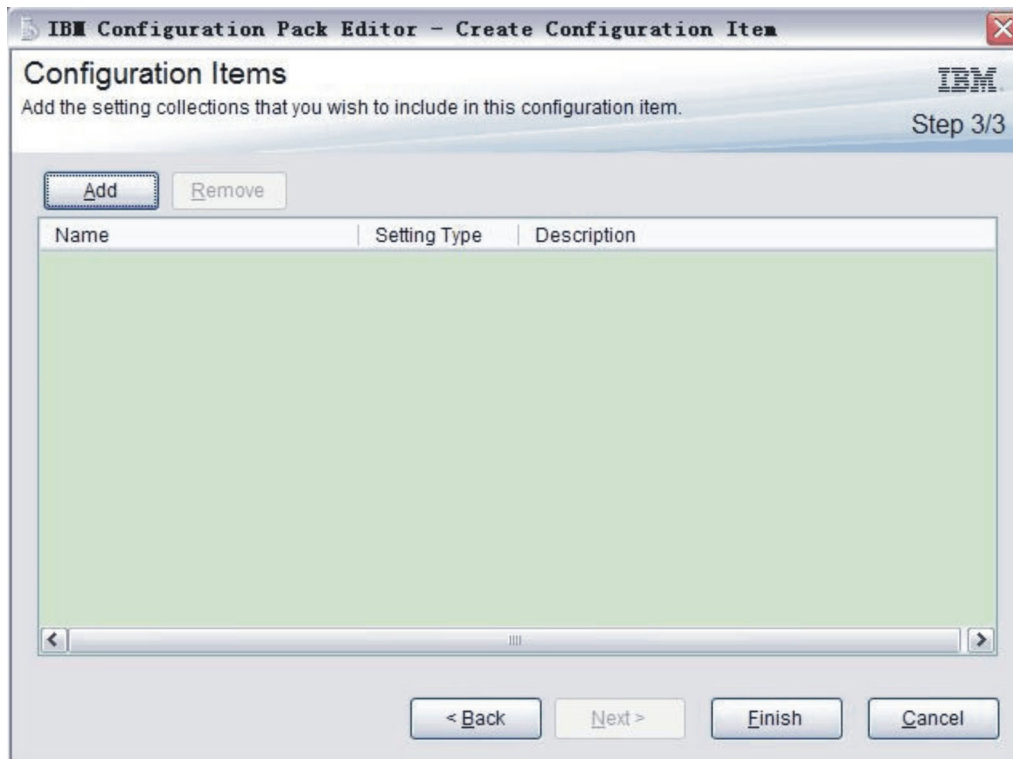


図 24. 「設定コレクションの追加」ウィンドウ

7. 「追加」ボタンを使用して、既存の設定コレクションを構成項目に追加します。「設定コレクションの追加」ウィンドウが開きます。

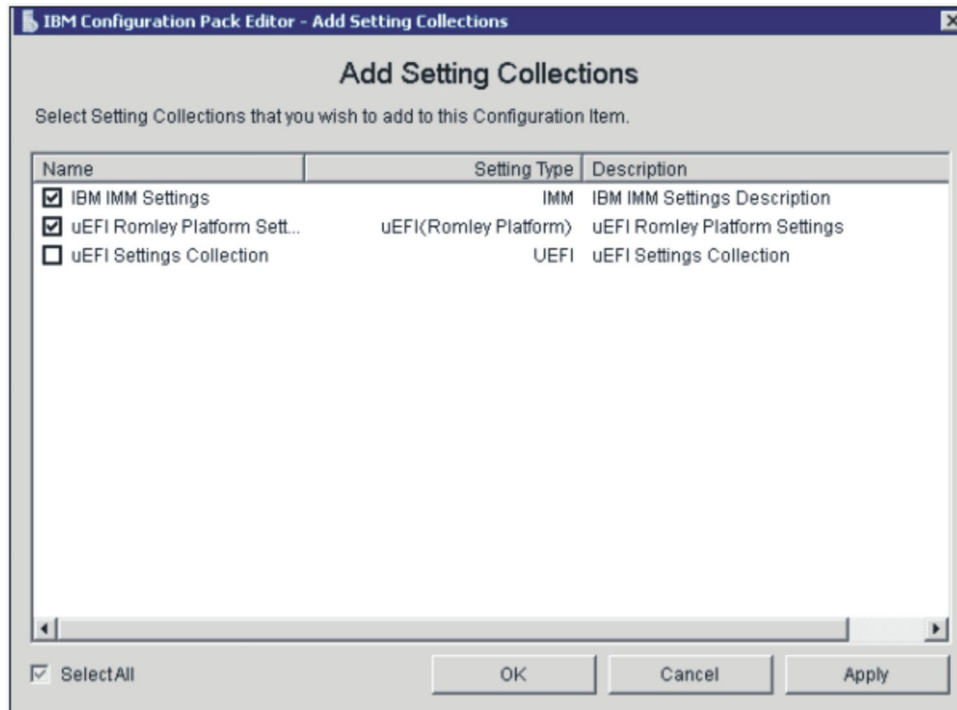


図 25. 「設定コレクション」選択ウィンドウ

8. 構成項目に追加する設定コレクションに対応するチェック・ボックスを選択し、「OK」をクリックします。

注: 1 つの設定コレクションを複数の構成項目で使用できます。

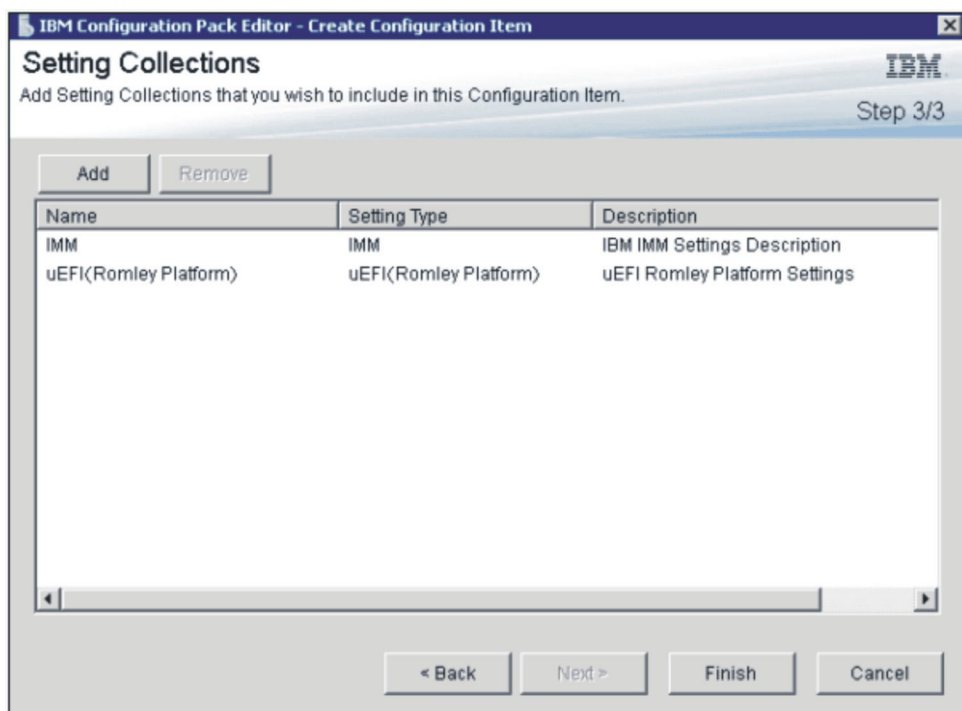


図 26. 「設定コレクションの追加」ウィンドウとリスト項目

9. 設定コレクションを構成項目から除去するには、リストで 1 つ以上の設定コレクションを選択し、「除去」をクリックします。

注: 「除去」をクリックすると、選択された設定コレクションは現行構成項目から削除されますが、設定コレクションはこのリストからは削除されません。

10. 「完了」をクリックします。

構成項目の表示

手順

1. 「構成項目の表示」をクリックします。「構成項目」ウィンドウが開きます。

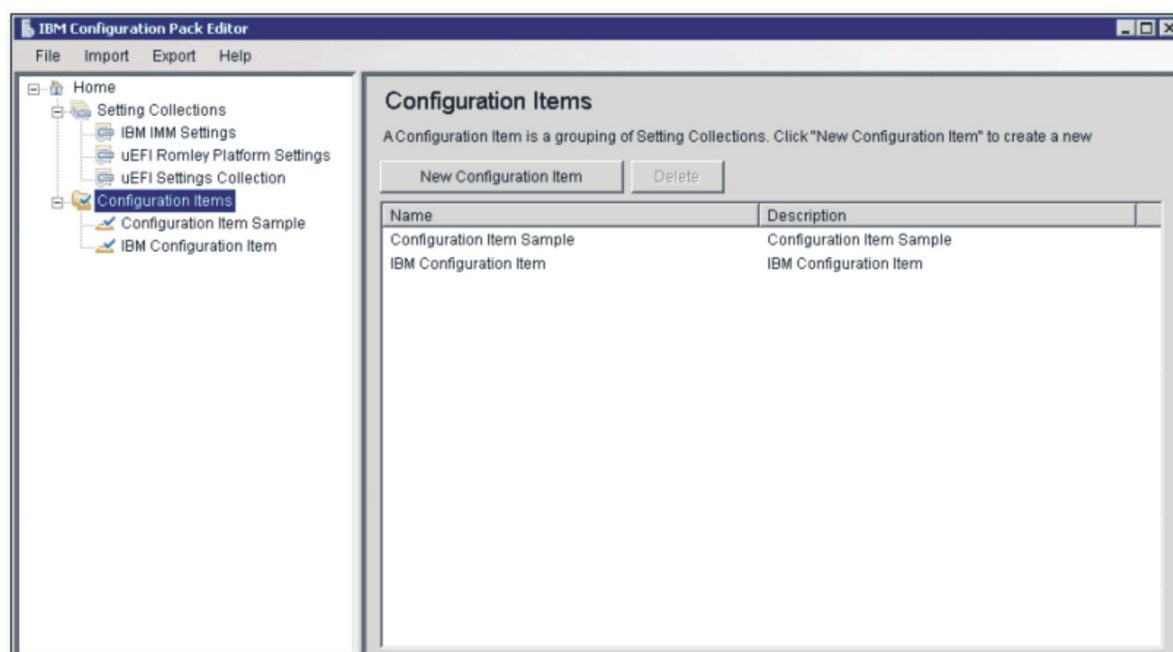


図 27. 「構成項目」ウィンドウ

2. 新規構成項目を作成するには、「設定コレクション」ツリー項目を右クリックするか、または「新規構成項目」をクリックします。

構成項目を選択してプロパティを表示または編集します。

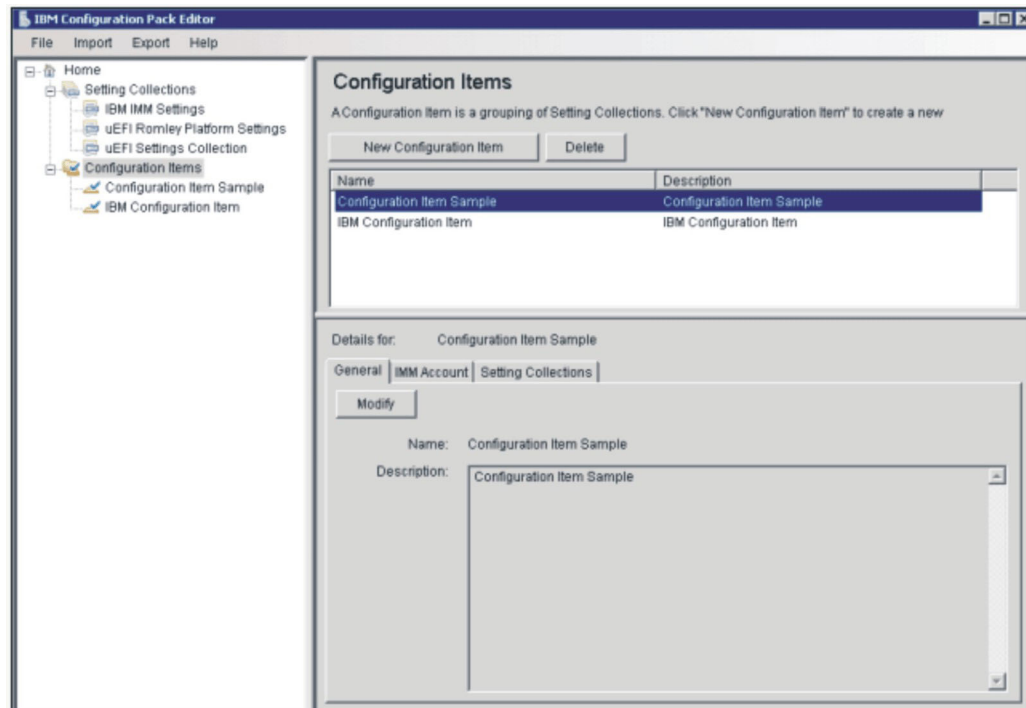


図 28. 構成項目のプロパティ

構成項目の編集

手順

1. 「全般」タブで「変更」をクリックします。「一般情報」ウィンドウが開きます。

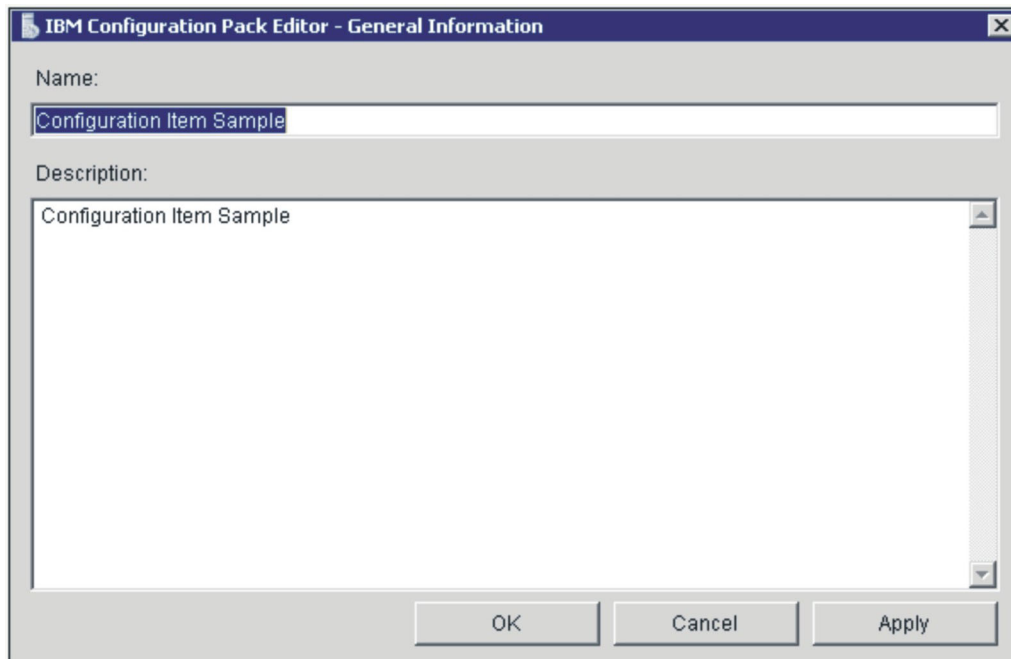


図 29. Configuration Pack Editor - 「一般情報」ウィンドウ

2. 対象となる構成項目の「名前」フィールドおよび「詳細」フィールドを編集します。
3. 「IMM Account」タブをクリックします。ウィンドウが表示され、「構成項目」ペインが示されます。

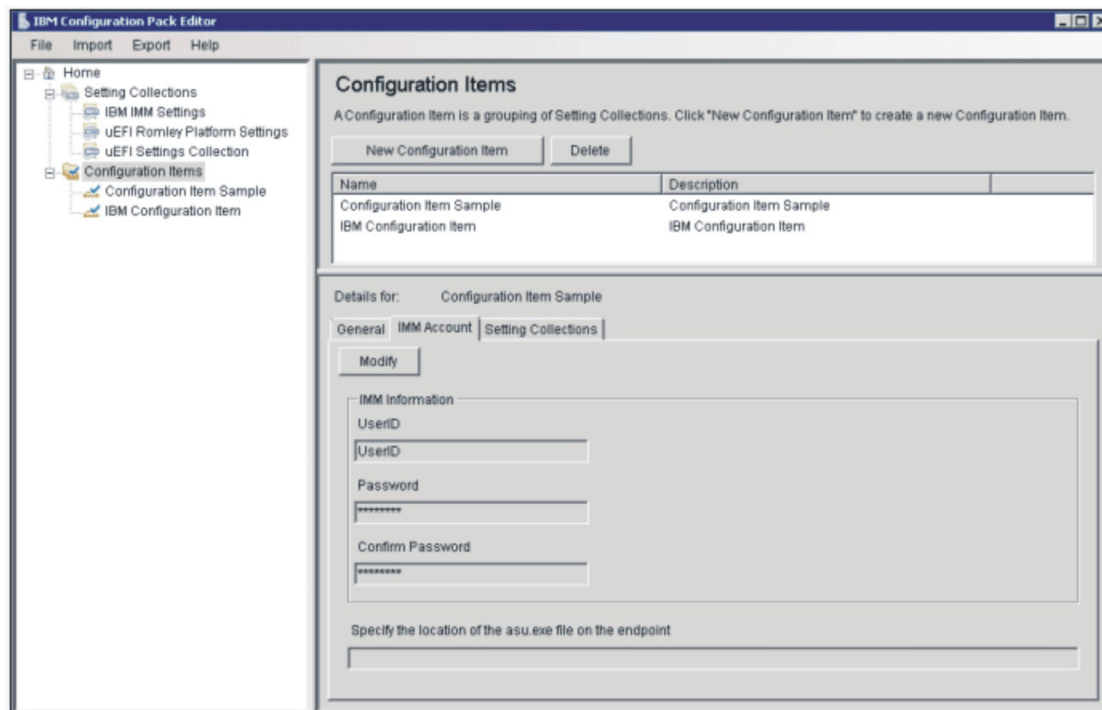


図 30. 「IMM Account」タブ

4. 「変更」をクリックして、ターゲット・サーバー上の IMM のユーザー ID とパスワードを入力します。

注: IBM Configuration Pack Editor は、ユーザー ID とパスワードが正しいかどうかを検査しません。エラーをなくすために、デフォルト・アカウントを使用することをお勧めします。

5. 「エンドポイントでの asu.exe ファイルのロケーションを指定します」というラベルが付いたフィールドに、ターゲット・サーバー上の ASU.exe ファイルへの絶対パスを入力します。ASU.exe ファイルを起動して設定を検出するために、このパスがコレクションの設定で使用されます。正しいパスが入力されなかった場合は、下の図に示されたウィンドウで指定されているように、設定により ASU.exe ファイルの検出が試みられます。

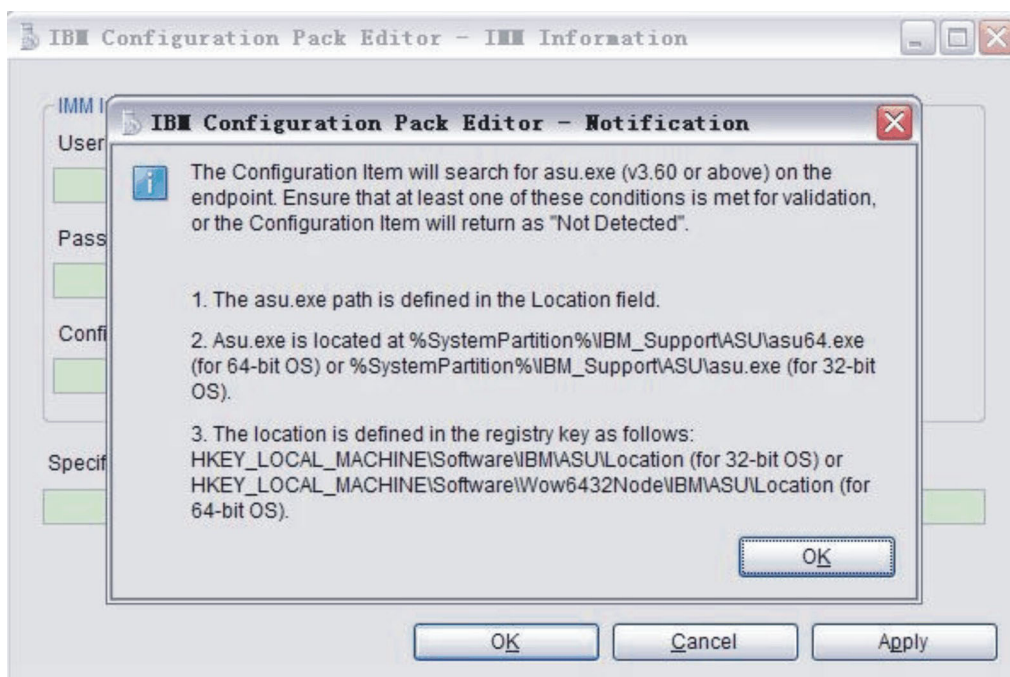


図 31. Asu.exe 検出通知ウィンドウ

6. 「設定コレクション」タブをクリックします。

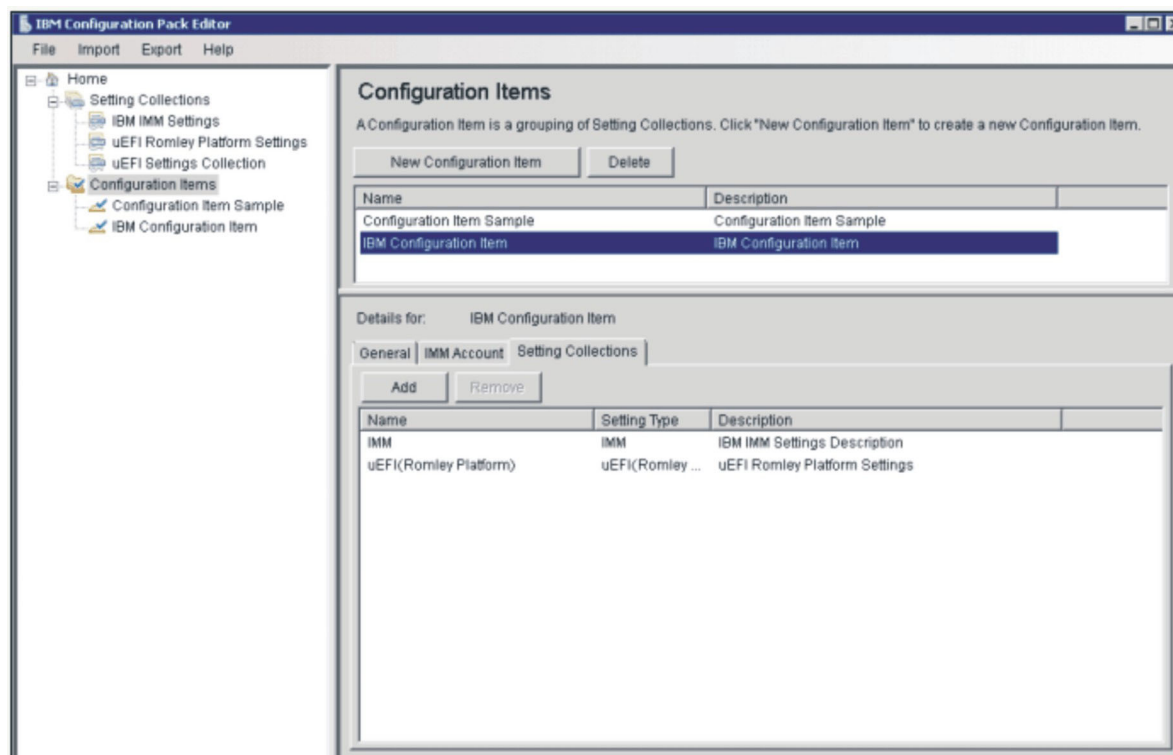


図 32. 「設定コレクション」タブ

7. 「追加」ボタンをクリックして、既存の設定コレクションを構成項目に追加します。「設定コレクションの追加」ウィンドウが開きます。

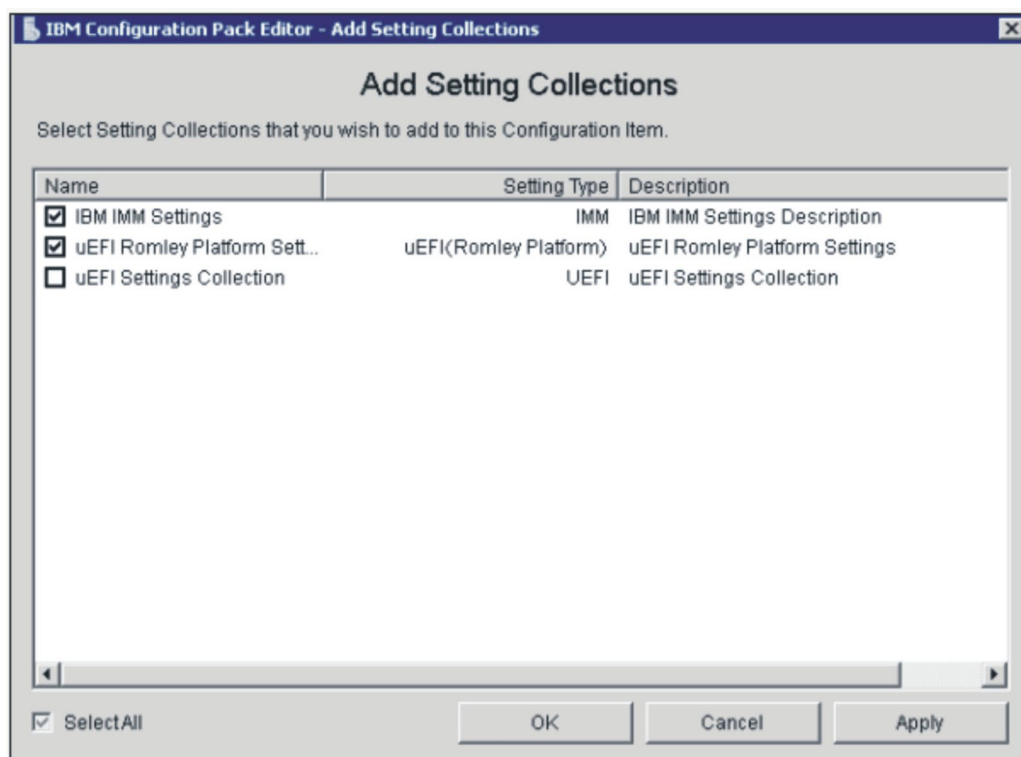


図 33. 「設定コレクションの追加」選択ウィンドウ

8. 構成項目に追加する設定コレクションに対応するチェック・ボックスを選択し、「OK」をクリックします。

注: 1 つの設定コレクションを複数の構成項目で使用できます。

9. 設定コレクションを構成項目から除去するには、リスト・ビューで 1 つ以上の設定コレクションを選択し、「除去」をクリックします。

注: 「除去」をクリックすると、選択された設定コレクションは現行構成項目から削除されますが、設定コレクションは他の構成項目からは削除されません。

構成項目の複製

このタスクについて

構成項目を複製するには、構成項目リスト・ビューまたは構成項目ツリー・ビューで任意の構成項目を右クリックします。

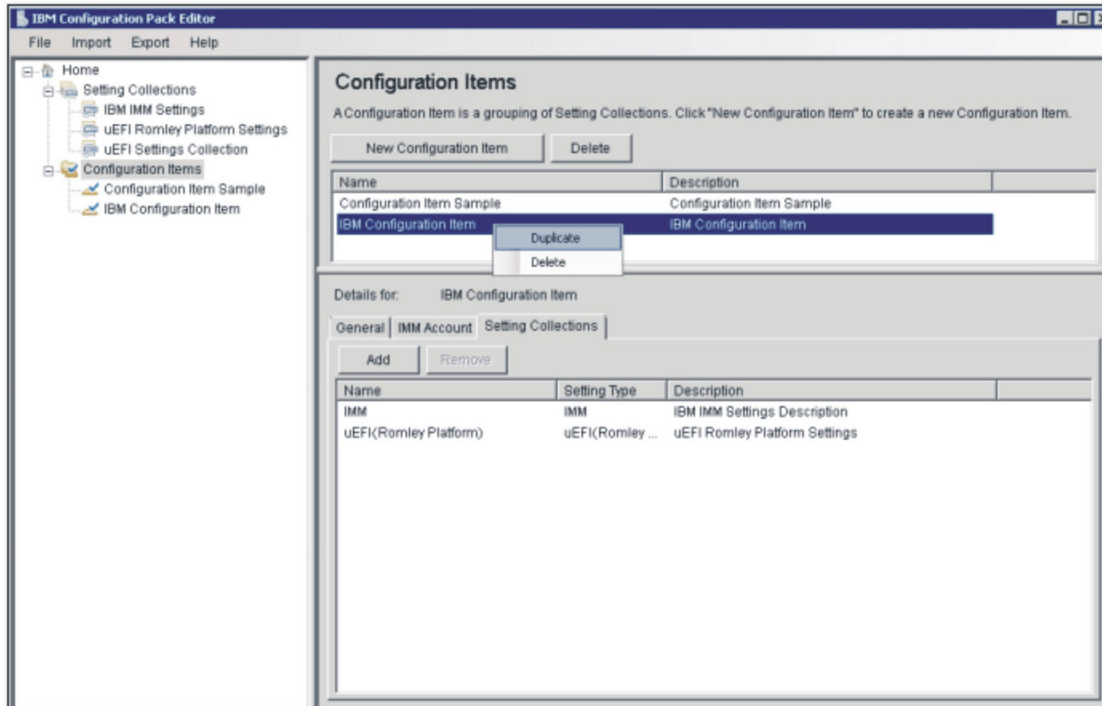


図 34. 構成項目の複製機能

「複製」ダイアログ・ウィンドウが開きます。

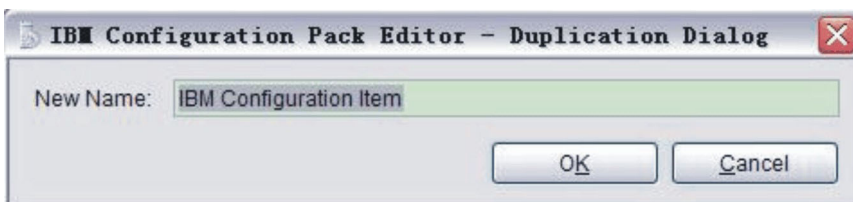


図 35. 「複製」ダイアログ・ウィンドウ

複製構成項目の名前は既存の構成項目と同じにすることができますが、別の名前を使用することをお勧めします。

注: 構成項目が複製された後、新しい複製構成項目はソース構成項目の同じ設定コレクションを参照します。

構成項目の削除

このタスクについて

構成項目を削除するには、リスト・ビューで構成項目を選択し、「削除」をクリックするか、または選択した構成項目を右クリックして「削除」を選びます。

注: 削除対象の構成項目の子設定コレクションは削除されません。

構成の説明ファイルに構成データをエクスポート

このタスクについて

管理者が構成データを作成して共有できるようにするには、**構成項目**とその子設定コレクションを構成の説明 .xml ファイルにエクスポートします。

手順

1. Configuration Pack Editor で「エクスポート」 > 「構成ファイル」をクリックします。

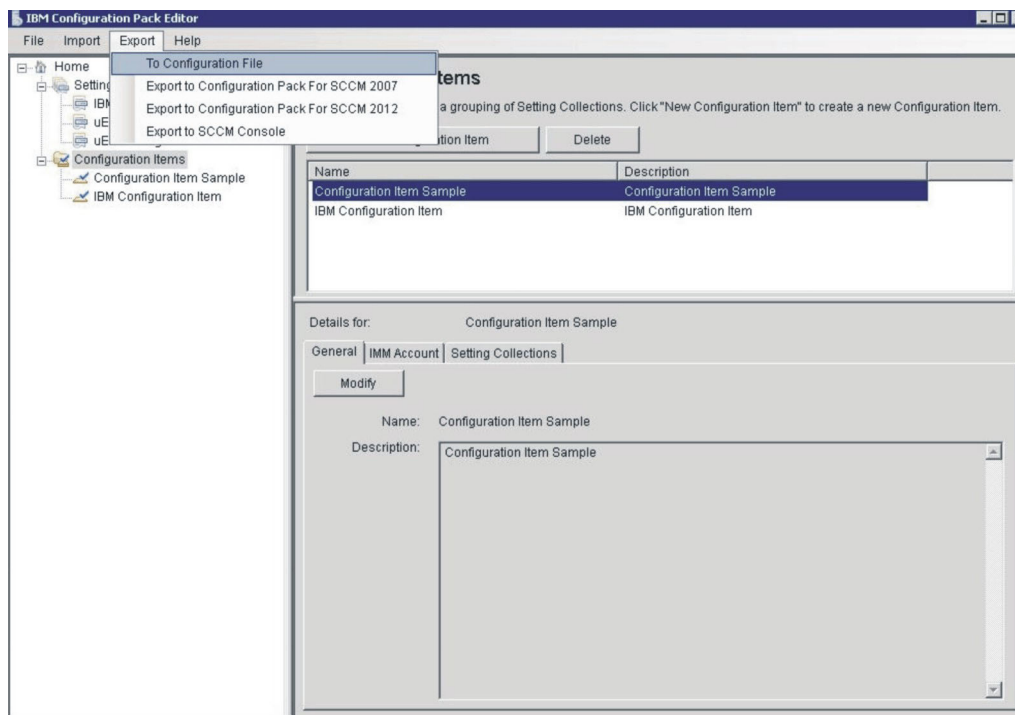


図 36. 構成ファイルへのエクスポート

「構成の説明 (.xml) にエクスポート」ウィンドウが開きます。

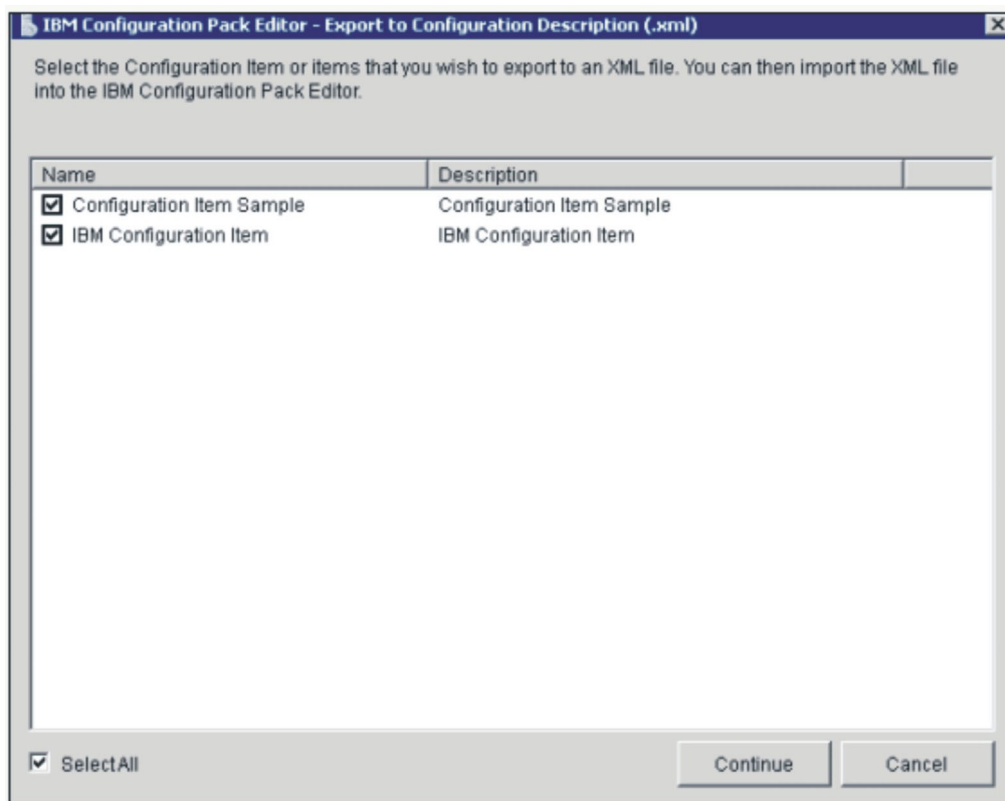


図 37. 「構成の説明 (.xml) にエクスポート」 ウィンドウ

2. エクスポートする構成項目に対応するチェック・ボックスを選択します。選択された構成項目の子設定コレクションも自動的にエクスポートされます。
3. 「**Continue**」をクリックします。ファイル・ナビゲーション・ウィンドウが開きます。

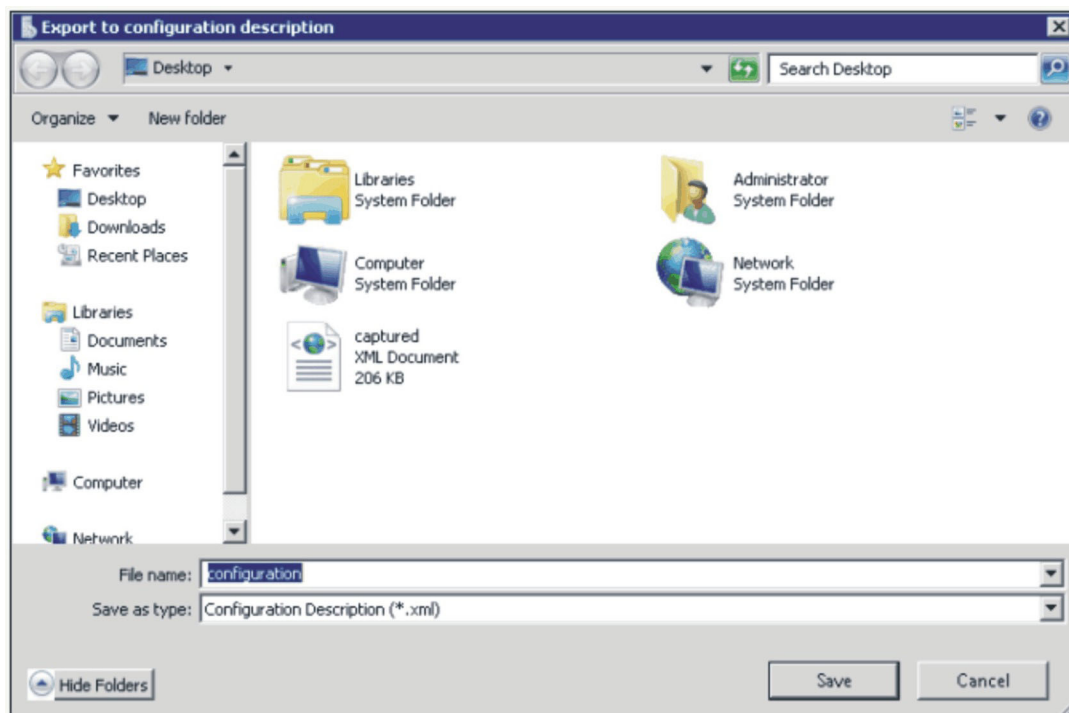


図 38. 「構成の説明ファイルにエクスポート (Export to configuration description file)」ウィンドウ

4. 構成の説明 .xml ファイルの名前を入力して、「OK」をクリックします。
5. ウィンドウが開き、エクスポートが正常に完了したことが示されます。「OK」をクリックします。

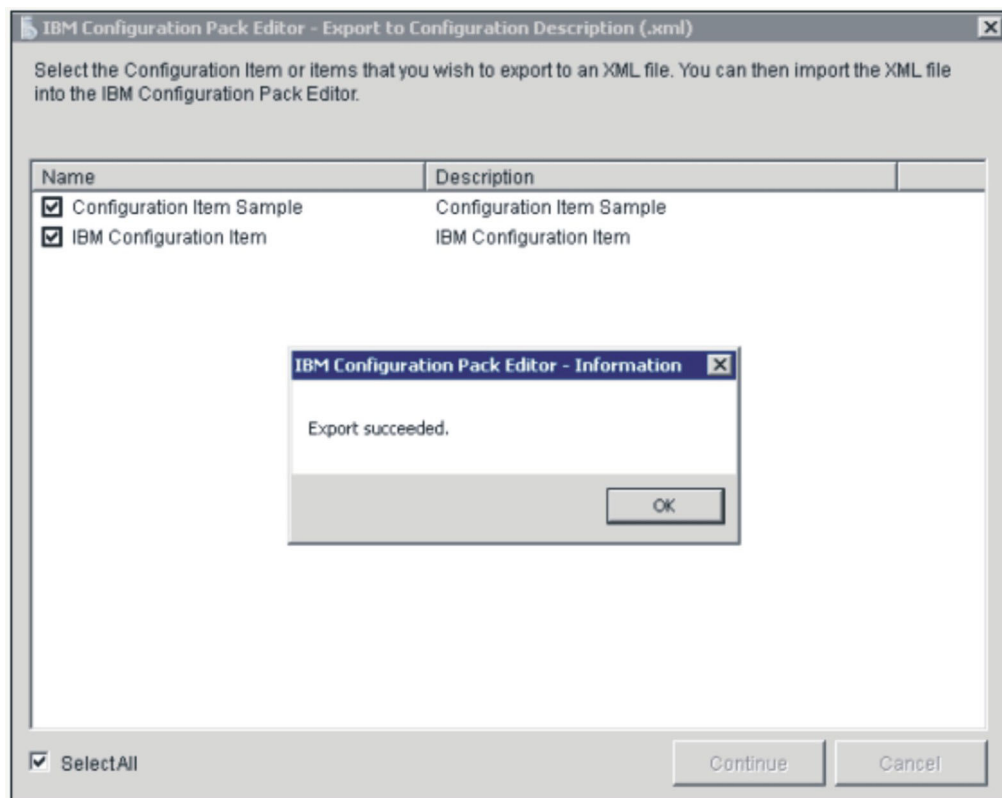


図 39. 「エクスポートが正常に完了しました」ウィンドウ

構成の説明 .xml ファイルのインポート

手順

1. Configuration Pack Editor で「インポート」 > 「構成ファイル」をクリックします。

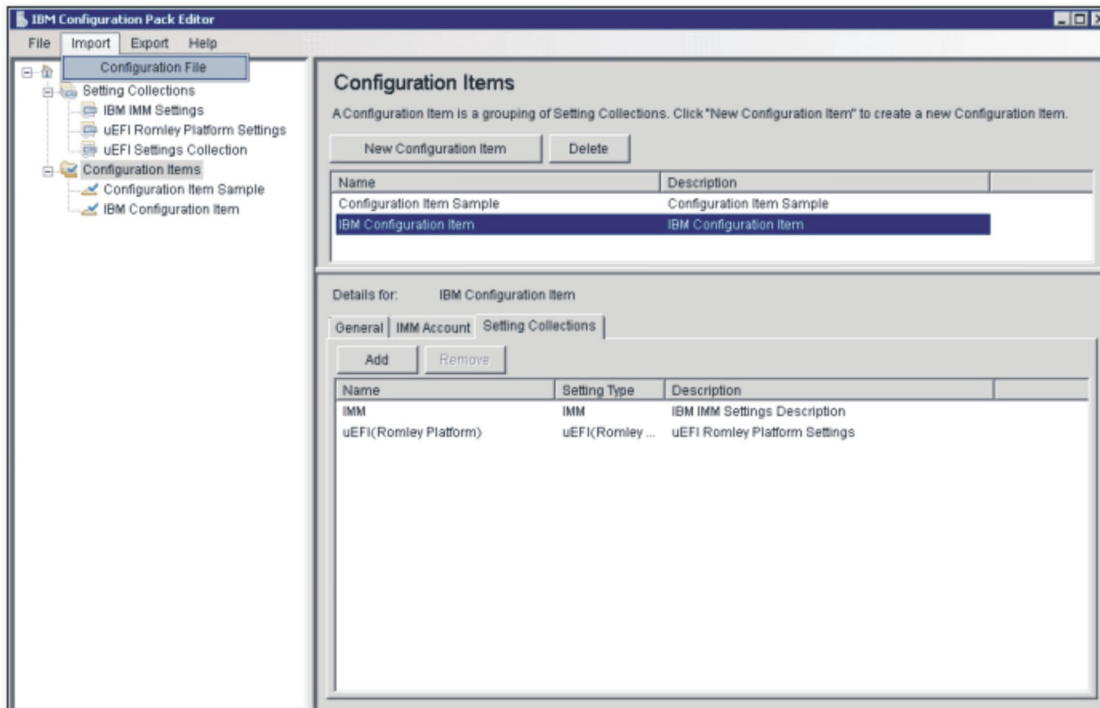


図 40. 「構成ファイルのインポート」メニュー

「構成 XML ファイルのインポート」ウィンドウが開きます。

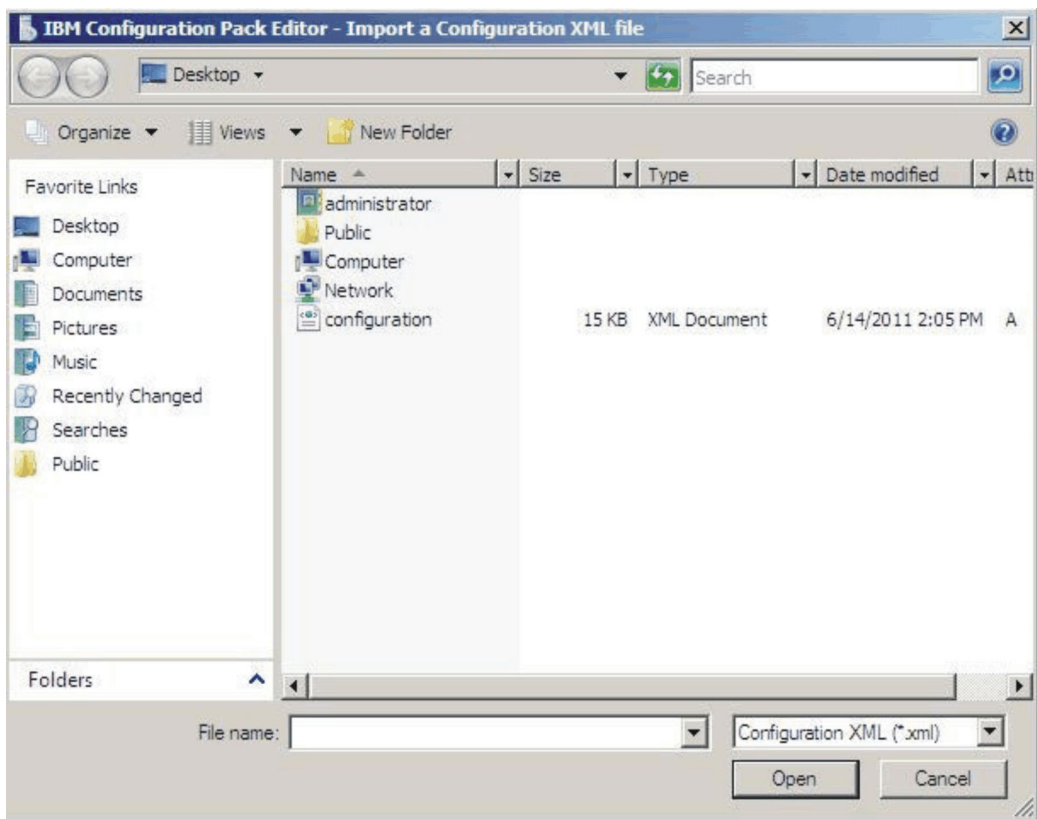


図 41. 「構成 XML ファイルのインポート」ウィンドウ

2. インポートする構成の説明 .xml ファイルを選択して、「OK」をクリックします。

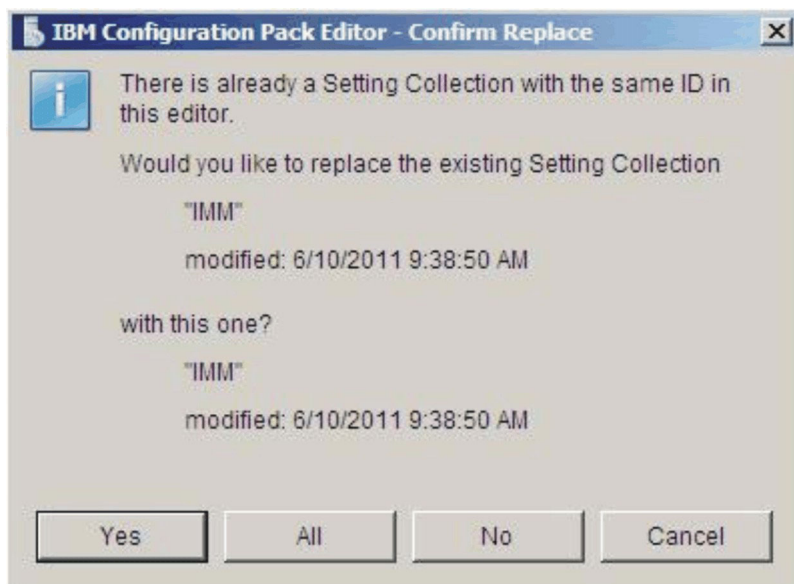


図 42. 設定コレクションの「Confirm Replace」ウィンドウ

IBM Configuration Pack Editor では、すべての設定コレクションおよび構成項目に固有 ID があります。名前が異なっても同じ ID が使用されていると、Editor はウィンドウを表示して、既存の構成データを置換することを確認するように要求します。

注: 既存の設定コレクションと同じ ID を持つ、構成項目内の設定コレクションをインポートすると、インポートされた設定コレクションによって既存の設定コレクションが置き換えられます。構成項目は、インポートされた設定コレクションを参照するようになります。ただし、その内容が以前の設定コレクションの内容と同じであるかどうかは考慮されません。

ライセンス検証状況の検査

手順

1. Configuration Pack Editor で「ヘルプ」 > 「ライセンス」をクリックします。

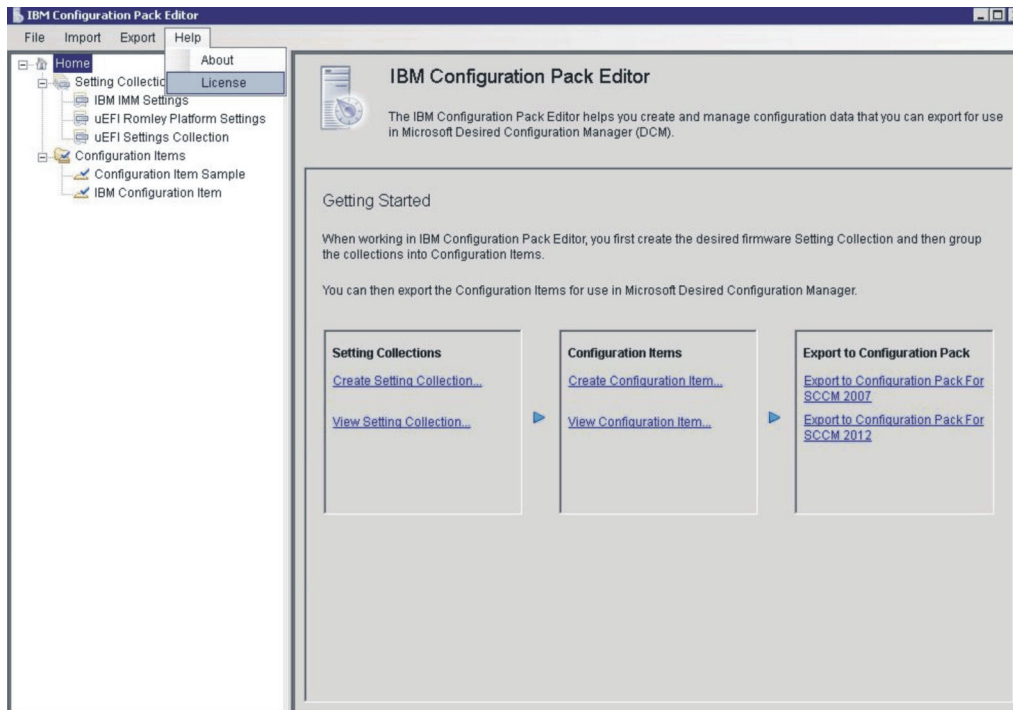


図 43. 「ライセンス」メニュー・オプション

2. 「ライセンス資格」ウィンドウが開きます。情報を確認し、確認を終えたら「OK」をクリックしてウィンドウを終了します。

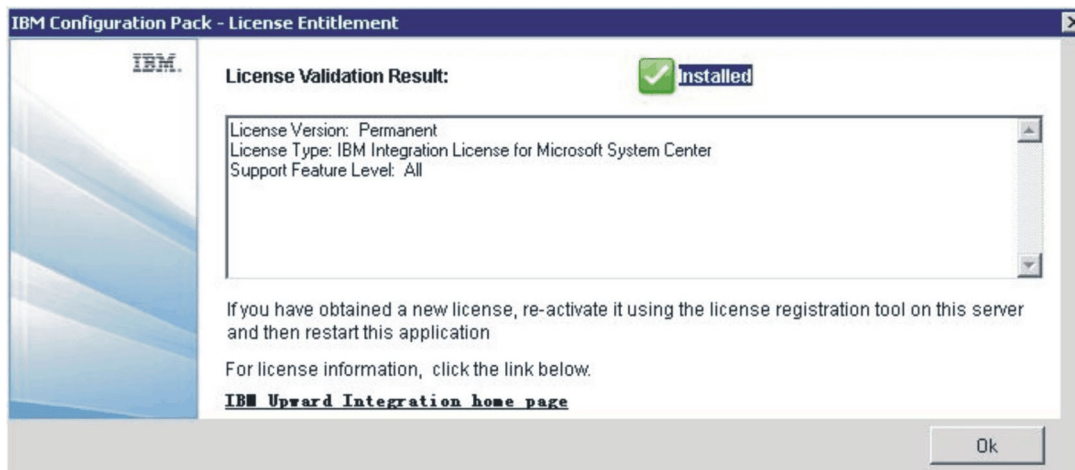


図 44. 「License Entitlement」ウィンドウ

「SCCM 用の IBM Configuration Pack にエクスポート (Exporting to IBM Configuration Pack for SCCM)」機能

構成項目を IBM Configuration Pack .cab ファイルにエクスポートしてあれば、その .cab ファイルを SCCM サーバーにインポートできます。また、その構成項目は、SCCM サーバーにインポートしたり、IMM/UEFI 設定を確認するために SCCM クライアントにデプロイしたりできます。

「IBM Configuration Pack にエクスポート (Export to IBM Configuration Pack)」ボックスは、「構成項目を IBM Configuration Pack Cab ファイルにエクスポート (Export configuration item to IBM Configuration Pack Cab File)」リンクで構成されています。

「構成項目を IBM Configuration Pack Cab ファイルにエクスポート (Export configuration item to IBM Configuration Pack Cab File)」機能を使用すれば、複数の構成項目とその子設定コレクションを .cab ファイルにエクスポートできます。 .cab ファイルには IBM Configuration Pack という名前が付いていて、このファイルは SCCM サーバーにインポートすることができます。

構成項目を IBM Configuration Pack .cab ファイルにエクスポート

手順

1. 「IBM Configuration Pack Editor」ウィンドウで「構成項目を SCCM 2007/2012 用の構成にエクスポート (Export Configuration item to Configuration for SCCM 2007/2012)」をクリックします。「IBM Configuration Pack (.cab) にエクスポート (Export to IBM Configuration Pack (.cab))」ウィンドウが開きます。

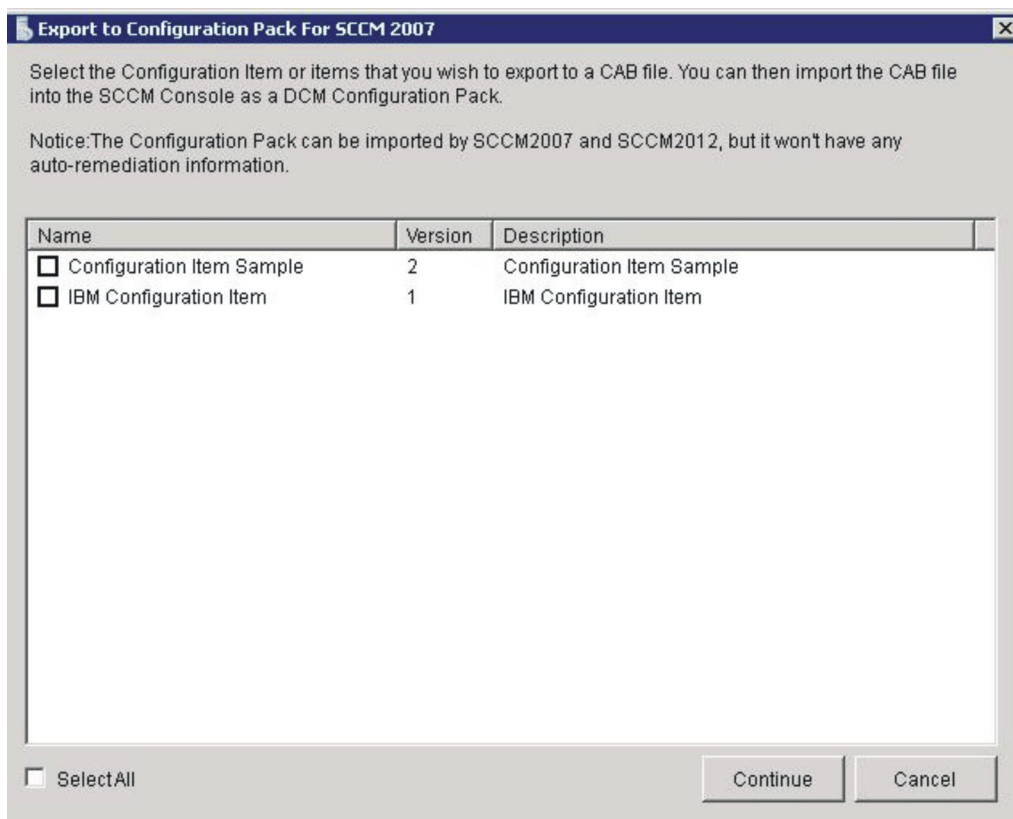


図 45. 「SCCM 2007 用の IBM Configuration Pack にエクスポート (Export to IBM Configuration Pack for SCCM 2007)」ウィンドウ

2. エクスポートする構成項目に対応するチェック・ボックスを選択します。

注: 構成項目のバージョンは、直接は変更できない内部変数です。 SCCM DCM は、このバージョン変数を使用して、構成項目のアップグレードが必要かどうかを評価します。

Configuration Manager で構成データを更新すると、旧バージョンは上書きされ、クライアントは常に最新バージョンを使用して評価するようになります。

構成項目のバージョンを管理する方法については、Web ページ <http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb632925.aspx> を参照してください。

3. 「Continue」をクリックします。「SCCM 2012 用の構成パックにエクスポート」ウィンドウが開きます。

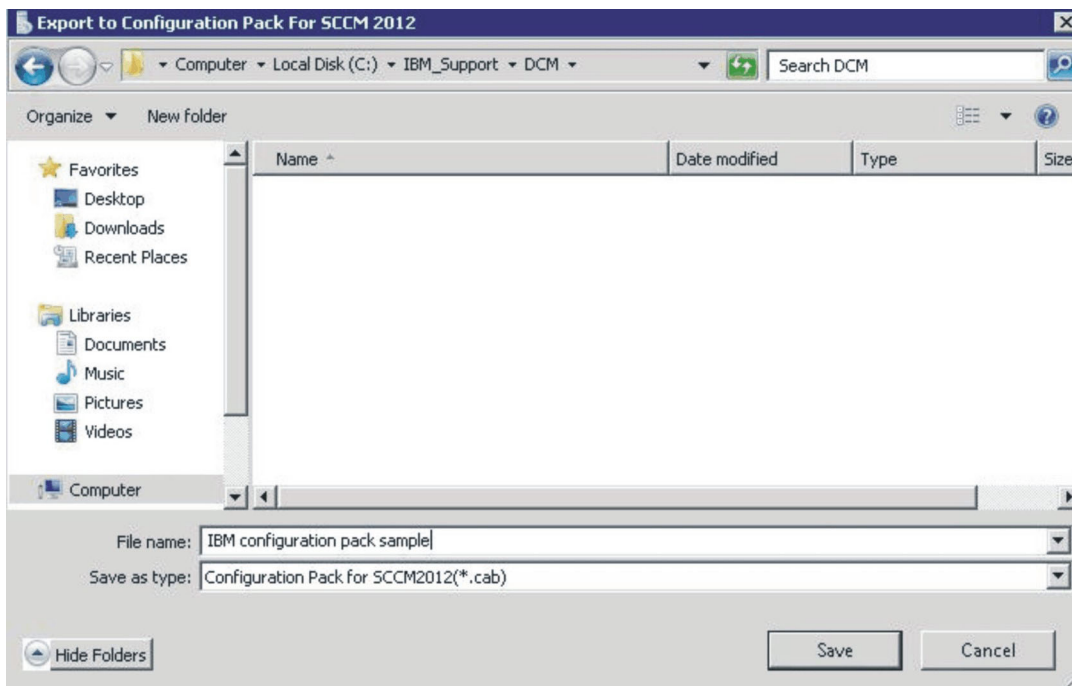


図 46. 「Export to IBM Configuration Pack」 ウィンドウ

4. 「保存」をクリックします。 ウィンドウが開き、エクスポートが正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

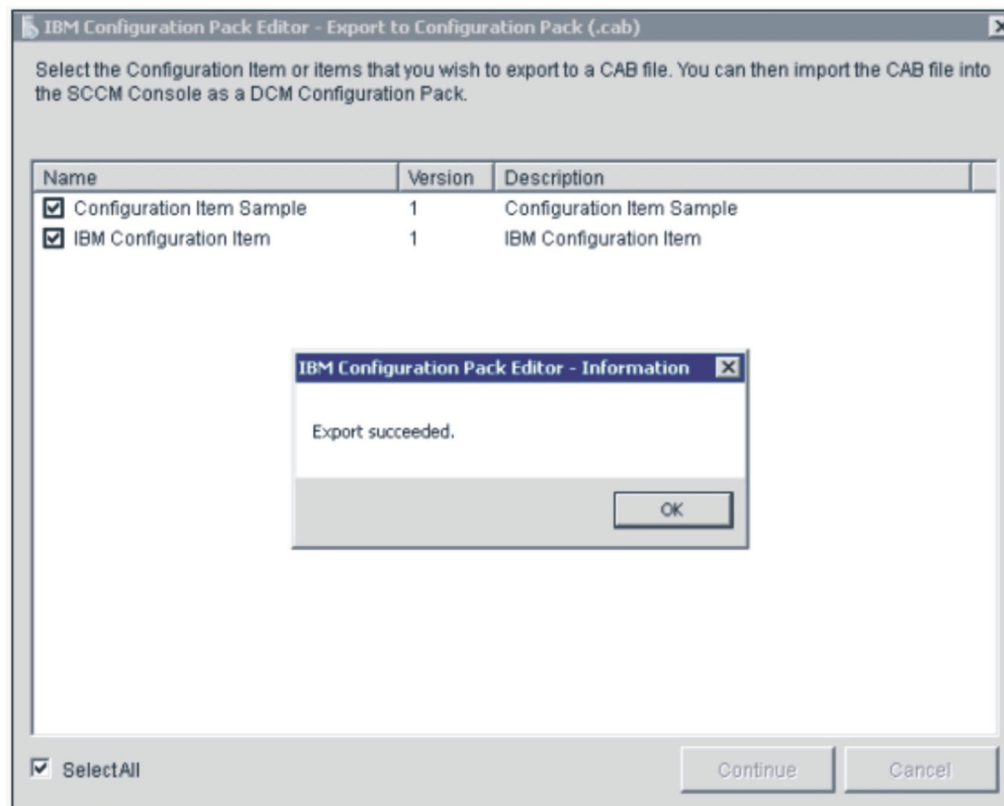


図 47. 「エクスポートが正常に完了しました」 ウィンドウ

5. .cab ファイルの名前を入力して、「OK」をクリックします。

構成項目を SCCM コンソールにエクスポート

手順

1. IBM Configuration Pack Editor で「SCCM コンソールにエクスポート」をクリックします。「構成項目の選択」ウィンドウが開きます。

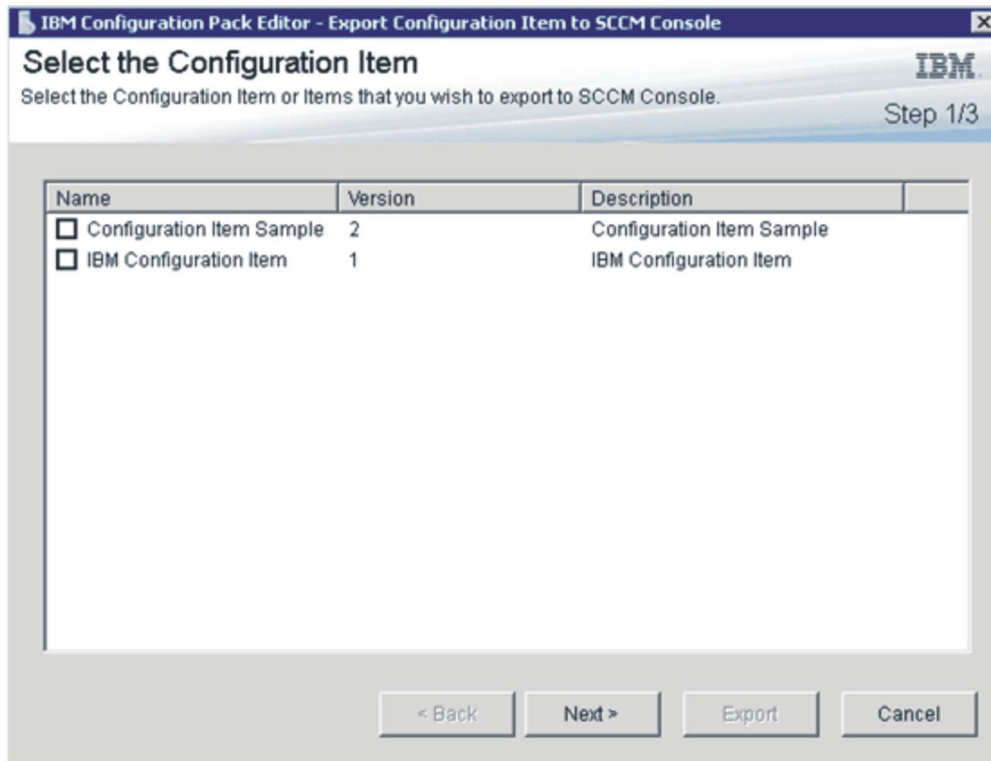


図 48. 「構成項目の選択」ウィンドウ

2. エクスポートする構成項目に対応するチェック・ボックスを選択します。
3. 「次へ (Next)」をクリックします。「SCCM コンソール位置情報」ウィンドウが開きます。

図 49. 「SCCM コンソール位置情報」ウィンドウ

4. SCCM コンソールがリモート・マシン上にある場合は、マシン名、ユーザー名、およびパスワードを入力します。
5. 「次へ (Next)」をクリックします。「構成項目情報」ウィンドウが開きます。

図 50. 「構成項目情報」ウィンドウ

6. 構成項目の接頭部名を追加できます。
7. 構成項目の対応する SCCM コンソール・タイプを選択します。
8. 「エクスポート」をクリックします。ウィンドウが開き、エクスポートが正常に完了したことが示されます。

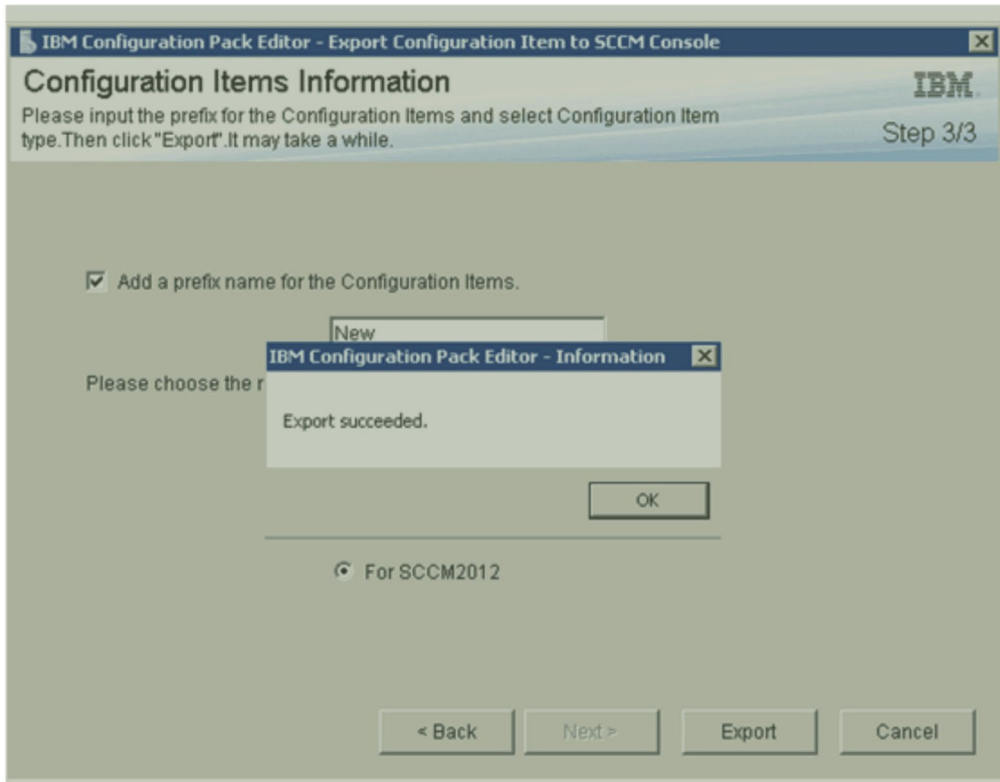


図 51. 「エクスポートが正常に完了しました」ウィンドウ

IBM Configuration Pack を SCCM 2007 コンソールに適用

このタスクについて

このセクションでは、IBM 構成データを SCCM サーバーにインポートする方法について説明します。

DCM への構成データのインポート 手順

1. SCCM コンソールを開き、「Desired Configuration Management」を展開します。
「構成ベースライン」または構成項目を右クリックし、「構成データのインポート」を選択します。

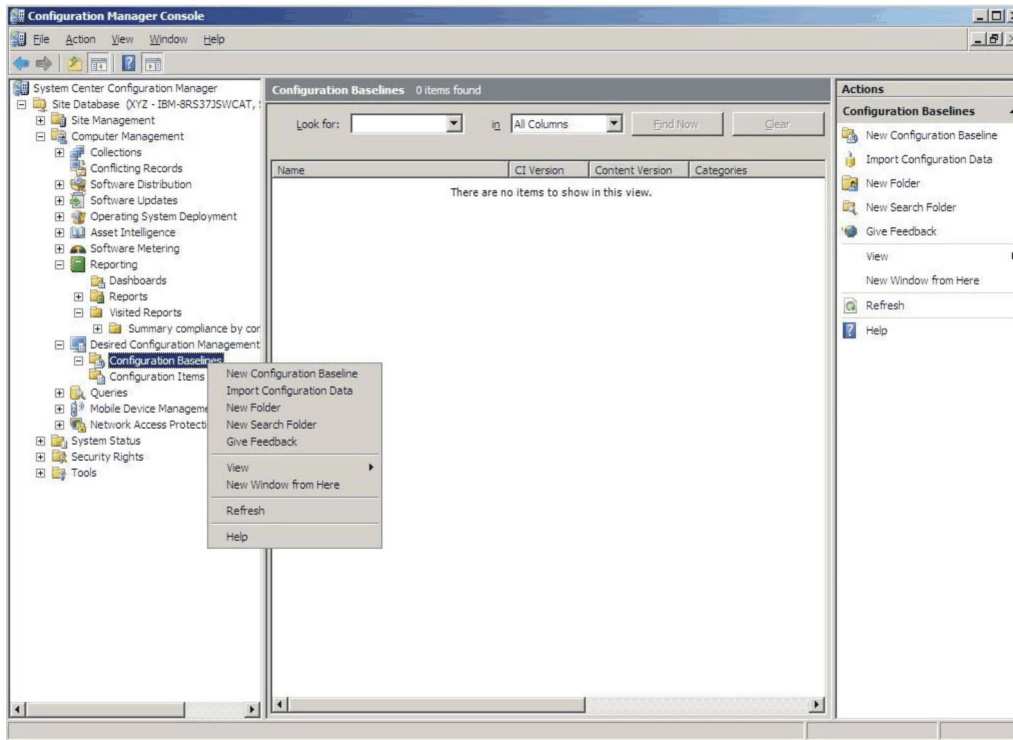


図 52. 構成のインポート・ウィンドウの機能

2. 「追加」をクリックして、エクスポートされた IBM Configuration Pack .cab ファイルを選択します。

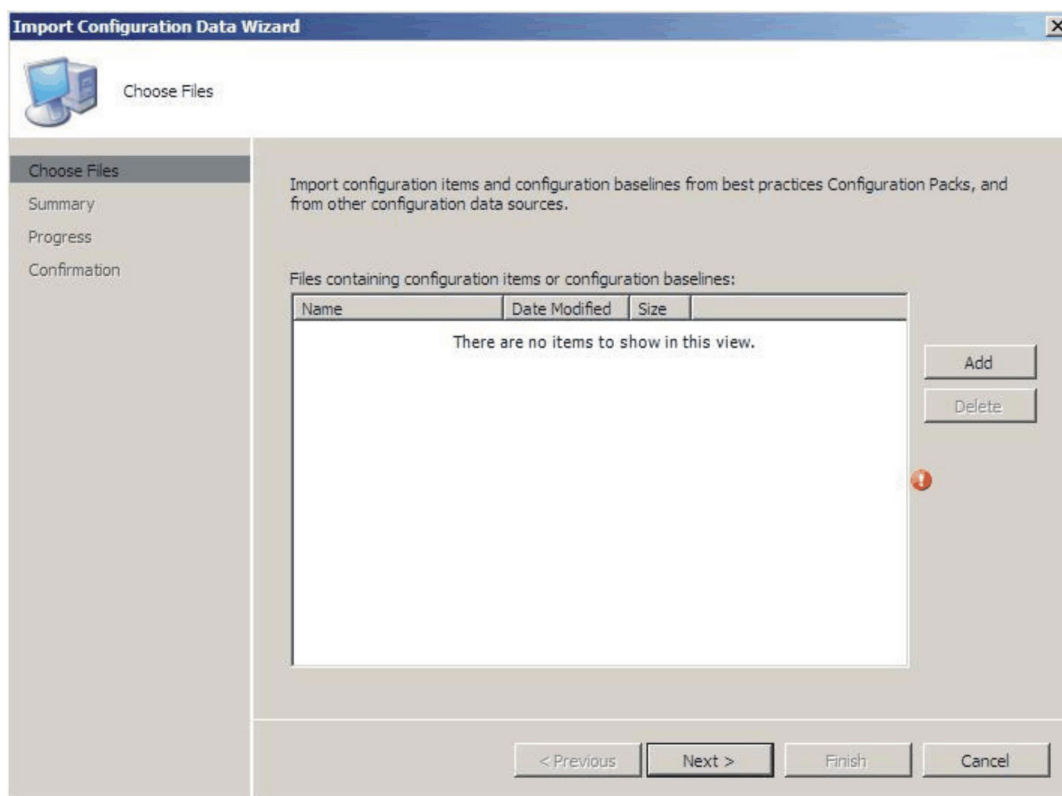


図 53. エクスポートされた IBM Configuration Pack .cab ファイルの追加

3. 「IBM Configuration Pack」を選択し、「オープン (Open)」をクリックして、インポートを行います。

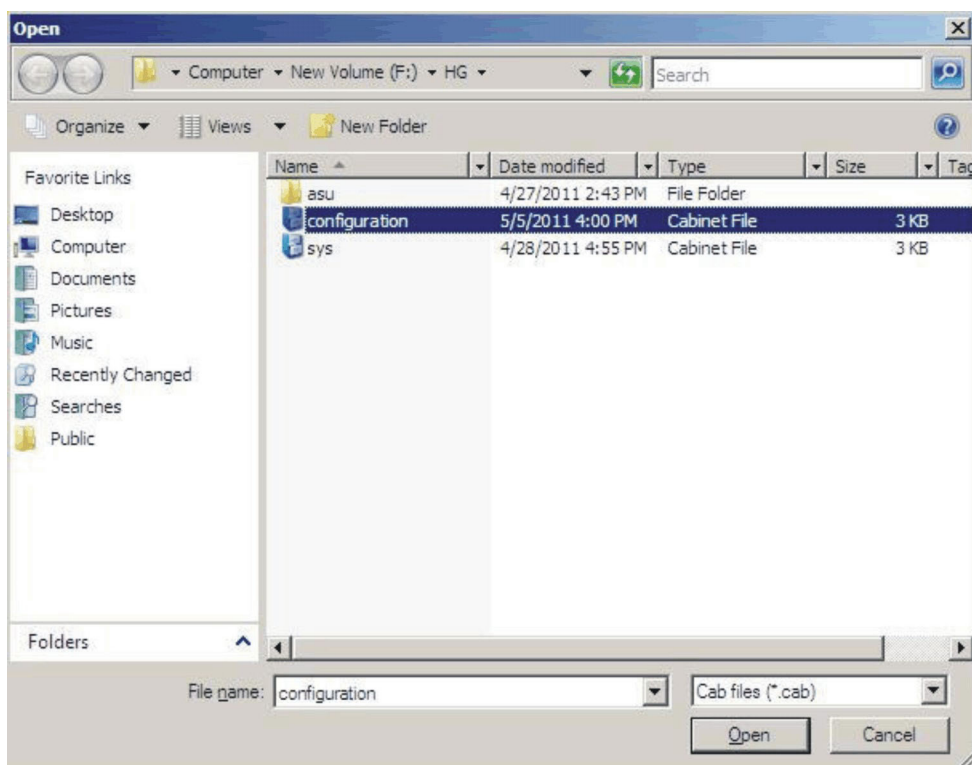


図 54. エクスポートされた .cab ファイルの選択

4. 「Authenticode 署名の確認をスキップしますか? (Skip Authenticode signature check?)」ウィンドウが開きます。「はい」をクリックして、署名の確認をスキップします。

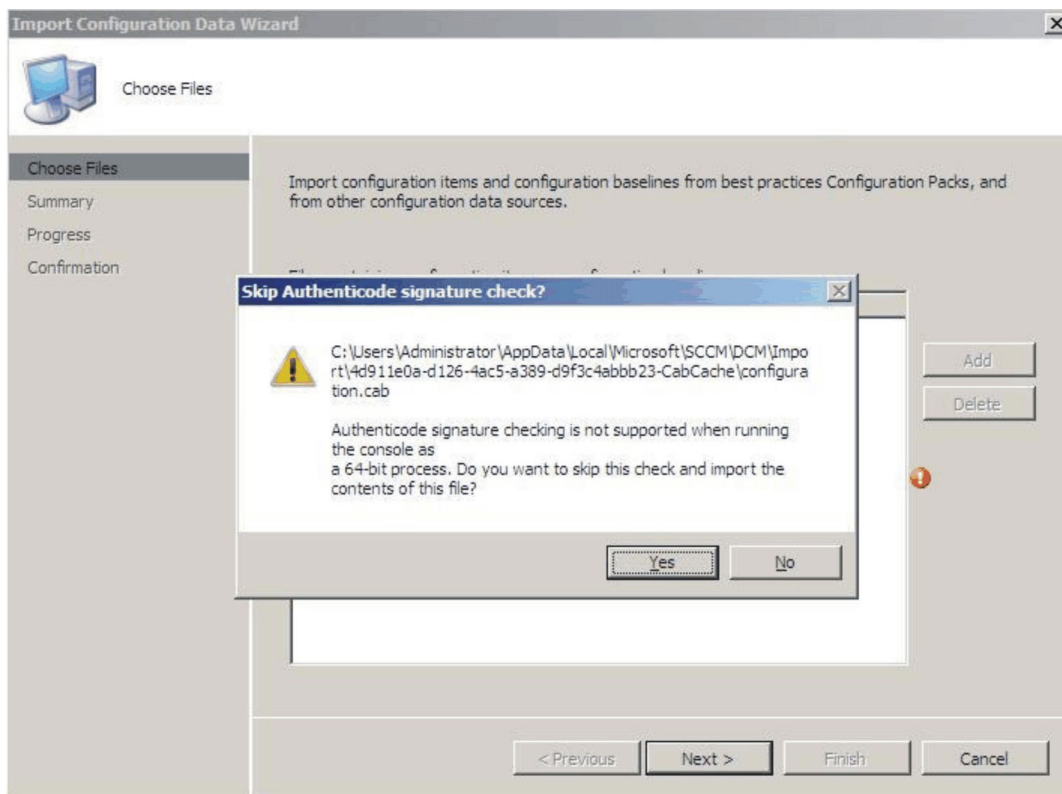


図 55. 「Authenticode 署名の確認をスキップしますか? (Skip Authenticode Signature Check?)」ウィンドウ

5. 「次へ」をクリックして、IBM Configuration Pack .cab ファイルをインポートします。

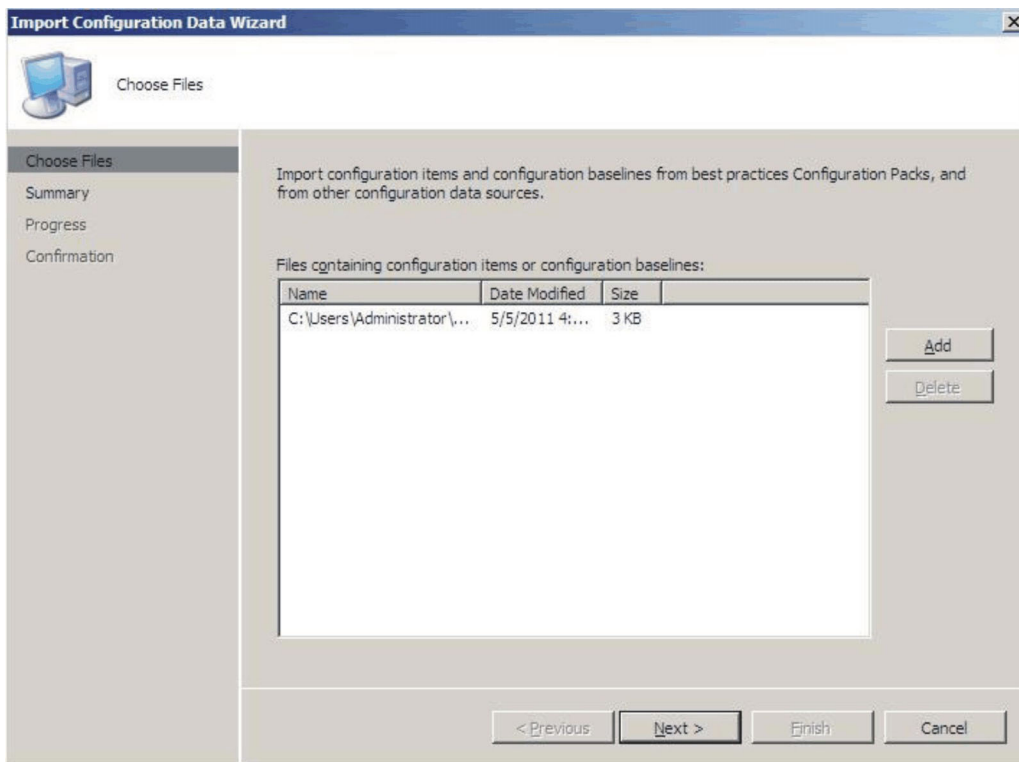


図 56. 選択した .cab ファイルのインポート

- 構成項目が IBM Configuration Pack ツリーに表示されます。「次へ (Next)」をクリックします。

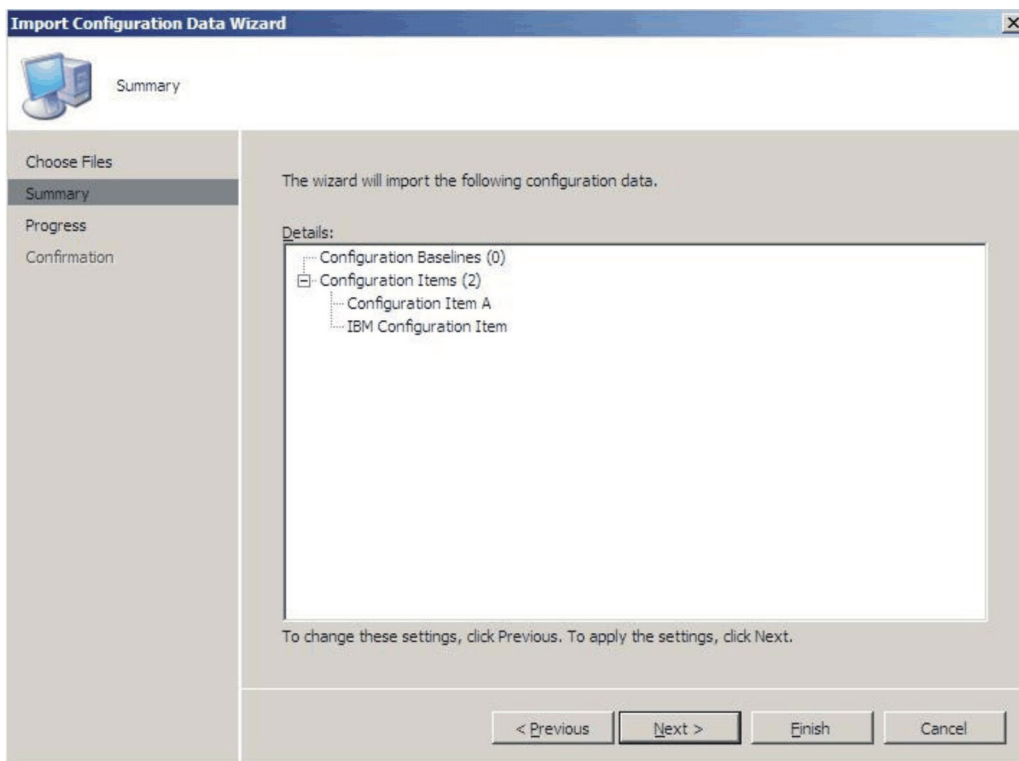


図 57. インポートされた構成項目

7. 構成データが正常にインポートされたことがメッセージで示されます。「クローズ」をクリックして、ウィザードを終了します。

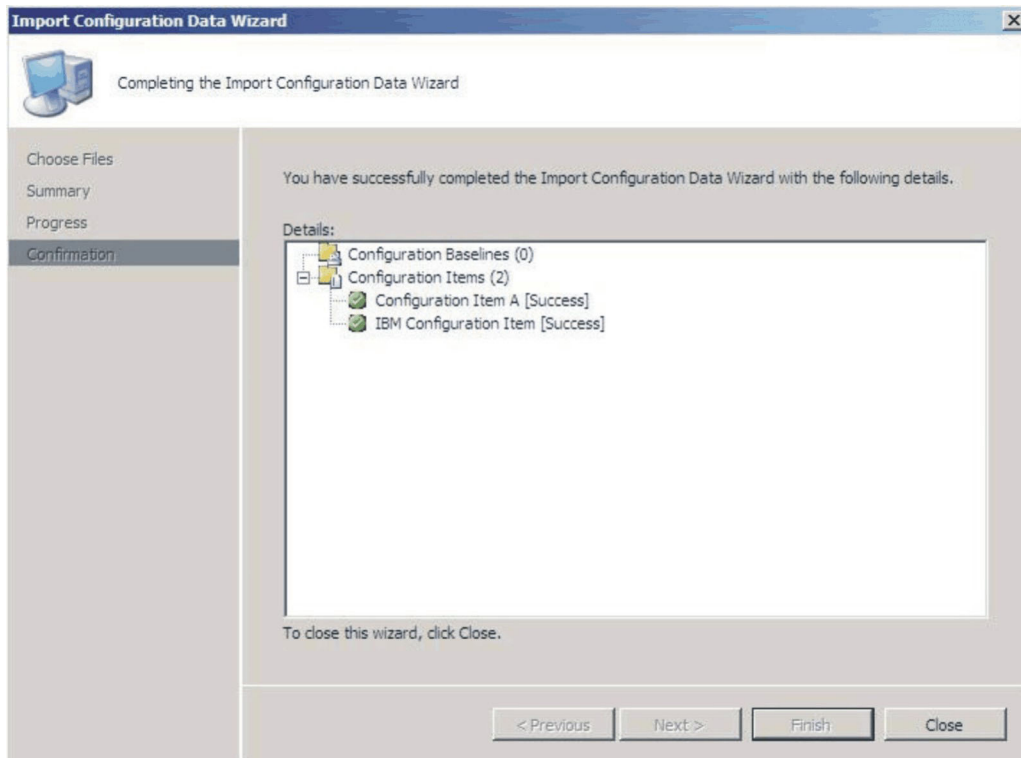


図 58. 正常終了のウィンドウ

8. 「構成項目」ノードを右クリックして「最新表示」を選択します。インポートされた構成項目がウィンドウに表示されます。

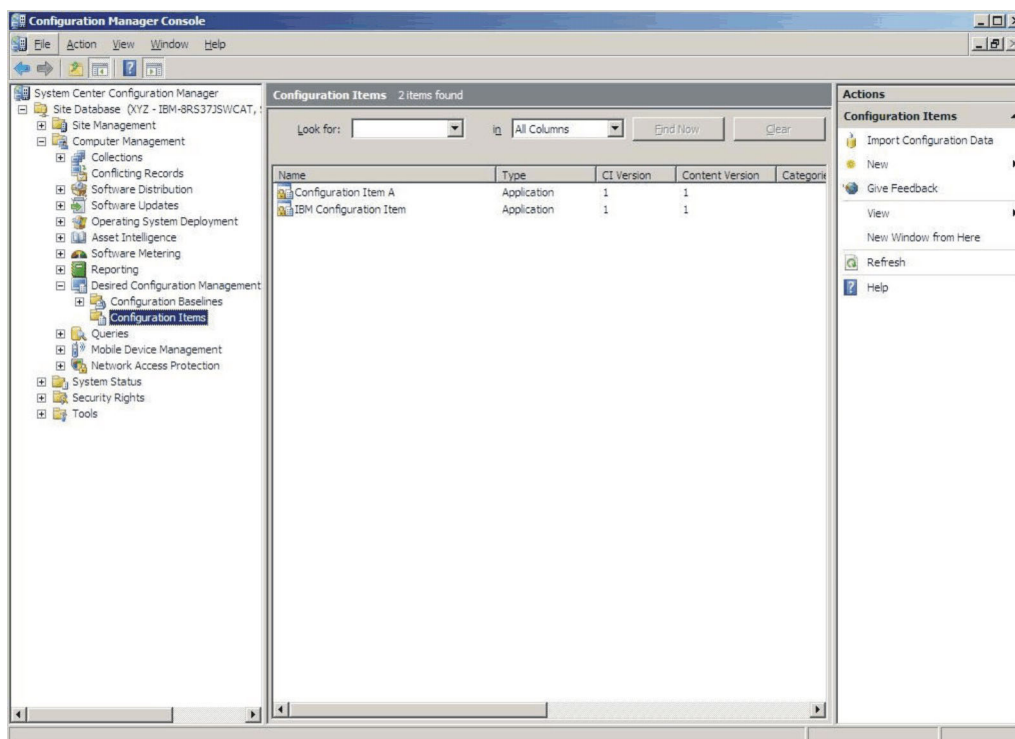


図 59. インポートされた構成項目を持つ SCCM

注: インポートされた構成項目の状況は「ロック (Lock)」となっている場合があります。このロック状況は、以下の理由によるものです。

- 構成データが読み取り専用である。
- 構成データが SCCM コンソール管理者によって作成されたものではない。

構成項目のプロパティの表示

このタスクについて

このセクションでは、SCCM サーバーにインポートされた IBM 構成データを表示する方法について説明します。

手順

1. 構成項目のプロパティを表示するには、対象の構成項目をダブルクリックします。「設定」タブのページに IBM 設定コレクションがリストされます。

設定の 1 つを任意に選択すると、検証する設定を表示できます。設定をダブルクリックして表示するか、または設定を 1 つ選択して「編集」をクリックします。

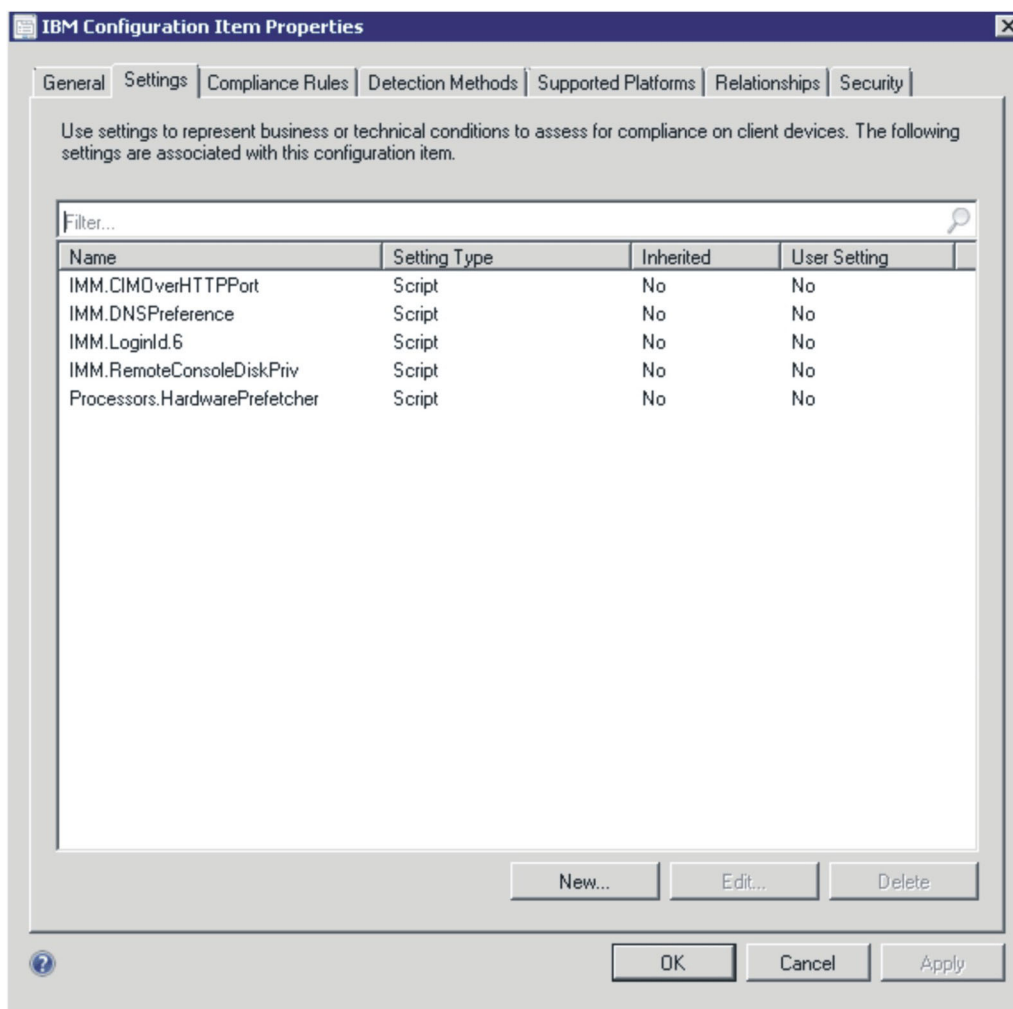


図 60. 「設定」タブ

2. 「検出方法 (Detection Method)」タブでは、IBM Configuration Pack Editor が構成項目ごとに検出方法を定義しています。この検出方法では、エンドポイントに ASU.exe ファイルが存在するかどうかを検査されます。このファイルが存在しない場合は、構成項目から「検出されませんでした (Not Detected)」状態が返され、子設定グループの検証が停止されます。

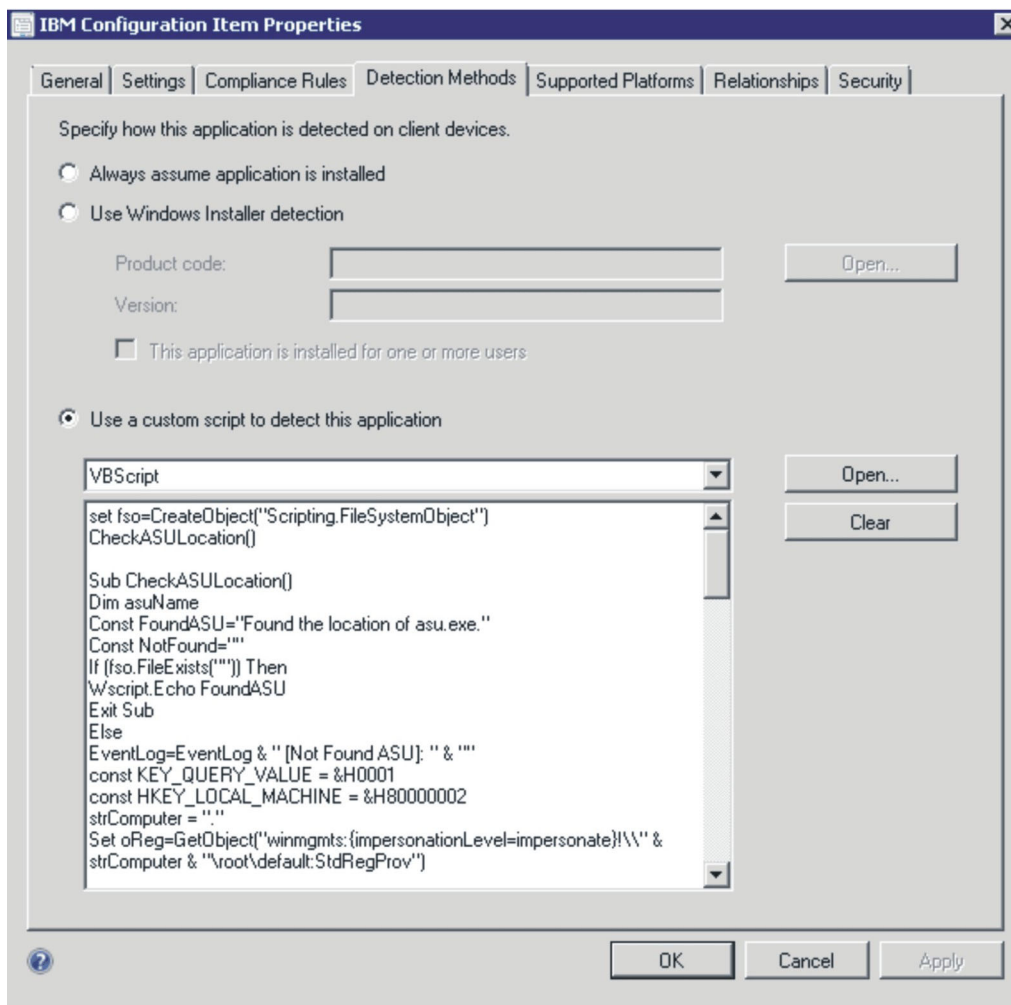


図 61. 「検出方法」タブ

基準の作成

このタスクについて

エンドポイントで検証するすべての構成項目が含まれているベースラインを作成する必要があります。

注: ベースラインのないエンドポイントに構成項目を割り当てることはできません。

手順

1. SCCM コンソールで「Desired Configuration Management」ノードを展開します。

2. 構成ベースラインを右クリックし、「新しいConfiguration Baseline」を選択します。

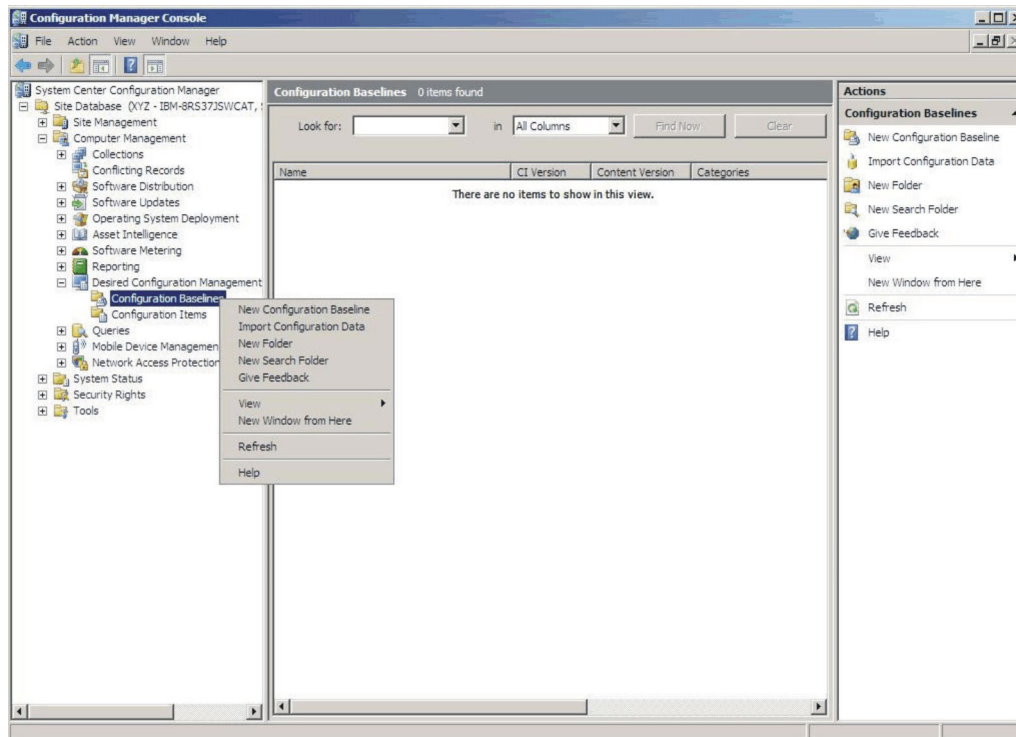


図 62. 「新しいConfiguration Baseline」機能

「Configuration Baselineの作成 (Create Configuration Baseline)」ウィザードが開きます。

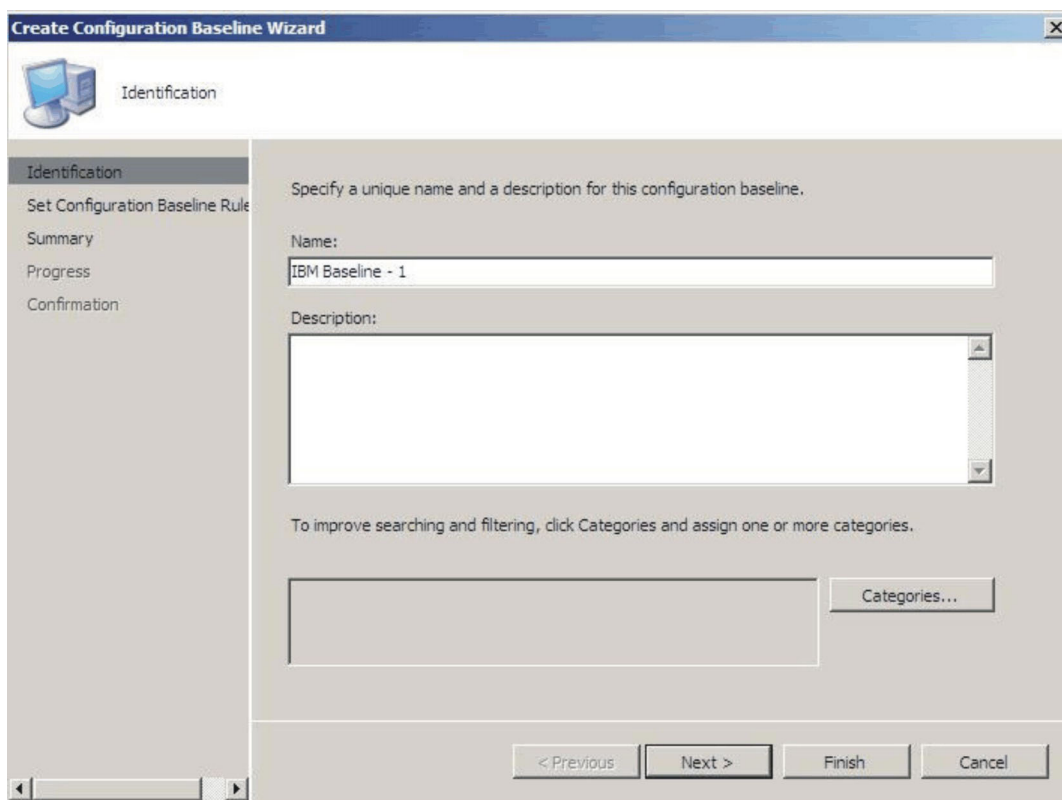


図 63. 「構成基準の作成」ウィザード

3. 名前を入力し、オプションとしてベースラインの説明を入力します。「次へ (Next)」をクリックします。
4. 「アプリケーションと一般 (applications and general)」リンクをクリックし、検証する構成項目を選択します。

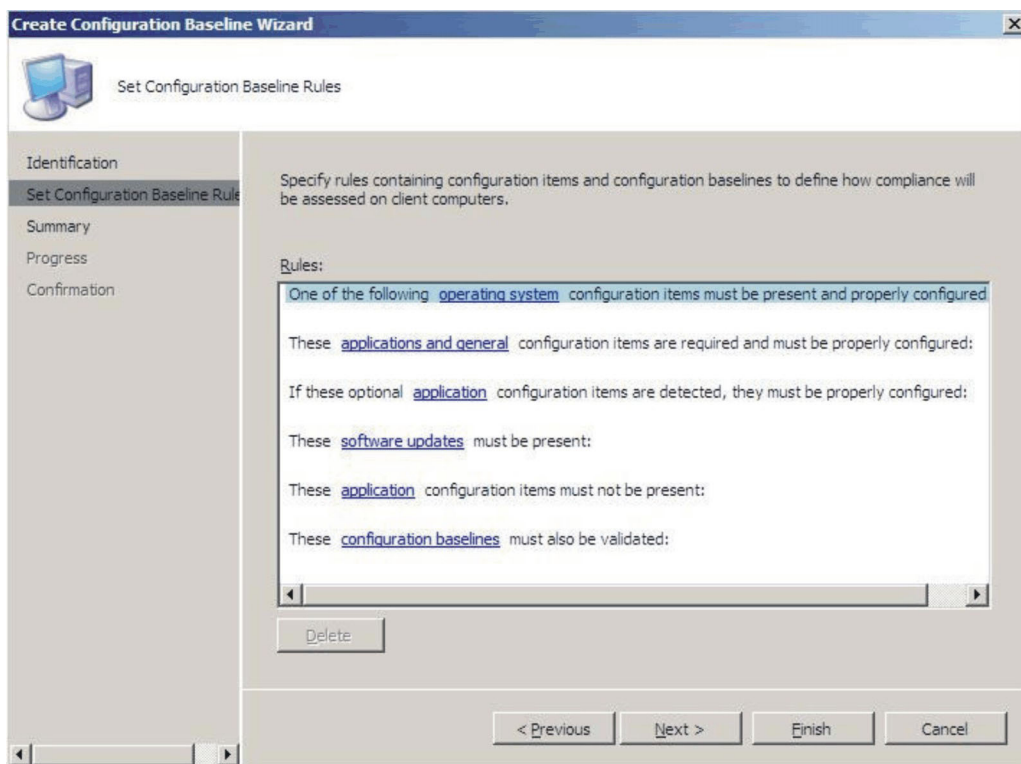


図 64. 「アプリケーションと一般」リンク

「構成項目の選択 (Choose configuration items)」ウィンドウが開きます。

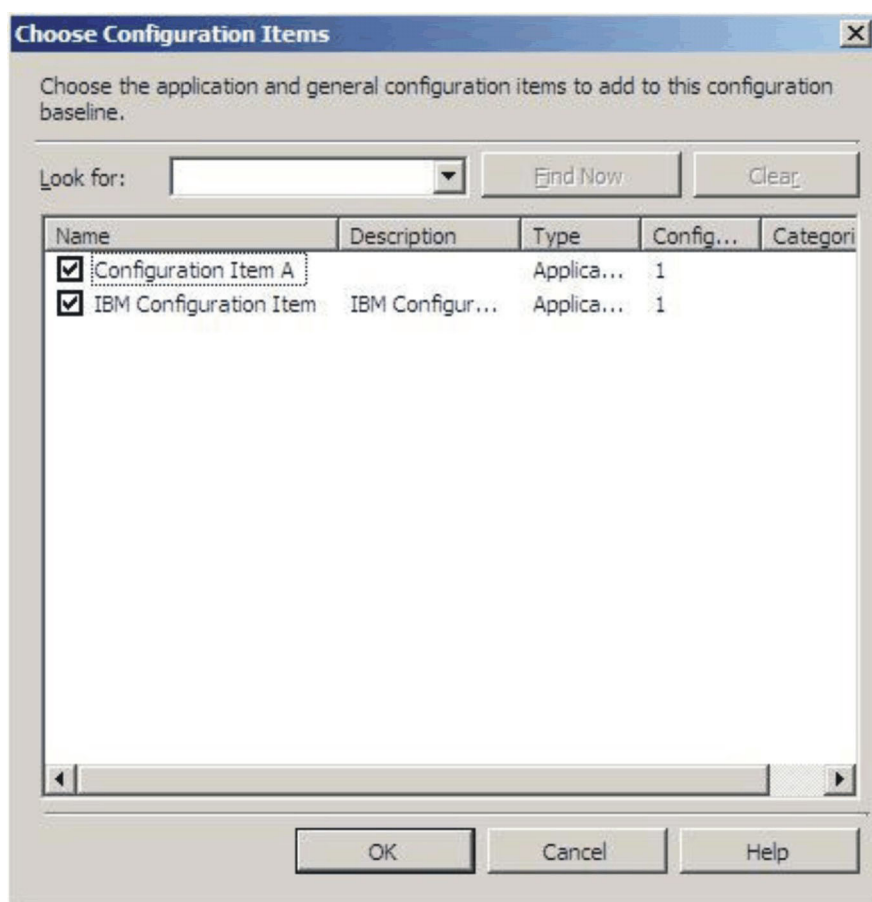


図 65. 「構成項目の選択」ウィンドウ

5. エンドポイントで検証する構成項目に対応するチェック・ボックスを選択し、「OK」をクリックします。

選択された構成項目が「アプリケーションと一般 (applications and general)」リンクの下に表示されます。

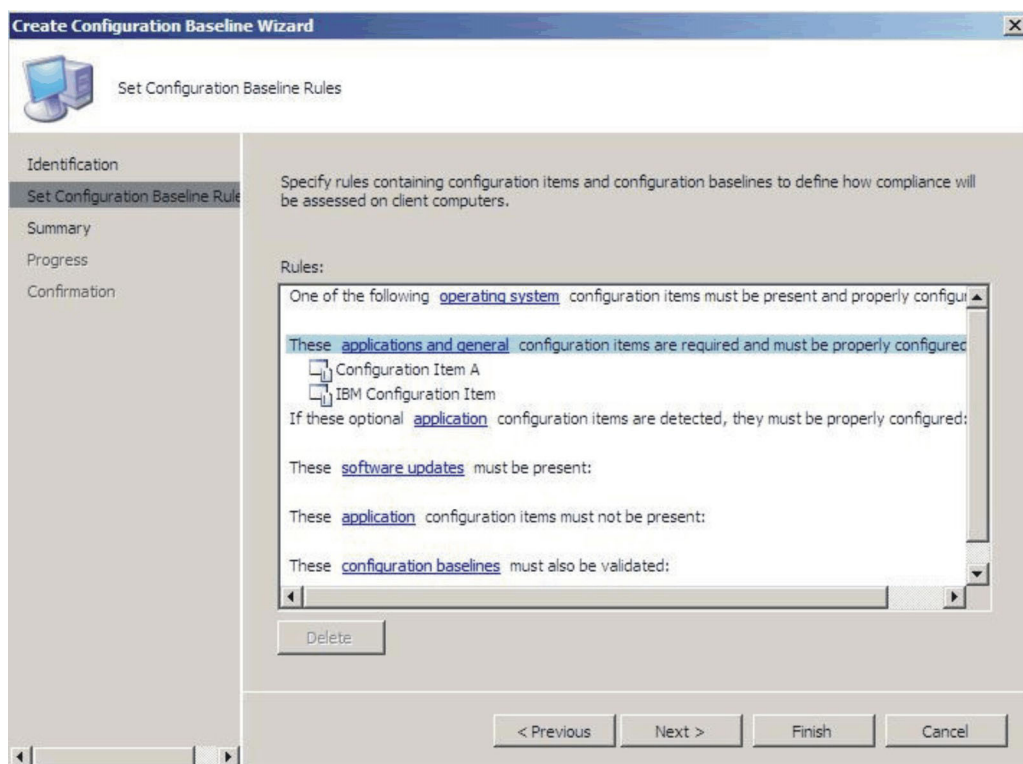


図 66. 構成項目が示された「アプリケーションと一般 (applications and general)」リンク

6. 「完了」をクリックしてウィザードを終了します。

ベースラインをコレクションに割り当てる このタスクについて

あるコレクションのクライアントの設定を確認する場合は、ベースラインをコレクションに割り当てることができます。

手順

1. SCCM コンソールで、新しいベースラインを右クリックし、「コレクションに割り当てる (Assign to a Collection)」を選択します。

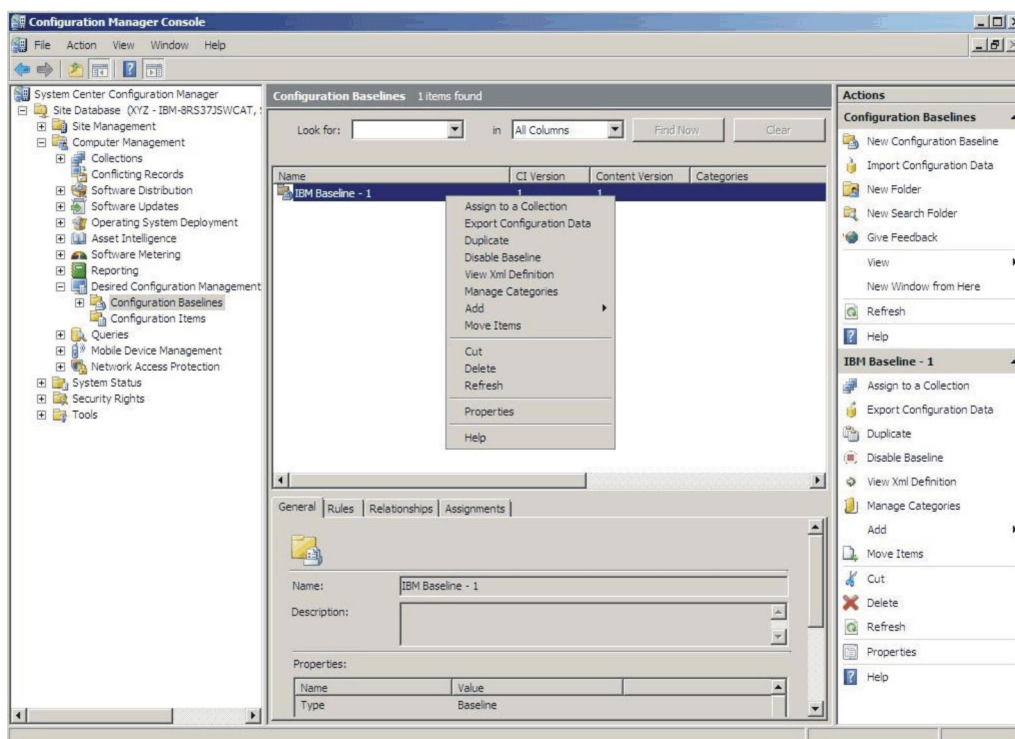


図 67. 「コレクションに割り当てる」機能

「Configuration Baselineの割り当てウィザード (Assign Configuration Baseline Wizard)」が開き、「コレクションの選択 (Choose Collection)」ウィンドウが表示されます。

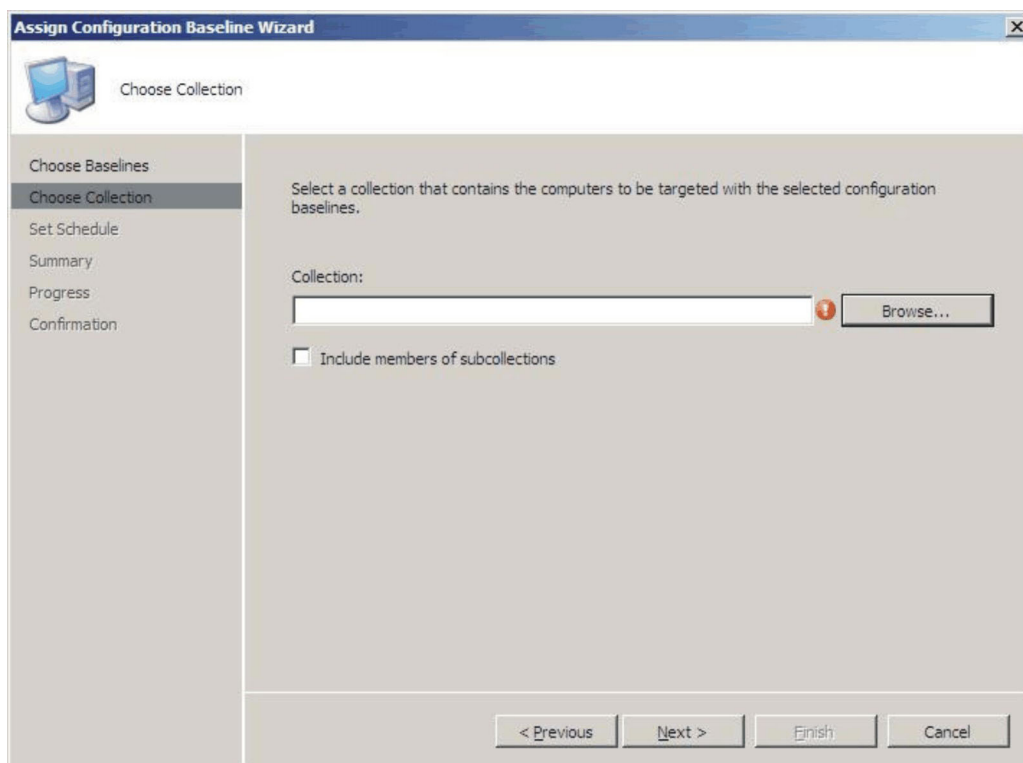


図 68. 「コレクションの選択」ウィンドウ

2. 「コレクション (Collection)」フィールドの横にある「ブラウズ」をクリックして、ターゲットのクライアント・コレクションを選択します。
3. 「次へ (Next)」をクリックします。
4. ベースライン検証のスケジュールを選択します。単純なスケジュールを選択することも、カスタム・スケジュールを作成することもできます。

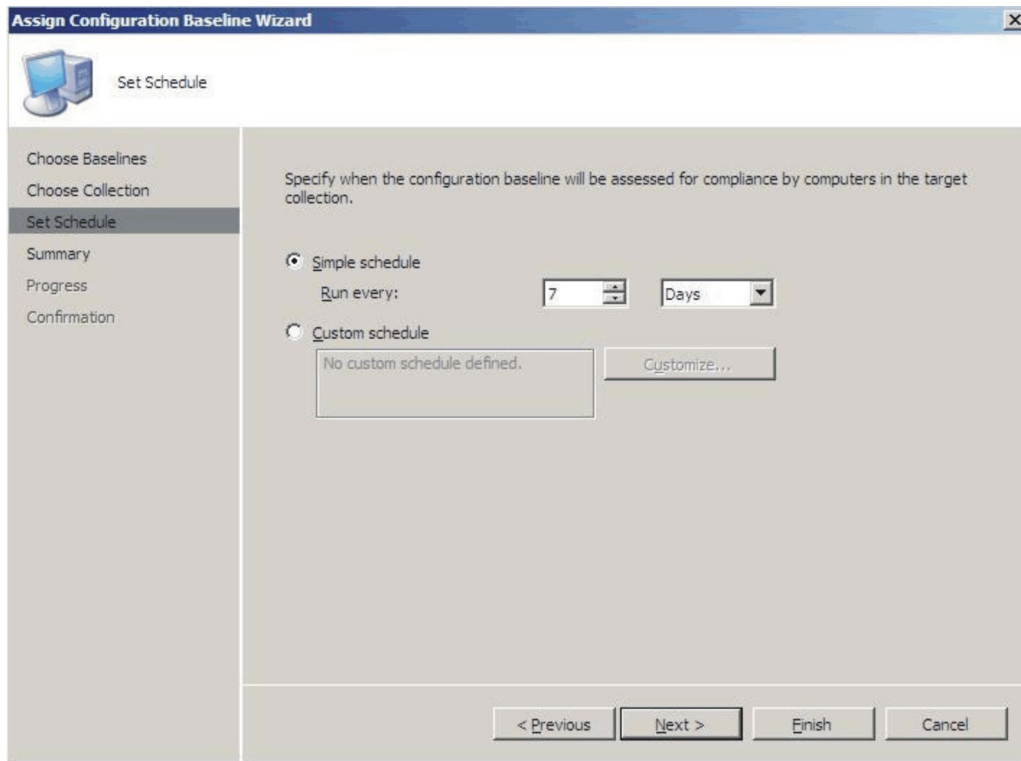


図 69. 「スケジュールの設定」ウィンドウ

5. 「完了」をクリックしてウィザードを終了します。

エンドポイントの基準の評価

このタスクについて

ベースラインとその子構成項目は、作成または選択されたスケジュールに従って自動評価されます (構成項目の設定が検査されます)。ただし、以下のようにして前倒しで評価できます。

手順

1. エンドポイントが SCCM サーバー上にあること、および SCCM クライアント・エージェントがインストールされていることを確認します。そうでないと、エンドポイントは SCCM サーバーからベースラインを受け取りません。

2. エンドポイントが 32 ビットの場合は、「コントロール パネル」 > 「**Configuration Manager**」をクリックします。エンドポイントが 64 ビットの場合は、「コントロール パネル」 > 「**32 ビットのコントロール パネルの項目の表示**」 > 「**Configuration Manager**」をクリックします。

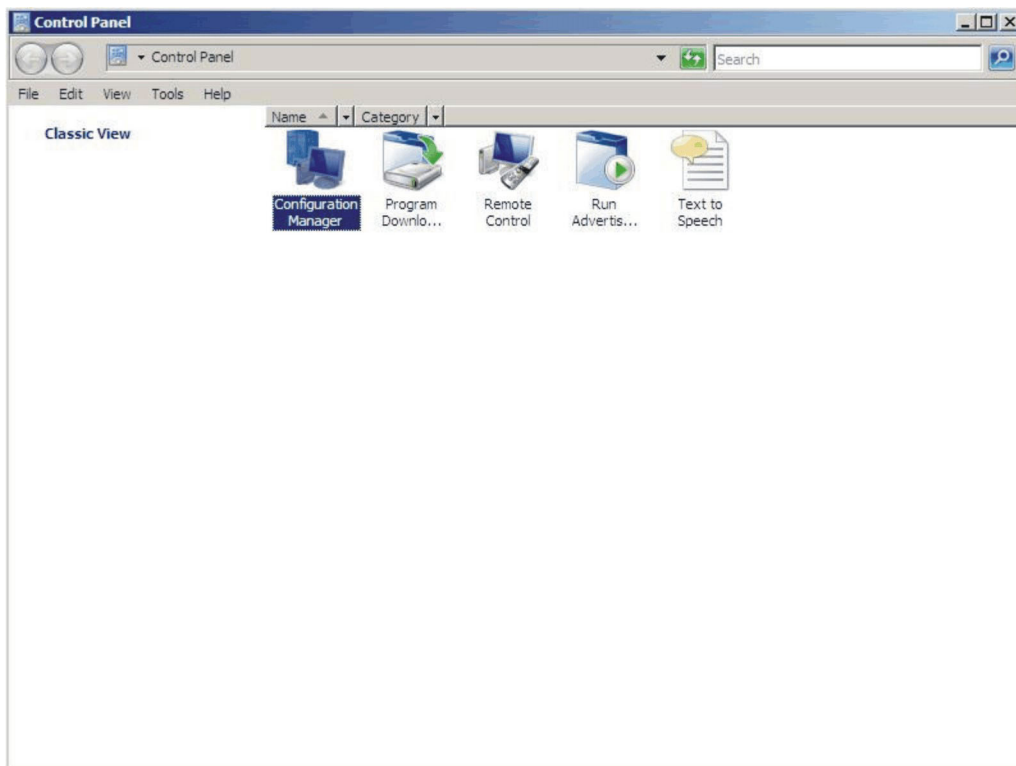


図 70. 「コントロール パネル」フォルダー内の *Configuration Manager*

「Configuration Manager のプロパティ」ウィンドウが開きます。

3. 「動作」タブで「コンピューター ポリシーの取得および評価サイクル」を選択して、「動作の開始」をクリックします。アクションが開始されたことを通知するウィンドウが開きます。「**OK**」をクリックします。

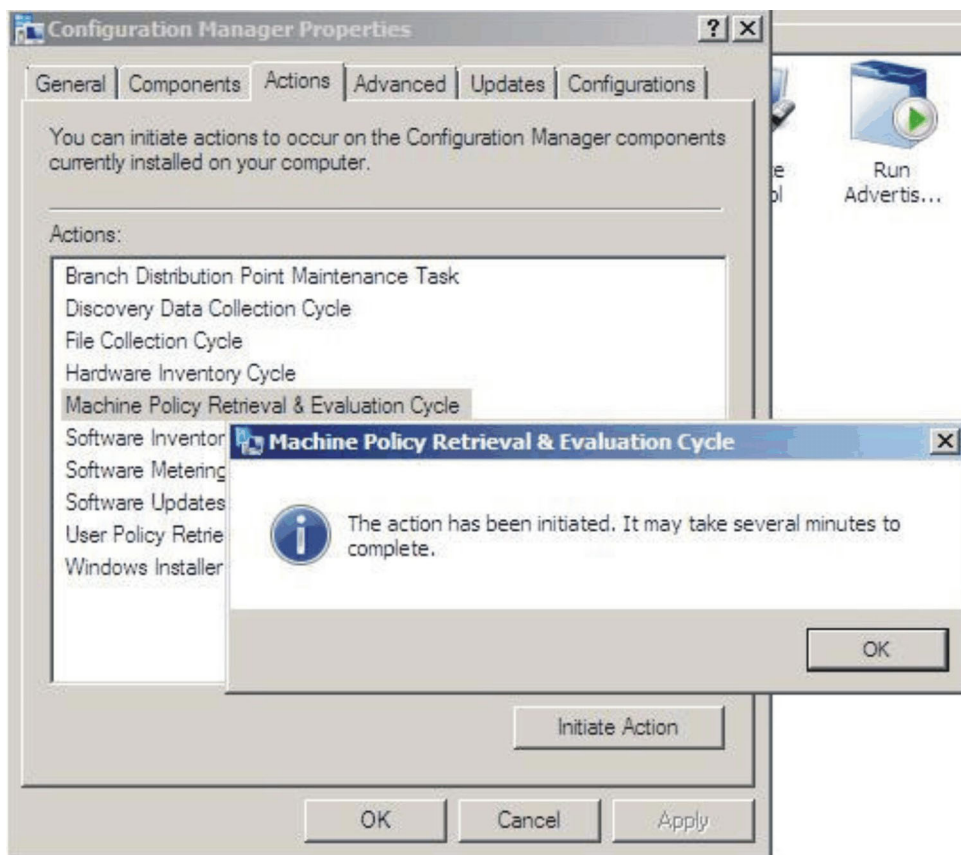


図 71. アクションが開始されたことを示すウィンドウ

4. 数分後、ベースラインが「構成」タブに表示されます。ベースラインが表示されない場合は、「最新表示」をクリックします。

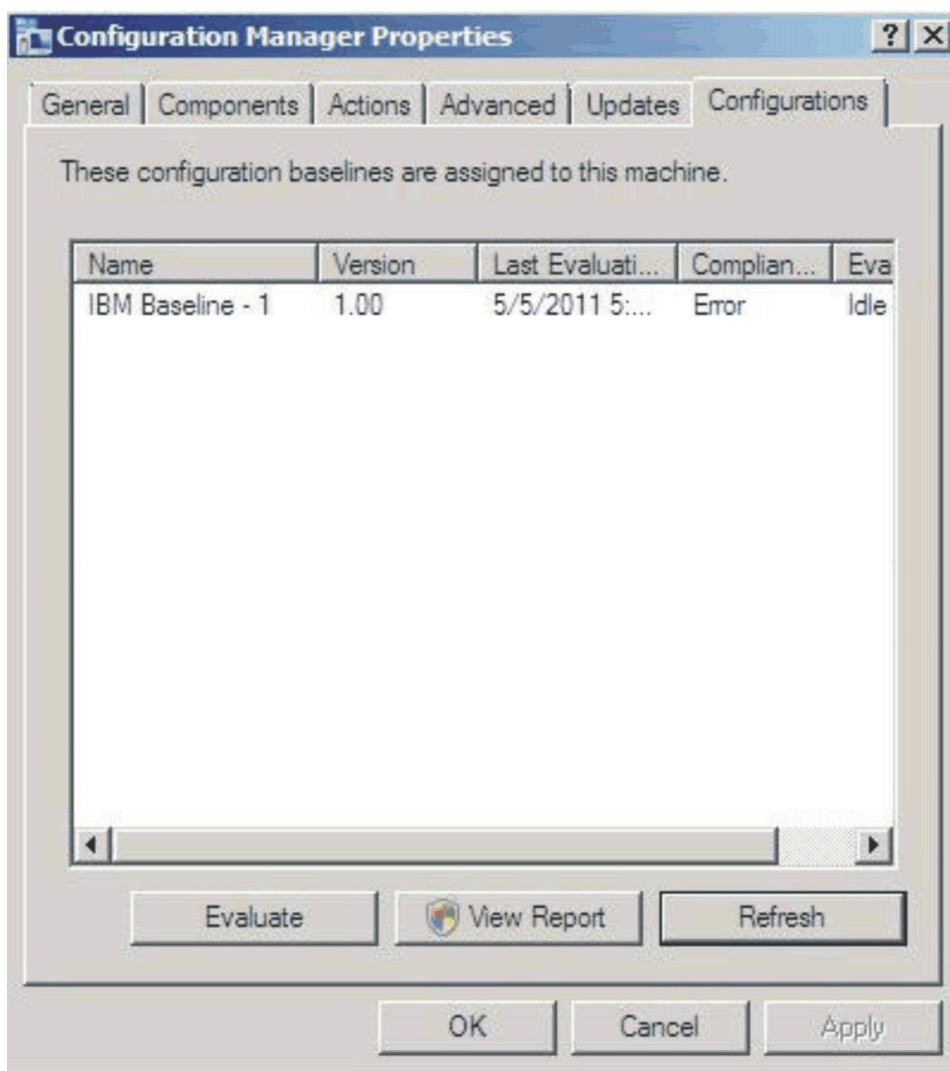


図 72. 「構成」タブ

注: 「Configuration Baseline」リスト・ビューにベースラインがすぐに表示されない場合は、次の図に示すように、SCCM クライアント・エージェントが SCCM コンソールにあることを確認してください。

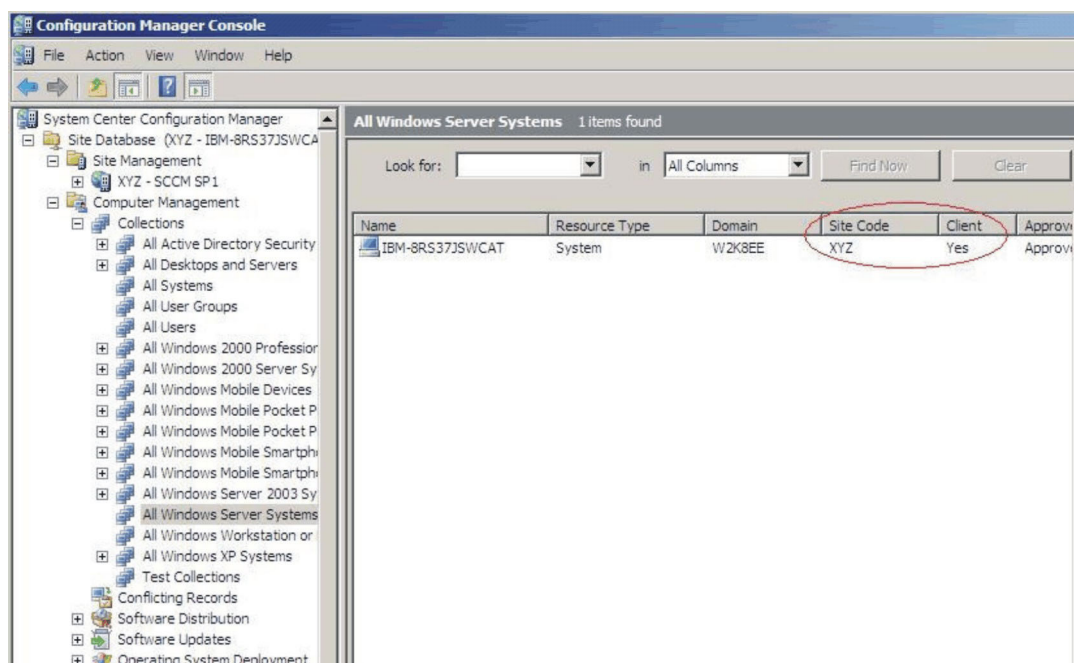


図 73. SCCM クライアント・エージェントの状況

5. ベースラインを選択して、「評価 (Evaluate)」をクリックします。数分後に「評価 (Evaluate)」ボタンが使用可能になります。ベースラインを選択し、「レポートの表示 (View Report)」をクリックしてレポートを確認します。

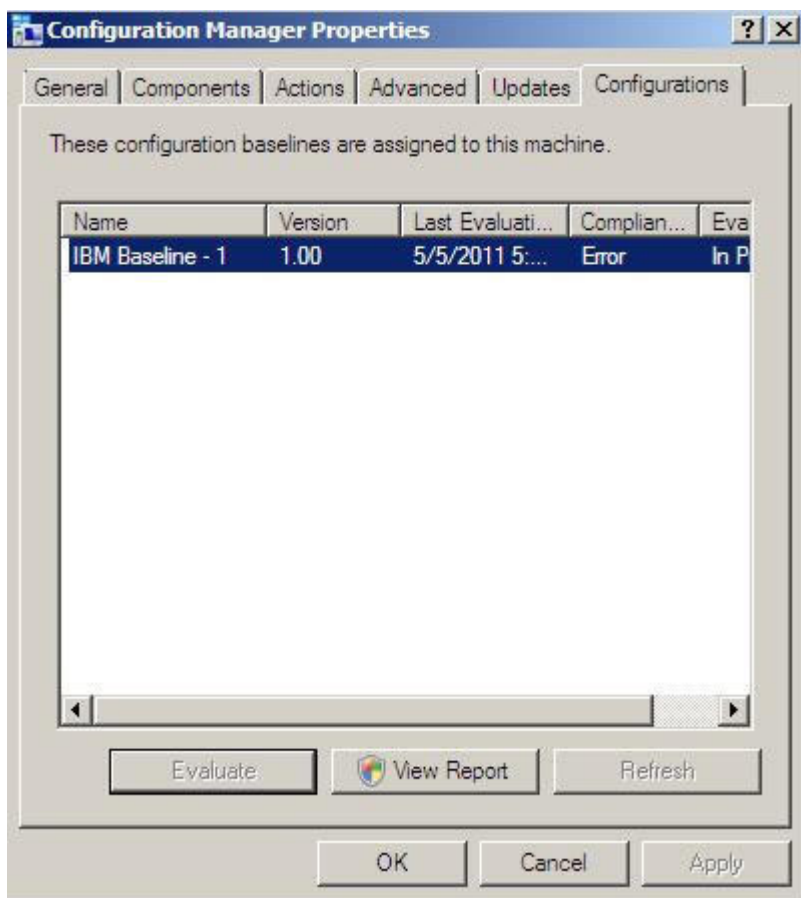


図 74. 「レポートの表示 (View Report)」ボタンが使用可能になっている「構成」タブ

評価レポートの表示

状況によっては、評価対象設定 (スクリプト) から値が返されない場合があります。

このような状況が発生する理由はいくつかあります。

- エンドポイントに IMM モジュールがない。
- エンドポイントに IMM モジュールはあるが、評価対象の設定値がエンドポイントで見つからない。
- IMM モジュールへの接続に、誤ったユーザー ID とパスワードが使用された。
- ASU.exe ファイル・バージョンが v3.60 以降ではない。
- 評価がタイムアウトになった (5 分)。SCCM は時間制限を設定します。

注: 評価対象設定から値が返されない場合、SCCM クライアント・エージェントはその設定がエンドポイント上で非標準であるとみなし、重大度レベルを「情報」として評価します。評価レポートでは原因を指定できません。原因を判別するには、Windows イベント ビューアのログで詳細を確認する必要があります (ログの例については、図 3 を参照してください)。

Setting/Object Name	Setting/Object Type	Setting/Object Description	Constraint Name	Constraint Description	Severity	Constraint	Instance Data	Current Value
IMM.CIMOverHTTPPort	Script	Configure the IMM port assignment for "IBM Systems Director over HTTP." min="0" max="65535" default="5988"	Instance count validation	The validation of the number of instances of an object or setting	Information	(number(count (ns_ScopeId_550a3dbb-8f51-47a7-86ac-eef6929722ab_this:Setting_a006e5d1-83e7-4c9b-bc0c-748ec061f2be)) > number(0))		0
IMM.PowerRestorePolicy	Script	mode of operation if a power loss occurs. This setting can also be configured via BIOS F1 setup. Restores system to the same state it was before power failed.	Instance count validation	The validation of the number of instances of an object or setting	Information	(number(count (ns_ScopeId_550a3dbb-8f51-47a7-86ac-eef6929722ab_this:Setting_afeee205-85be-4fa3-9782-8de1bf9d0792)) > number(0))		0

図 75. 値を返さない評価対象の設定値

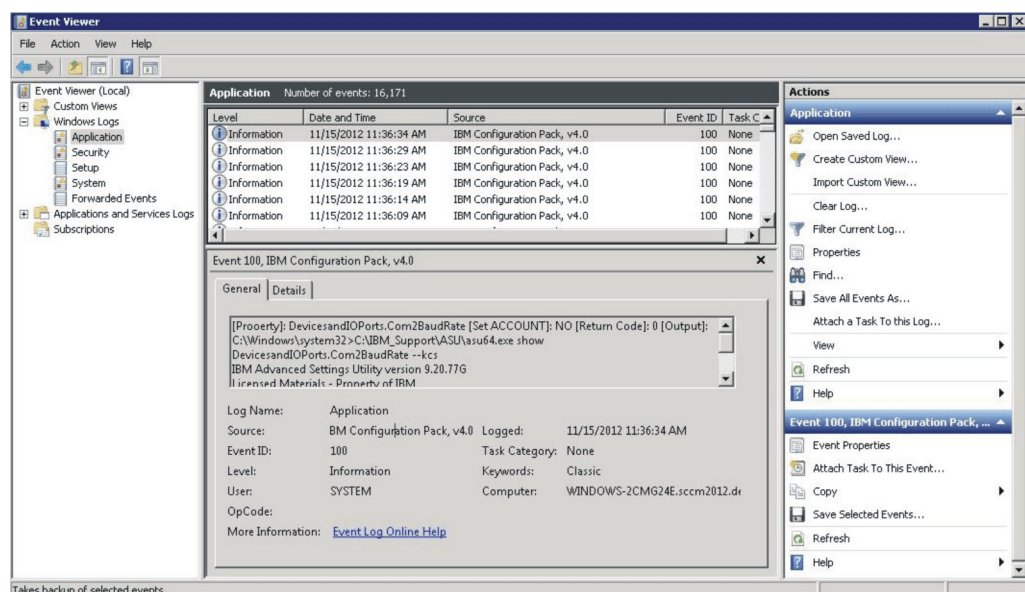


図 76. Windows イベント・ビューアーのログ

ホーム・ページの概要作成の実行

このタスクについて

「ホーム・ページの概要作成 (Homepage Summarization)」によって、SCCM クライアントの構成準拠性状況の概要が作成されます。

手順

1. SCCM コンソールで「必要な構成管理 (Desired Configuration Management)」を右クリックし、「ホーム・ページの概要作成の実行 (Run Homepage Summarization)」を選択します。

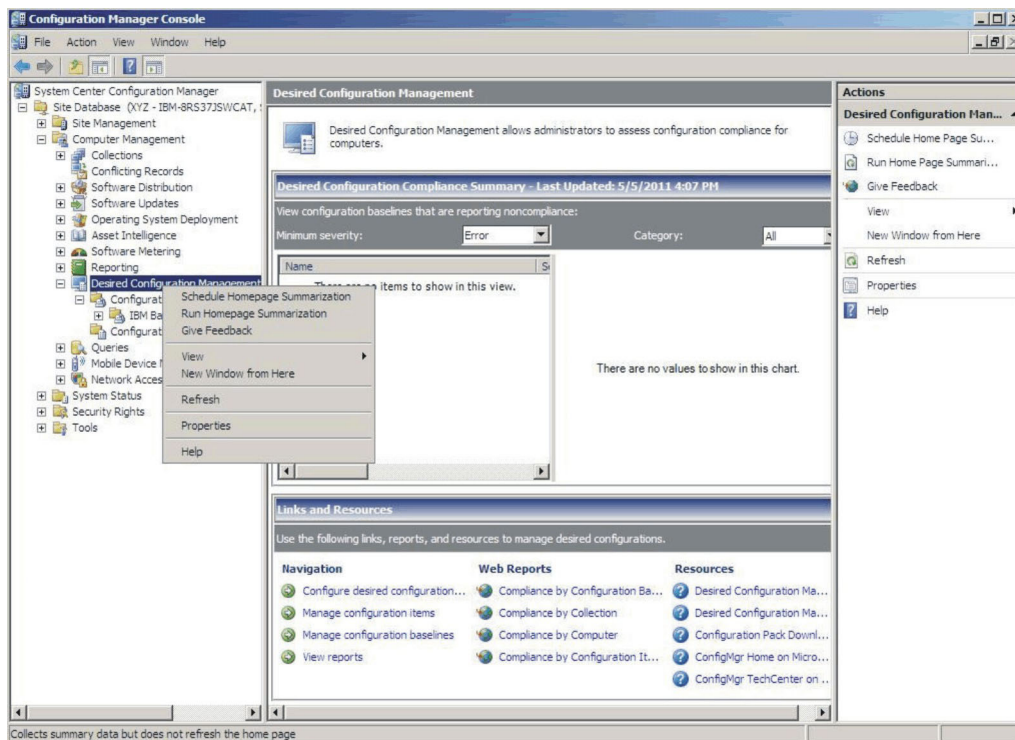


図 77. 「ホーム ページの概要作成の実行」機能

2. 数分後、再び「必要な構成管理 (Desired Configuration Management)」を右クリックし、「最新表示」を選択します。指定されたベースライン・レポートがウィンドウに表示されます。

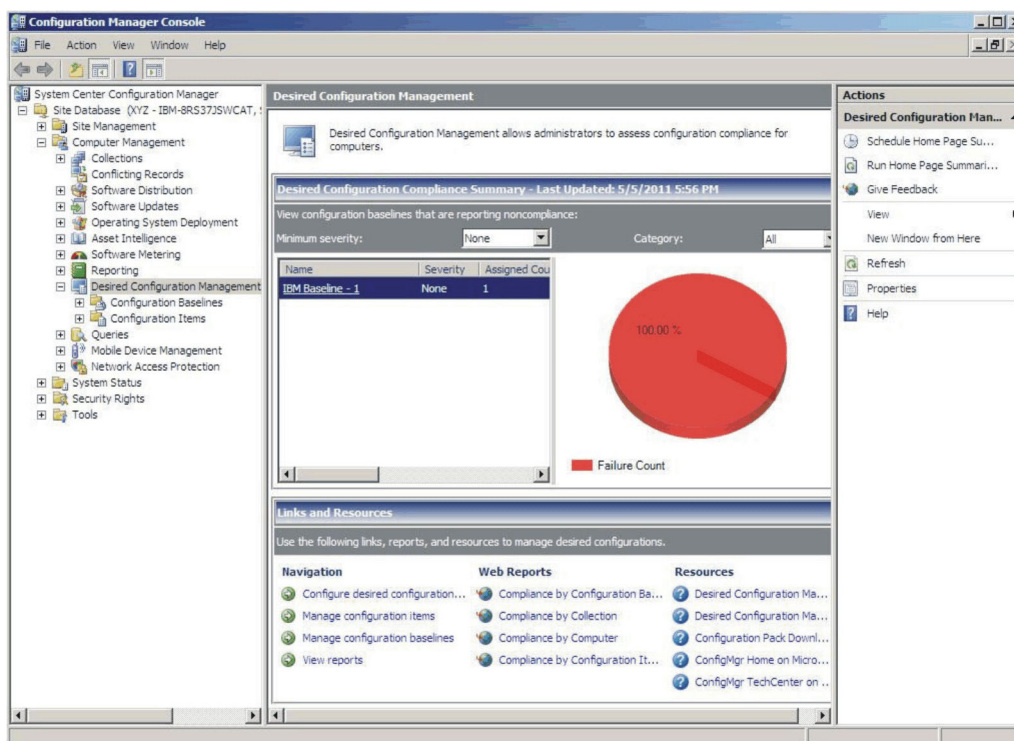


図 78. 基準レポート

3. レポート・ビューを開くには、ベースライン名のリンク・ラベルをクリックします。DCM のレポートについて詳しくは、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb680430.aspx> を参照してください。

注: SCCM コンソールは、レポートへのアクセスが使用可能に設定されている必要があります。そうでない場合、SCCM コンソールでレポート・ビューを開くことができません。

IBM Configuration Pack を SCCM 2012 コンソールに適用

このセクションでは、IBM 構成データを SCCM サーバーにインポートする方法について説明します。

DCM への構成データのインポート 手順

1. SCCM コンソールを開き、「Desired Configuration Management」を展開します。「構成ベースライン」または構成項目を右クリックし、「構成データのインポート」を選択します。

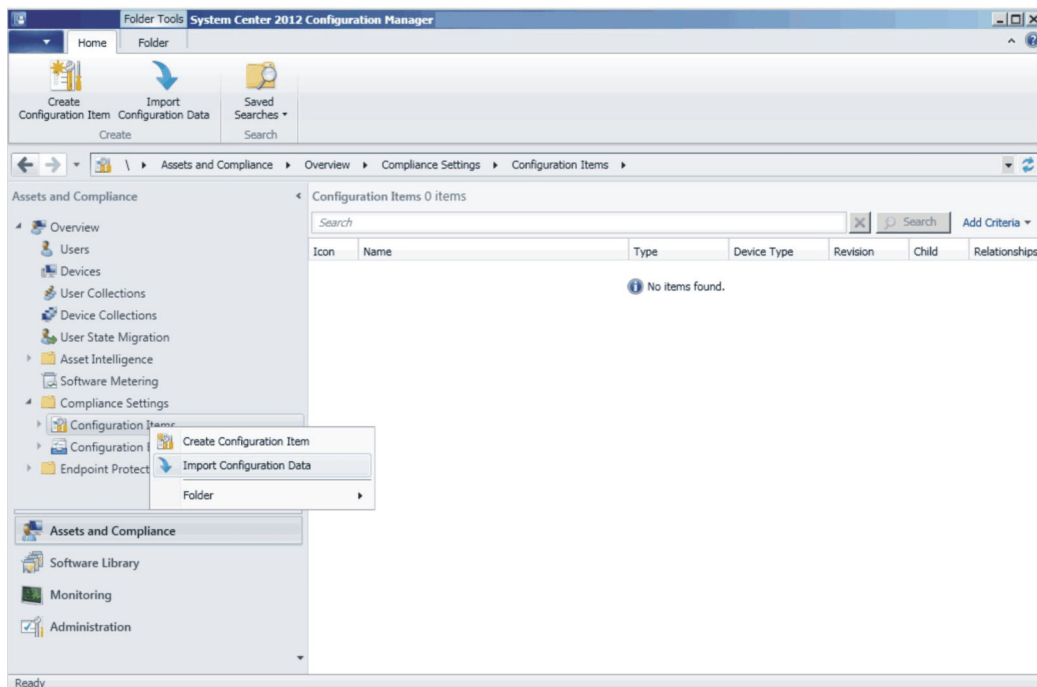


図 79. 「構成データのインポート」機能

2. 「追加」をクリックして、エクスポートされた IBM Configuration Pack .cab ファイルを選択します。

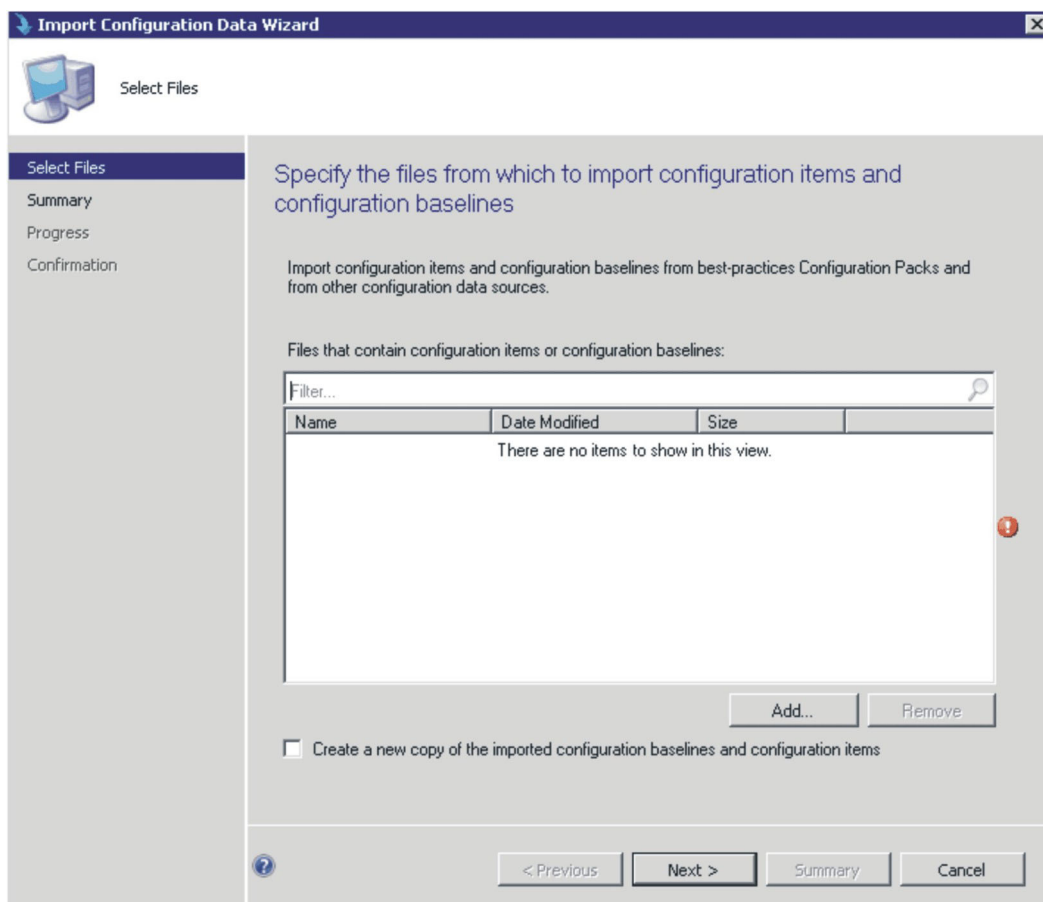


図 80. エクスポートされた IBM Configuration Pack .cab ファイルの追加

3. 「IBM Configuration Pack」を選択し、「開く」をクリックしてインポートします。

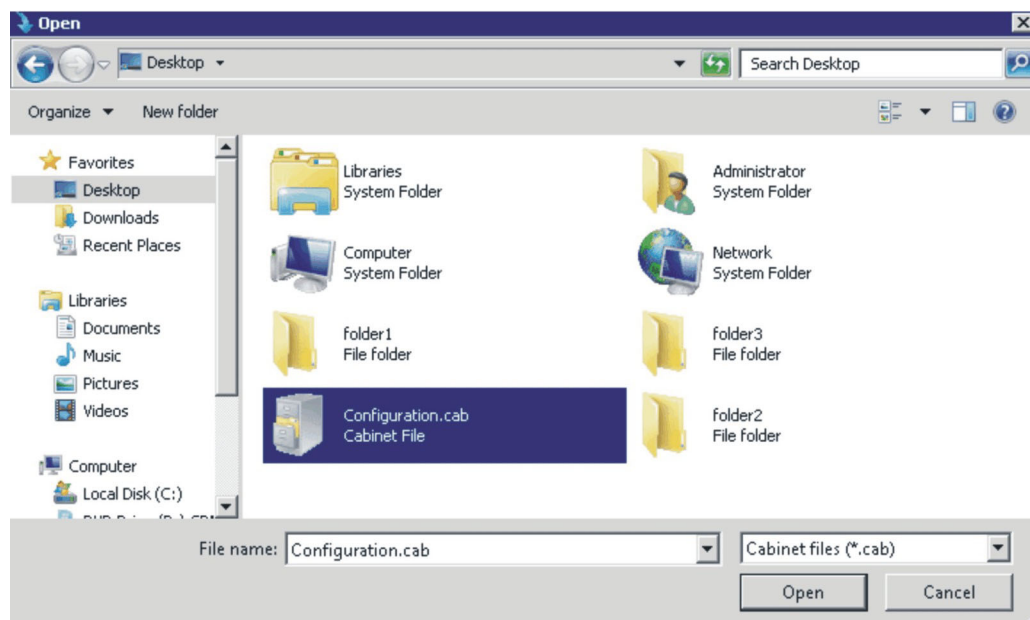


図 81. エクスポートされた .cab ファイルの選択

4. 「パブリッシャーの検査 (Verify Publisher)」ウィンドウが開きます。「はい」をクリックして、ファイルをインポートします。

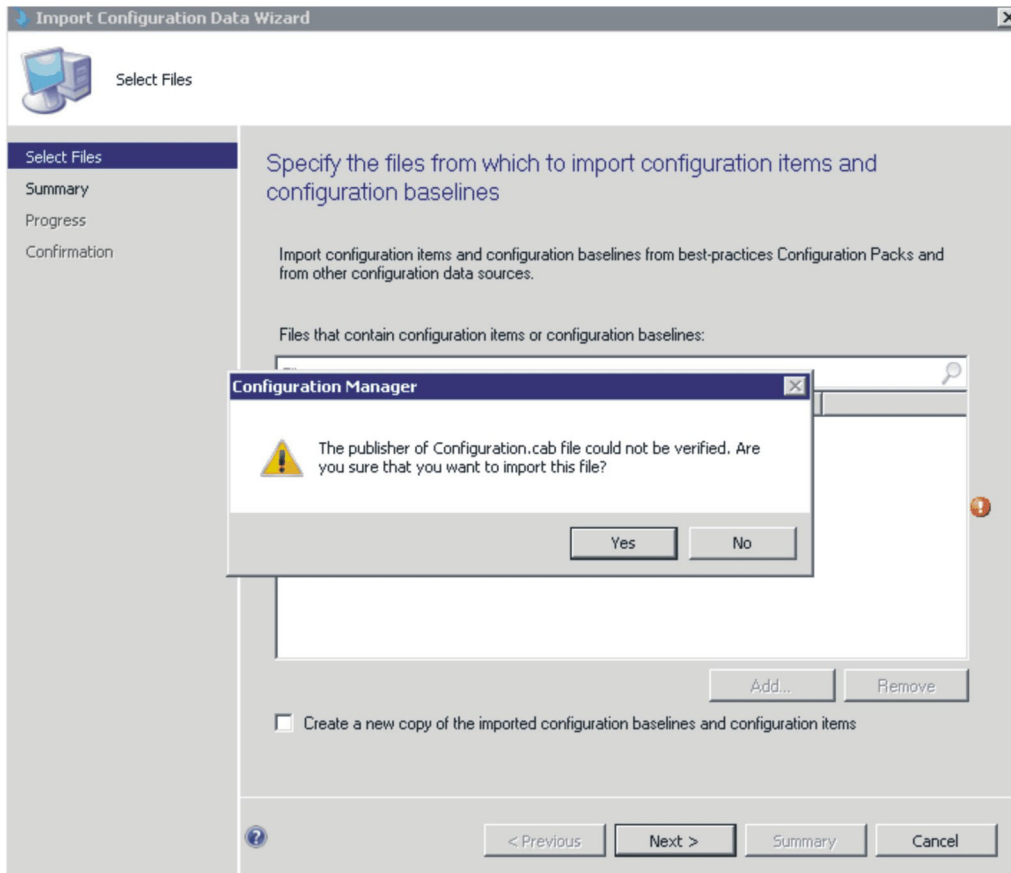


図 82. 「パブリッシャー検査 (Publisher Check)」ダイアログ・ボックス

5. 「次へ」をクリックして、IBM Configuration Pack .cab ファイルをインポートします。

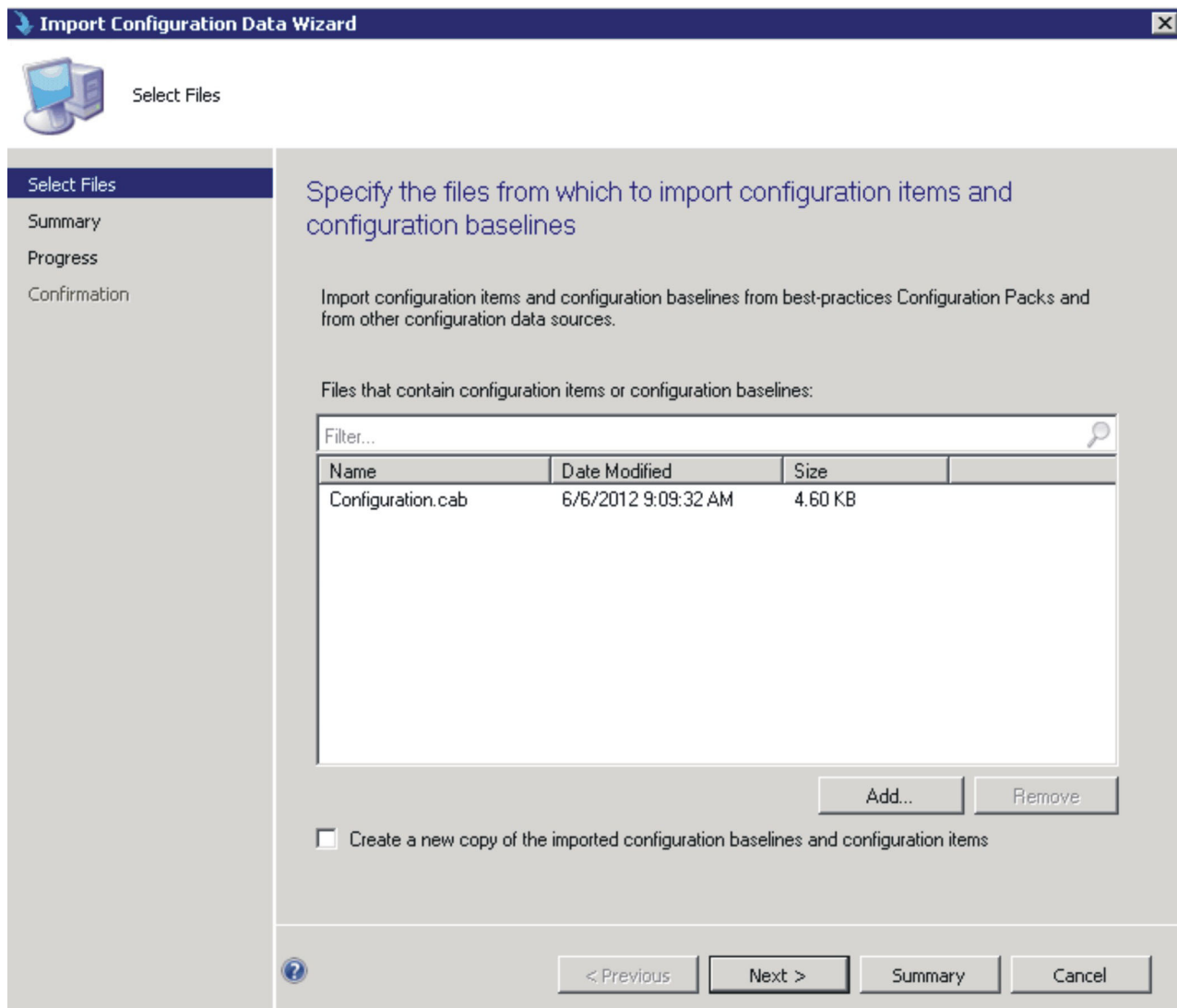


図 83. 選択した .cab ファイルのインポート

6. 構成項目が IBM Configuration Pack ツリーに表示されます。「次へ (Next)」をクリックします。

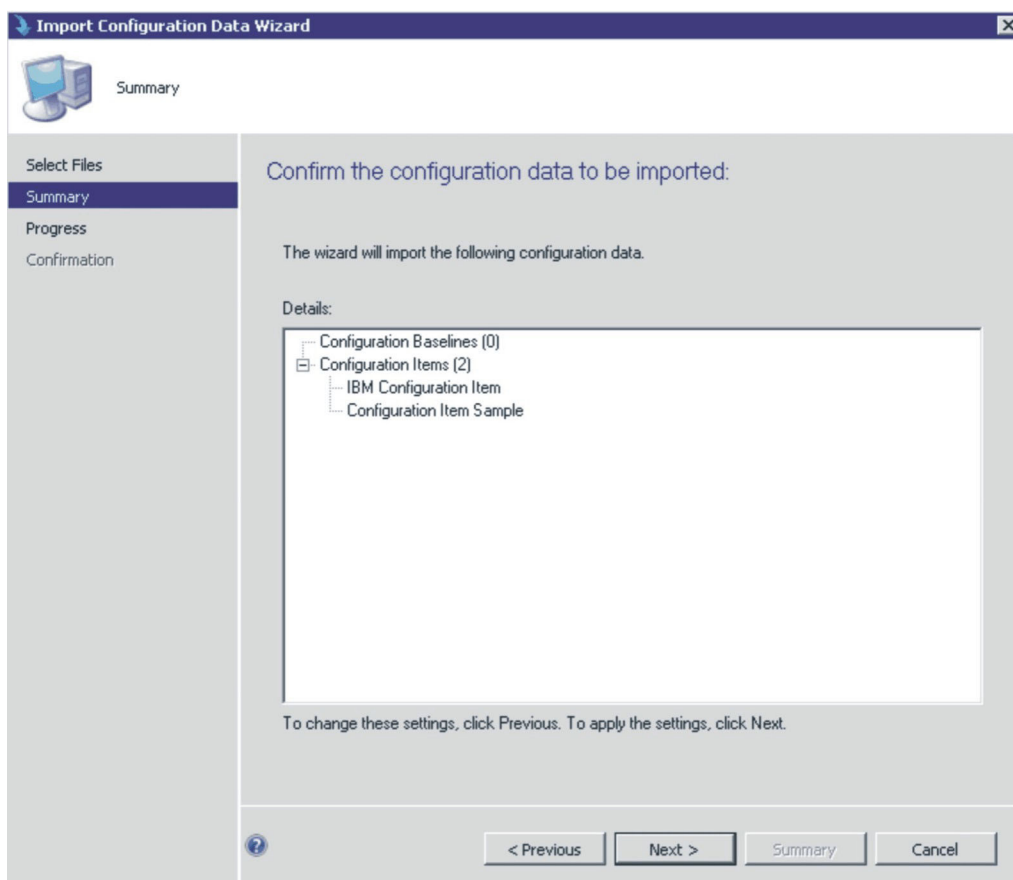


図 84. 構成データの確認

7. 構成データが正常にインポートされたことを示すメッセージが表示されます。
「クローズ」をクリックして、ウィザードを終了します。

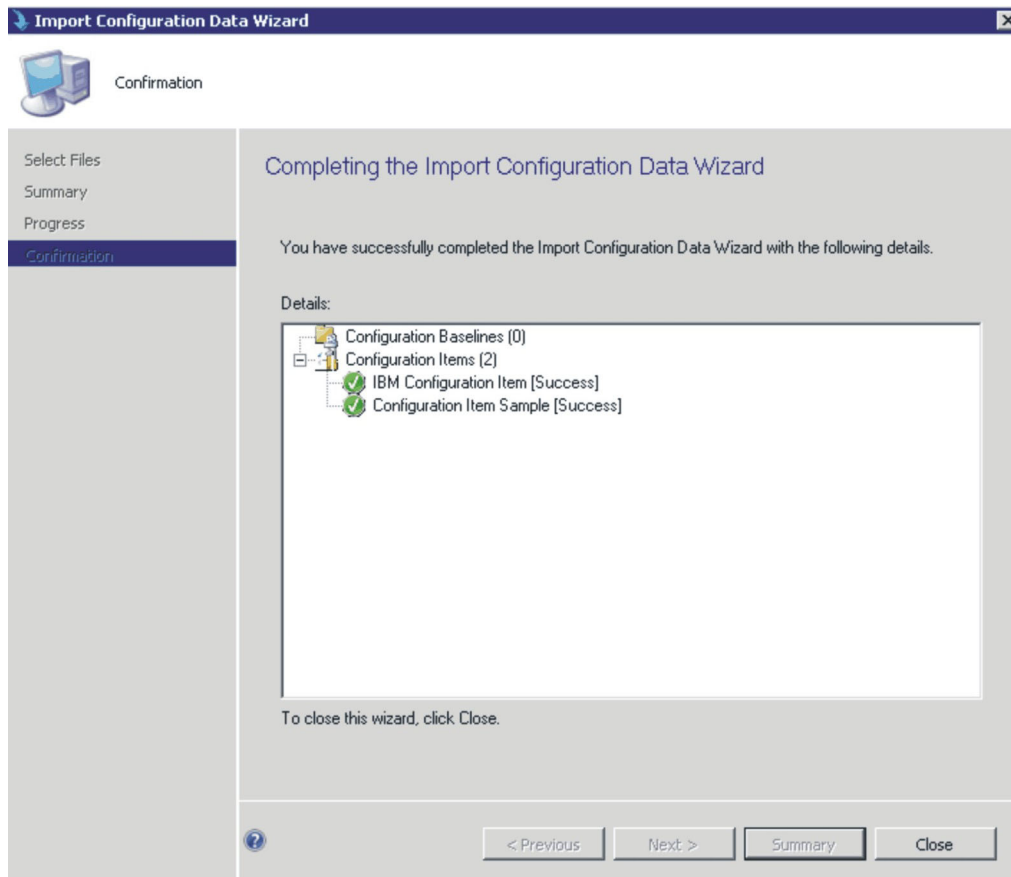


図 85. 正常終了のウィンドウ

8. 「構成項目」ノードを右クリックして「最新表示」を選択します。インポートされた構成項目がウィンドウに表示されます。

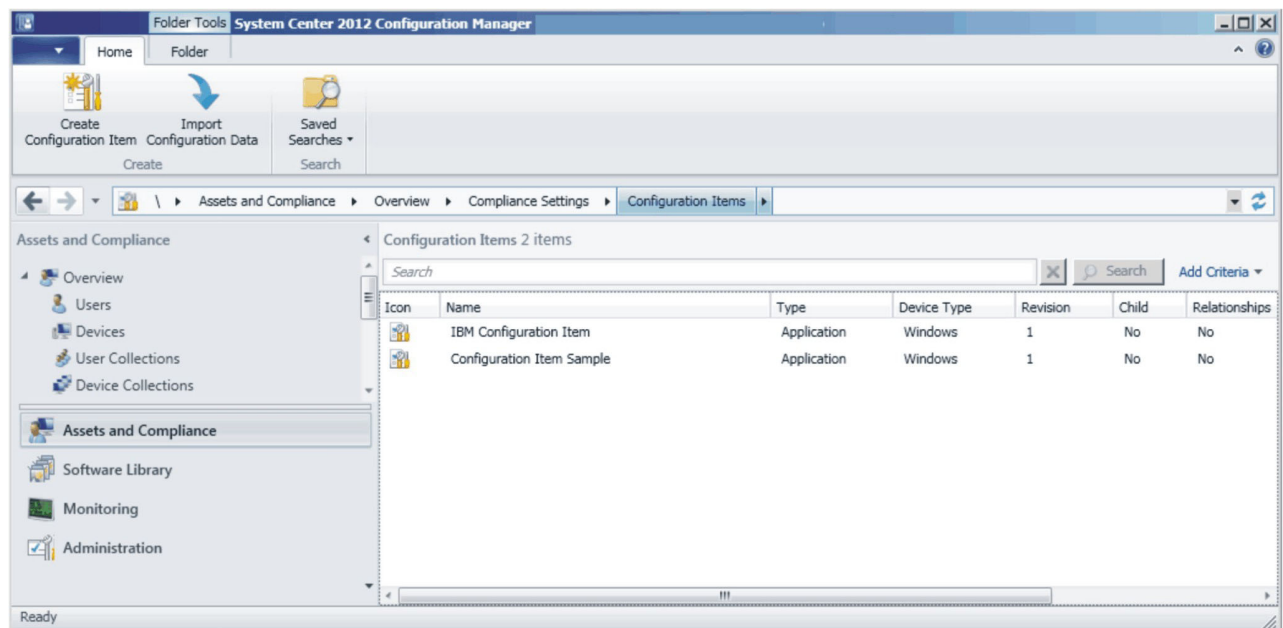


図 86. インポートされた構成項目を持つ SCCM

注: インポートされた構成項目の状況は「ロック (Lock)」となっている場合があります。状況が「ロック (Lock)」になっている原因は、以下のいずれかです。

- 構成データが読み取り専用である。
- 構成データが SCCM コンソール管理者によって作成されたものではない。

構成項目のプロパティーの表示

このタスクについて

このセクションでは、SCCM サーバーにインポートされた IBM 構成データを表示する方法について説明します。

手順

1. 構成項目のプロパティーを表示するには、対象の構成項目をダブルクリックします。「設定」タブのページに IBM 設定コレクションがリストされます。

設定の 1 つを任意に選択すると、検証する設定を表示できます。設定をダブルクリックして表示するか、または設定を 1 つ選択して「編集」をクリックします。

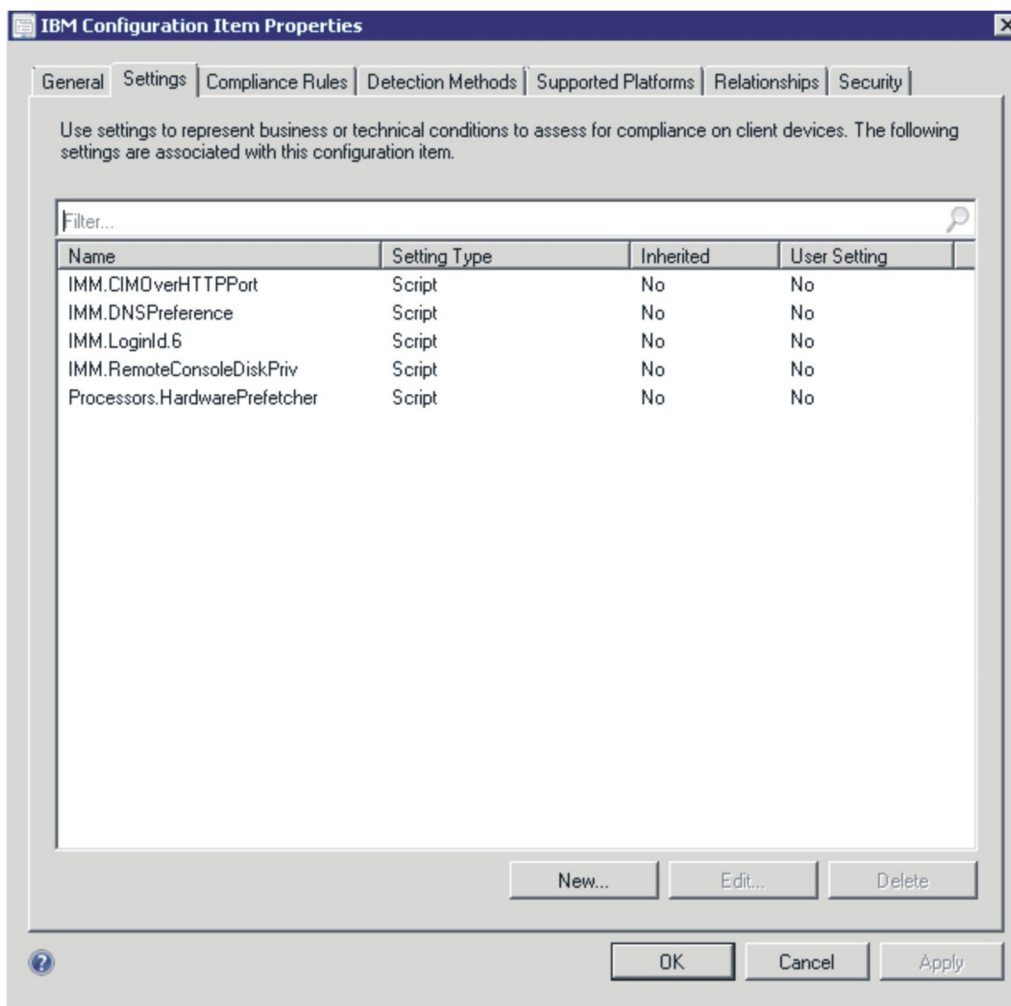


図 87. 「設定」タブ

2. 「検出方法 (Detection Method)」タブでは、IBM Configuration Pack Editor が構成項目ごとに検出方法を定義しています。この検出方法では、エンドポイントに ASU.exe ファイルが存在するかどうかを検査されます。このファイルが存在しない場合は、構成項目から「検出されませんでした (Not Detected)」状態が返され、子設定グループの検証が停止されます。

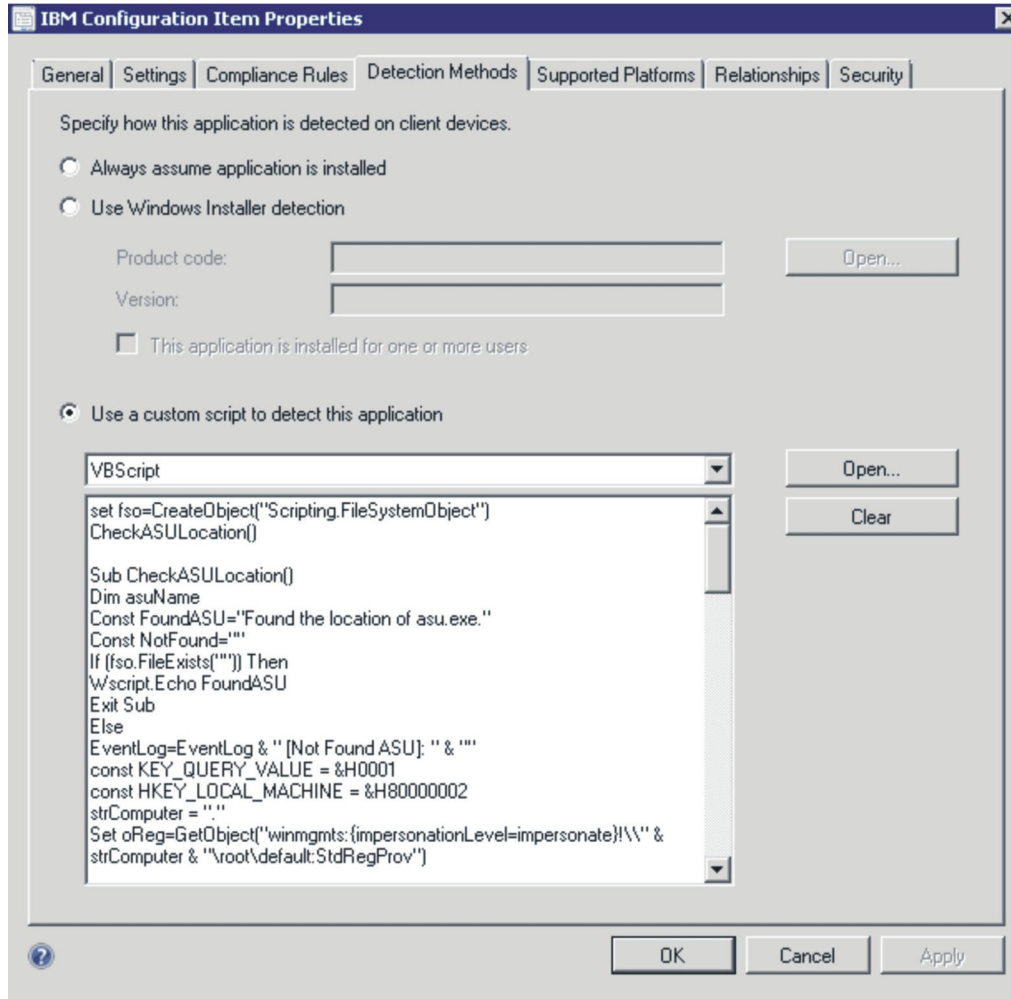


図 88. 「検出方法」タブ

基準の作成

このタスクについて

エンドポイントで検証するすべての構成項目が含まれているベースラインを作成する必要があります。

注: ベースラインのないエンドポイントに構成項目を割り当てることはできません。

手順

1. SCCM コンソールで「Desired Configuration Management」ノードを展開します。
2. 「構成ベースライン」を右クリックし、「新しい**Configuration Baseline (New Configuration Baseline)**」を選択します。

「Configuration Baselineの作成 (Create Configuration Baseline)」ウィザードが開きます。

Create Configuration Baseline

Specify general information about this configuration baseline

Name: IBM-Baseline Sample

Description:

Select the configuration data (configuration items, configuration baselines, and software updates) to be evaluated for compliance by this configuration baseline. This configuration baseline will be assessed as compliant if all the items specified are compliant. Optional items are evaluated only if the relevant application is present on the client devices.

Configuration data:

Name	Type	Purpose	Revision
There are no items to show in this view.			

Add Change Purpose Change Revision Remove

Configuration Items
Software Updates
Configuration Baselines

Searching and filtering:

Categories...

OK Cancel

図 89. 「Configuration Baselineの作成」機能

- 名前を入力し、オプションとしてベースラインの説明を入力します。「追加」をクリックします。

Specify general information about this configuration baseline

Name: IBM-Baseline Sample

Description:

Select the configuration data (configuration items, configuration baselines, and software updates) to be evaluated for compliance by this configuration baseline. This configuration baseline will be assessed as compliant if all the items specified are compliant. Optional items are evaluated only if the relevant application is present on the client devices.

Configuration data:

Filter...

Name	Type	Purpose	Revision
There are no items to show in this view.			

Add Change Purpose Change Revision Remove

Configuration Items
Software Updates
Configuration Baselines

Searching and filtering:

Categories...

OK Cancel

図 90. 「構成の追加 (Add Configuration)」 ウィンドウ

- 「構成項目」リンクをクリックして、検証する構成項目を選択します。

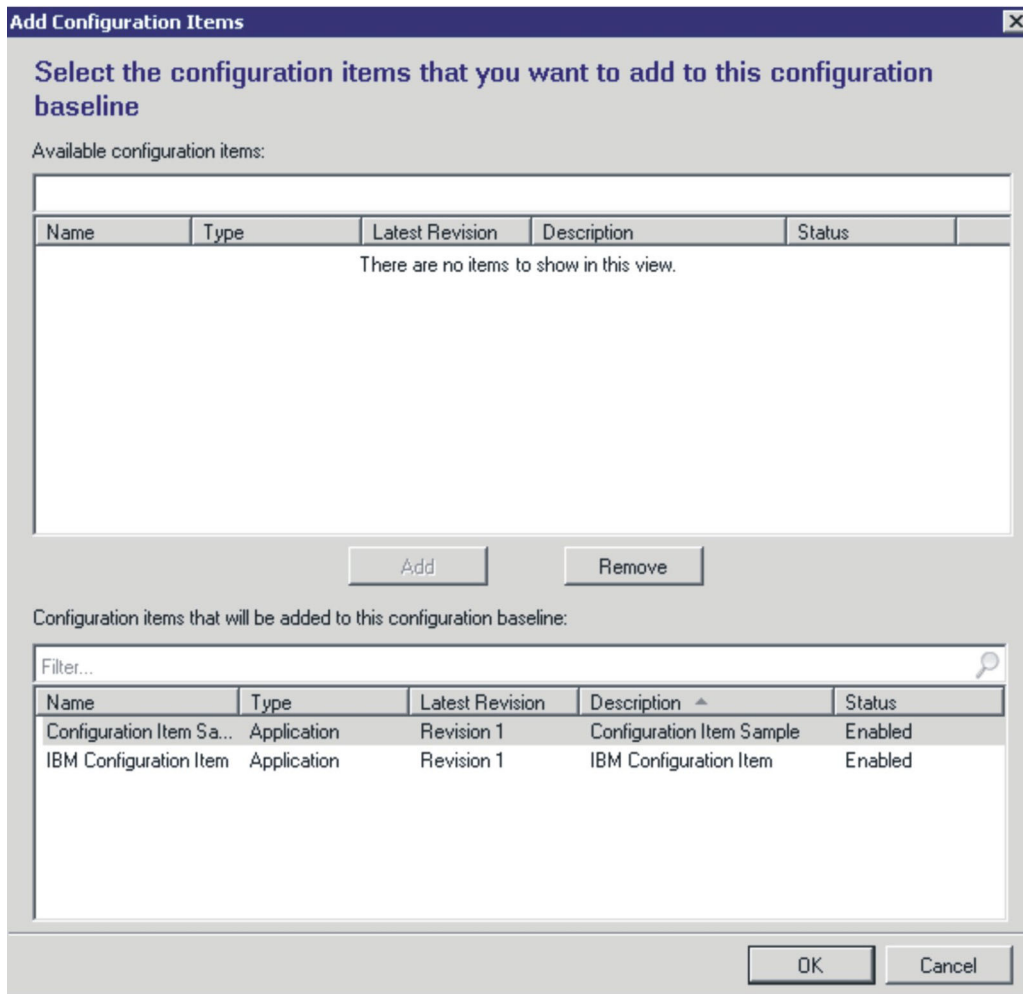


図 91. 「構成項目の追加」ウィンドウ

5. 「OK」をクリックしてウィザードを終了します。

ベースラインをコレクションに割り当てる このタスクについて

あるコレクションのクライアントの設定を確認する場合は、ベースラインをコレクションに割り当てることができます。

手順

1. SCCM コンソールで、新しいベースラインを右クリックして「**デプロイ (Deploy)**」を選択します。

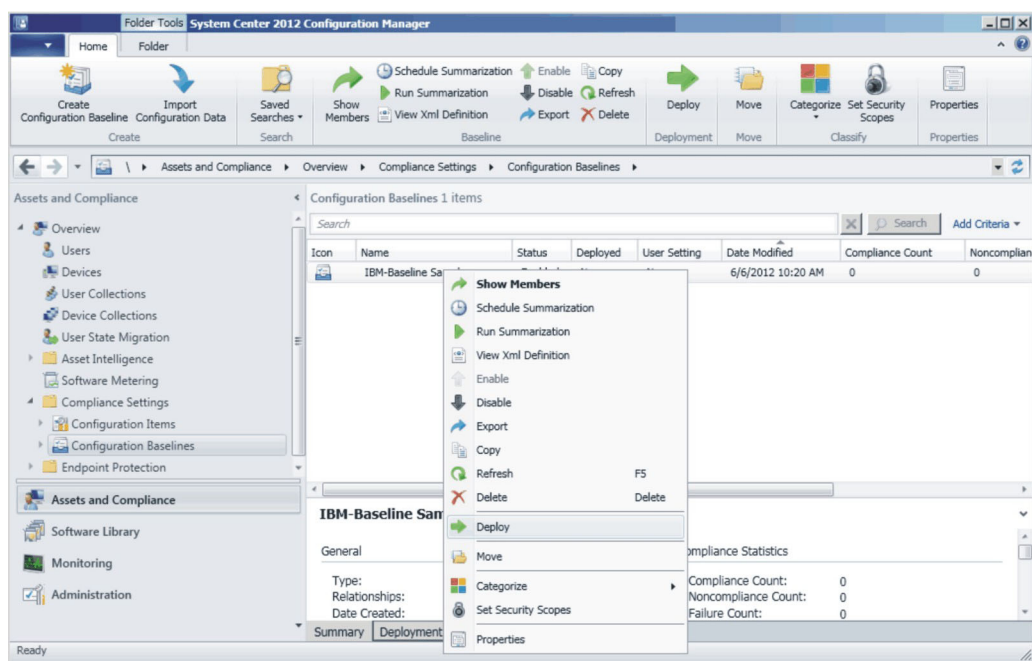


図 92. 「コレクションにデプロイ (Deploy to a Collection)」機能

「Configuration Baselineの割り当て (Assign Configuration Baseline)」ウィザードが開きます。

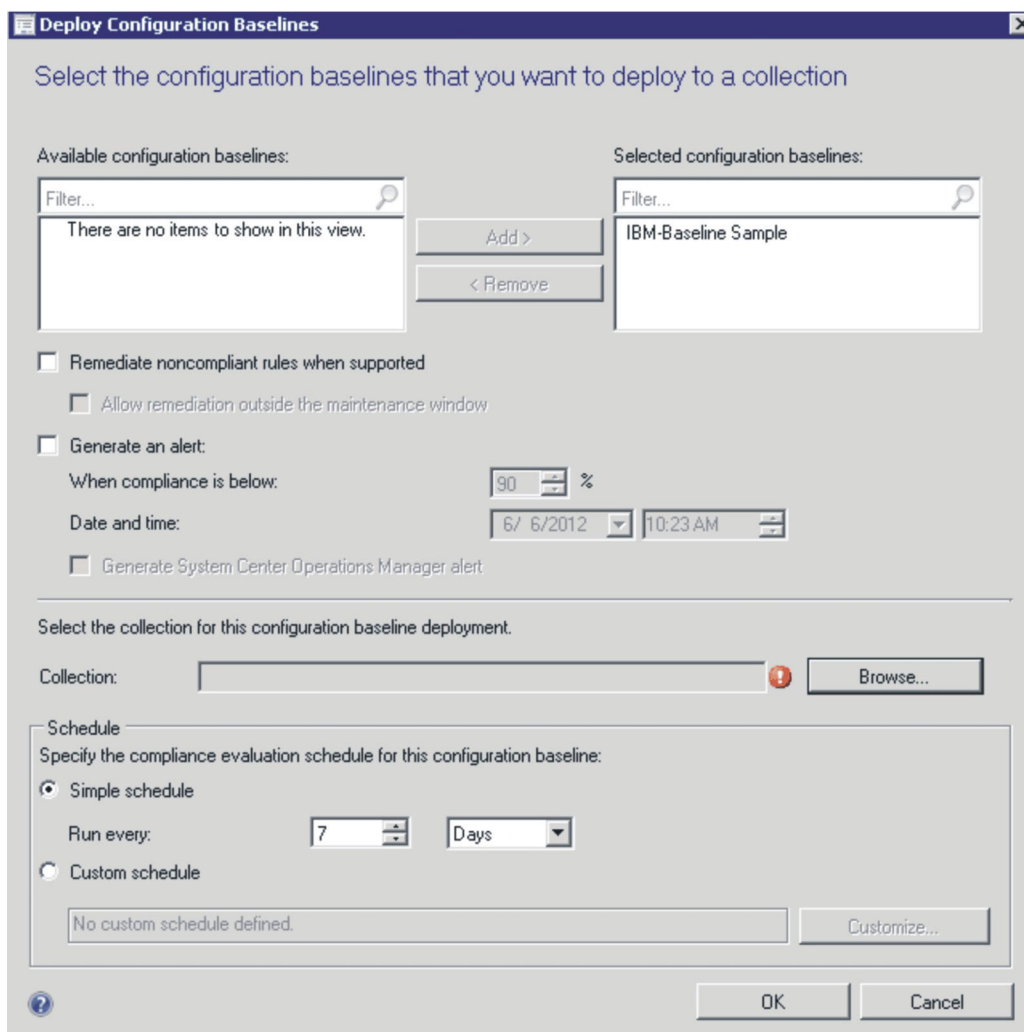


図 93. 「構成ベースラインの割り当て (Assign Configuration Baseline)」機能

注: 非準拠設定を修復する場合は、「サポートされている場合は非準拠規則を修復 (Remediate noncompliant rules when supported)」を選択します。この設定を選択しても、この設定が準拠している場合は何も行われません。設定が非準拠の場合、SCCM はその設定を予測値に変更しようとします。修復アクションは必ずしも正常に行われるとは限りません。

2. 「コレクション (Collection)」フィールドの横にある「ブラウズ」をクリックして、ターゲットのクライアント・コレクションを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

エンドポイント上でのベースラインの評価 このタスクについて

ベースラインとその子構成項目は、作成または選択されたスケジュールに従って自動評価されます（構成項目の設定が検査されます）。ただし、以下のようにして前倒しで評価できます。

手順

1. エンドポイントが SCCM サーバー上で検出されるようにし、SCCM クライアント・エージェントのインストールを済ませておきます。そうでないと、エンドポイントは SCCM サーバーからベースラインを受け取りません。
2. エンドポイントが 32 ビットの場合は、「コントロール パネル」 > 「**Configuration Manager**」をクリックします。エンドポイントが 64 ビットの場合は、「コントロール パネル」 > 「**32 ビットのコントロール パネルの項目の表示**」 > 「**Configuration Manager**」を開きます。

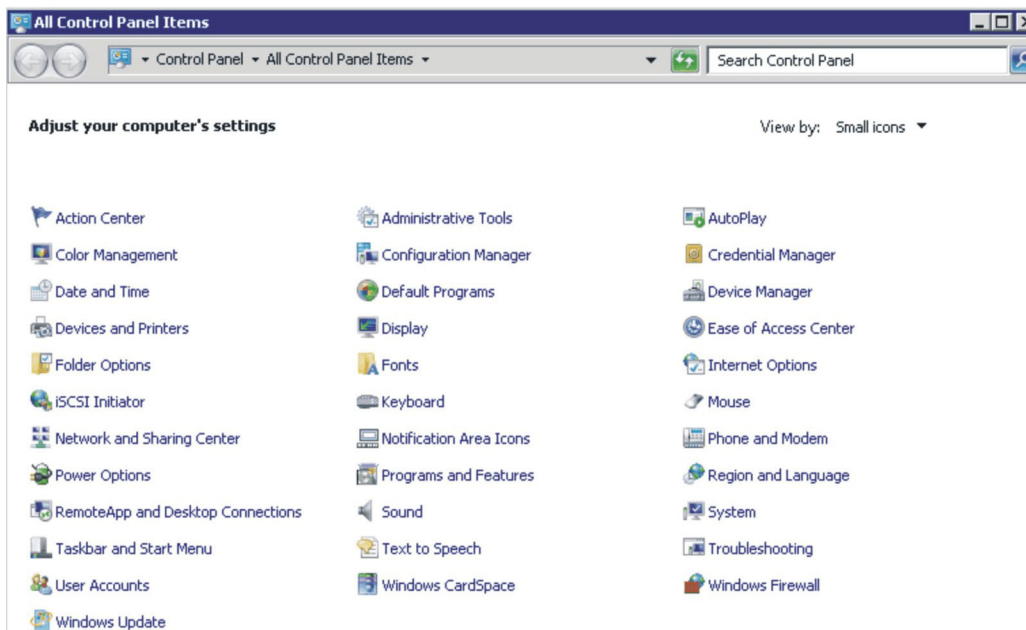


図 94. 「コントロール パネル」フォルダー内の *Configuration Manager*

「Configuration Manager のプロパティ」ウィンドウが開きます。

3. 「動作」タブで「コンピューター ポリシーの取得および評価サイクル」を選択して、「動作の開始」をクリックします。アクションが開始されたことを通知するウィンドウが開きます。「OK」をクリックします。

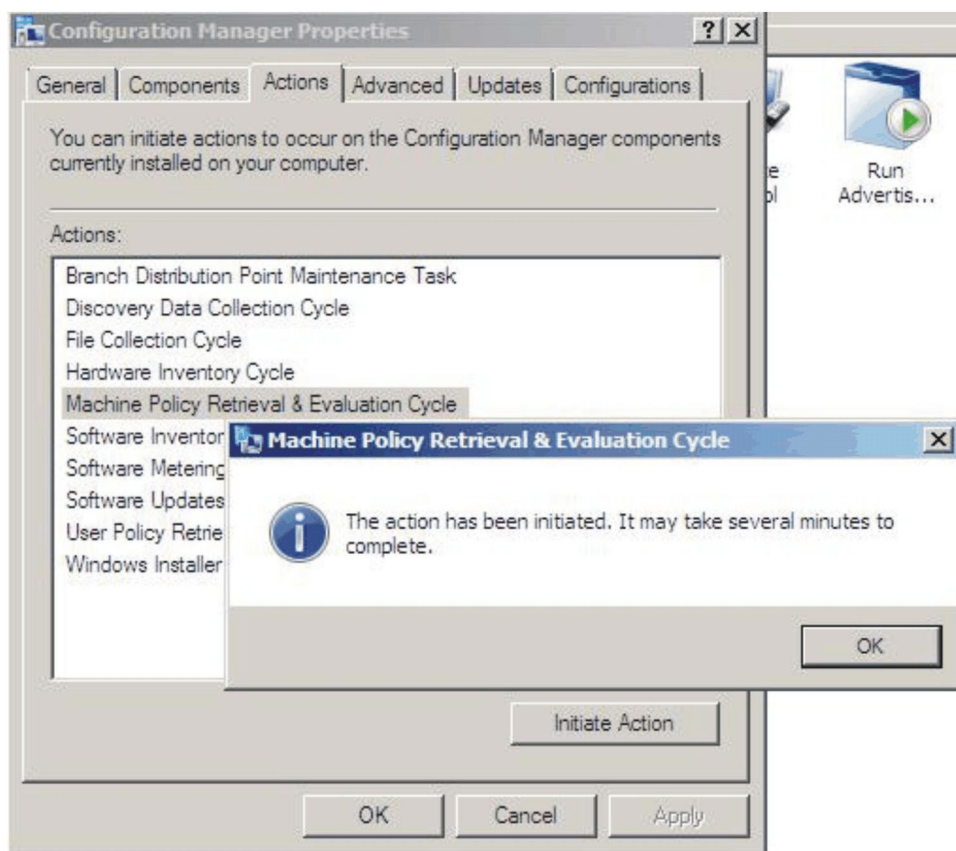


図 95. アクションが開始されたことを示すウィンドウ

4. 数分後、ベースラインが「構成」タブに表示されます。ベースラインが表示されない場合は、「最新表示」をクリックします。

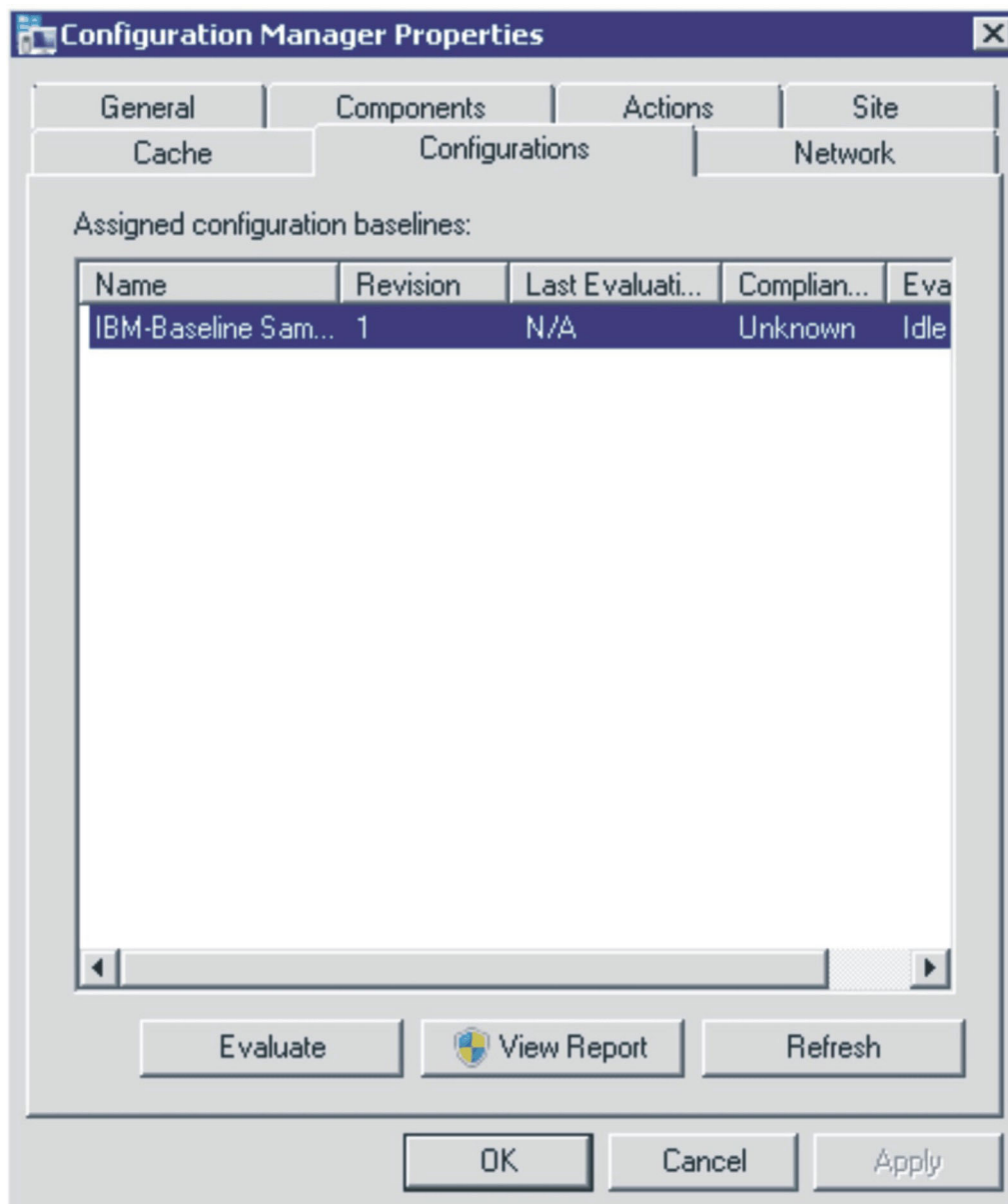


図 96. 「構成」 タブ

5. ベースラインを選択して、「評価 (Evaluate)」をクリックします。数分後に「評価 (Evaluate)」ボタンが使用可能になります。ベースラインを選択し、「レポートの表示 (View Report)」をクリックしてレポートを確認します。

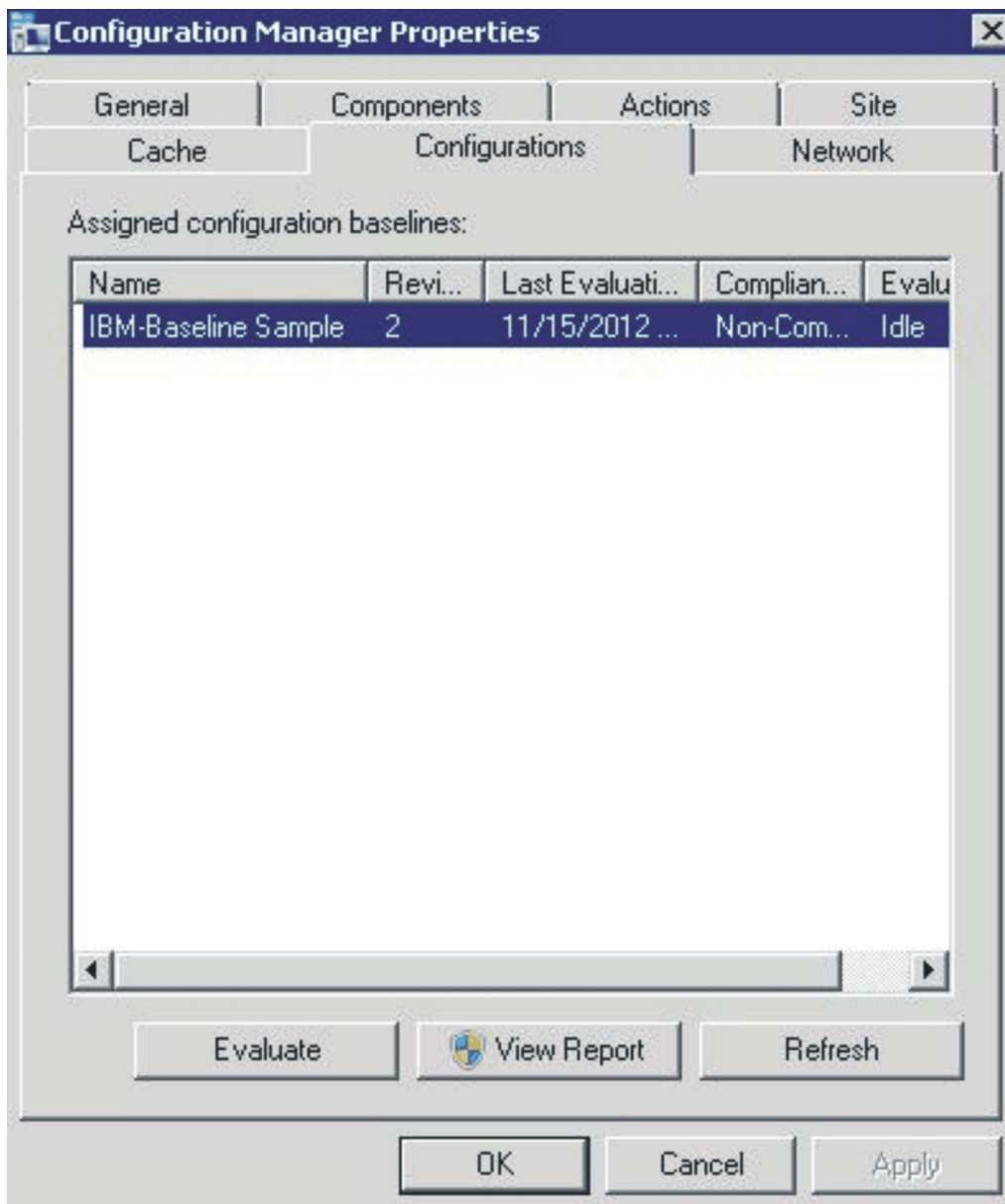


図 97. 「レポートの表示 (View Report)」ボタンが使用可能になっている「構成」タブ

評価レポートの表示

状況によっては、スクリプトが評価対象設定の値を返さない場合があります。

- エンドポイントに IMM モジュールがない。
- エンドポイントに IMM モジュールはあるが、評価対象の設定値がエンドポイントで見つからない。
- IMM モジュールへの接続に、誤ったユーザー ID とパスワードが使用された。
- ASU.exe ファイル・バージョンが v3.60 以降ではない。
- 評価がタイムアウトになった (5 分)。SCCM は時間制限を設定します。

注: 評価対象設定から値が返されない場合、SCCM クライアント・エージェントはその設定がエンドポイント上で非標準であるとみなし、重大度レベルを「情報」として評価します。評価レポートでは原因を指定できません。原因を判別するには、Windows イベント ビューアーのログで詳細を確認する必要があります。(ログの例

については、図 2 を参照してください。)

Summary:

Name	Revision	Type	Baseline Policy	Compliance State	Non-Compliance Severity	Discovery Failures	Non-Compliant Rules	Remediated Rules	Conflicting Rules
Test	1	Baseline		Non-Compliant	Information	0	5	3	0
Test	1	Application Configuration	Required	Non-Compliant	Information	0	5	3	0

図 98. 評価された結果の要約

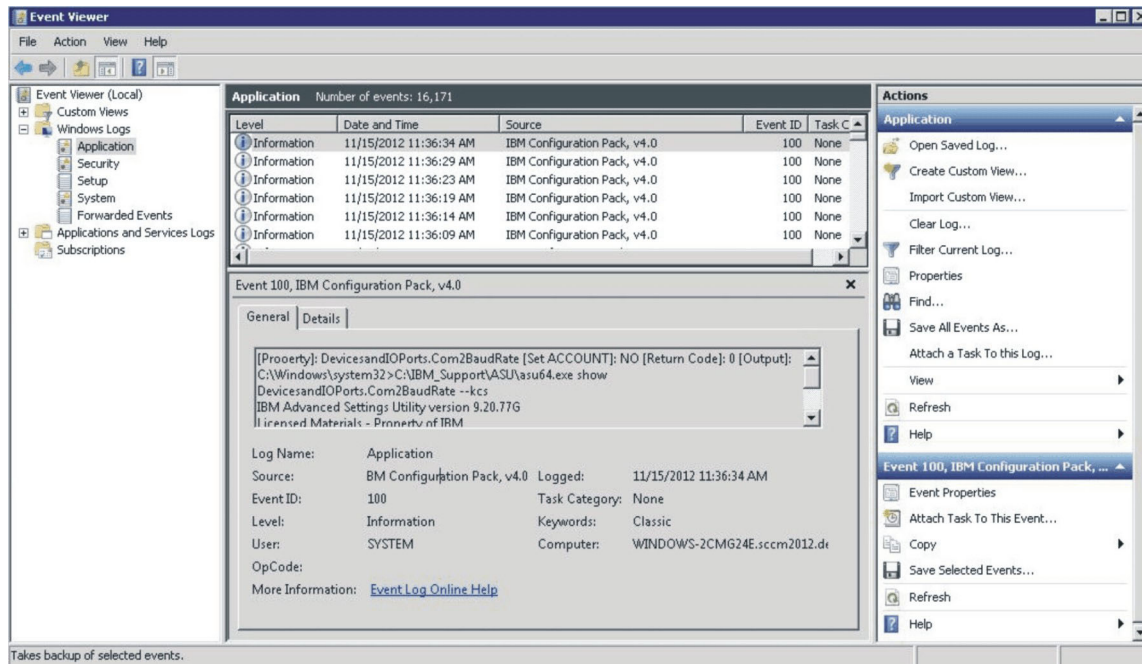


図 99. Windows イベント・ビューアーのログ

図 3 に DCM ログの確認方法が示されています。

Remediated Rules:

Remediated Rule:

Rule Name	Rule Description	Setting Name	Setting Type	Setting Description	Instance Data			
rule	Description	IMM.AccountSecurity	Script	Configure the IMM Global Login Setting "Account security level." Select the authority level associated with this login id.	Expression	Instance Source	Previous Value	Remediated Value
					Equals High security settings	Property = Line[0]	Legacy security settings	High security settings

Remediated Rule:

Rule Name	Rule Description	Setting Name	Setting Type	Setting Description	Instance Data			
rule	Description	IMM.DefPasswordExp	Script	Configure the IMM Global Login Setting "Default Password Expired". To configure this setting, "Custom security settings" must be selected as the AccountSecurity level. Specify whether or not the default password is expired on the next login.	Expression	Instance Source	Previous Value	Remediated Value
					Equals Enabled	Property = Line[0]	Disabled	Enabled

図 100. 修復された規則

IBM Configuration Capture の実行

このタスクについて

IBM Configuration Capture は、IBM サーバーから IMM、UEFI、および UEFI (Romley プラットフォーム) 設定をキャプチャーし、キャプチャーした設定を構成記述 .xml ファイルにエクスポートすることができます。IBM Configuration Capture を開始するには、「スタート」メニューから **IBM Configuration Capture** のショートカットをクリックします。IBM Configuration Capture は、IBM Configuration Pack がインストールされていないコンピューターでも、IBM Configuration Capture の .exe ファイルをそれらのコンピューターにコピーすることによって起動できます。

注: IBM Configuration Capture.exe は、ライセンス資格をアクティブ化せずに起動できます。

手順

1. IBM Configuration Capture の .exe ファイルをクリックして、ウィザードを起動します。ウェルカム・ページが開きます。

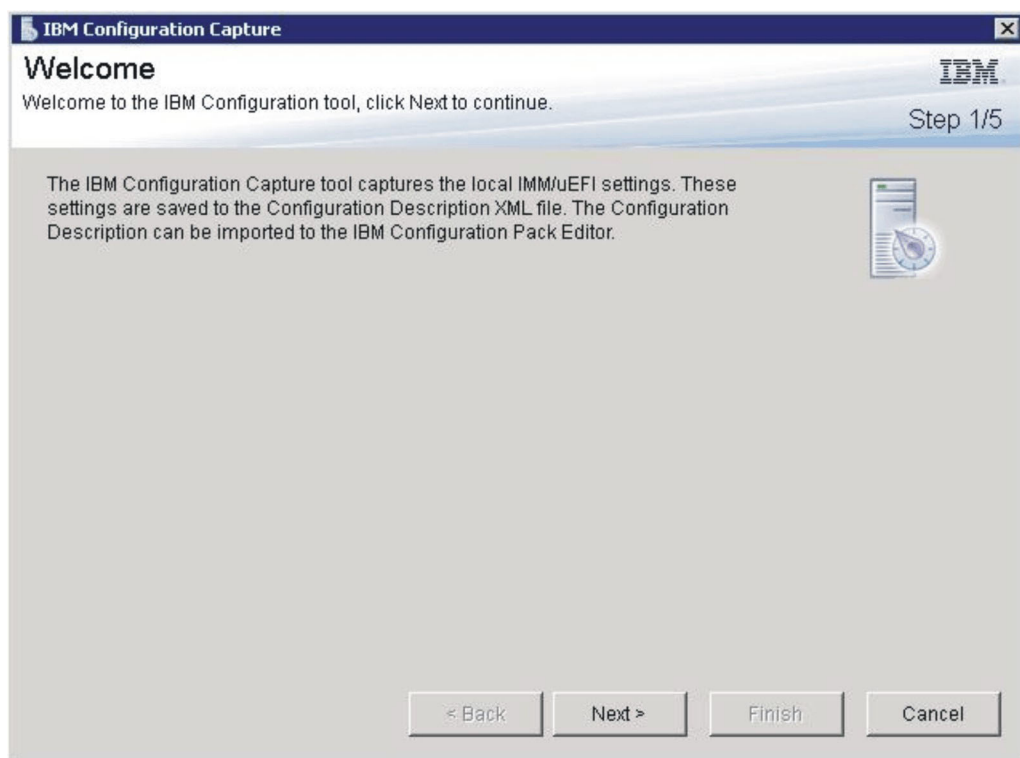


図 101. ウェルカム・ページ

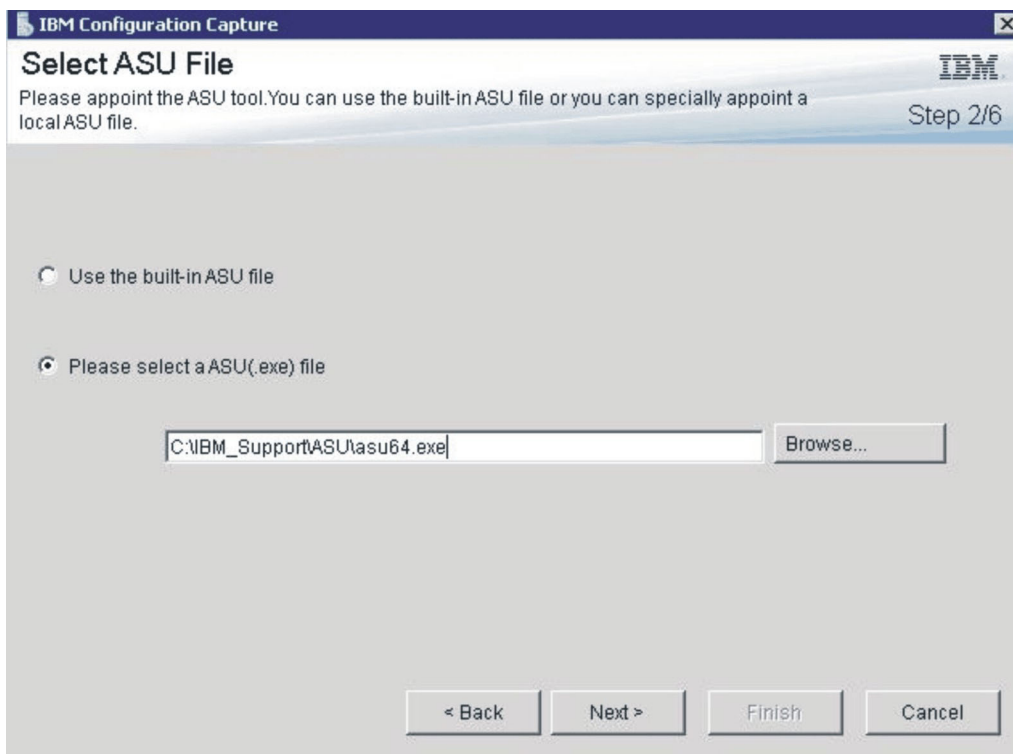


図 102. ASU ファイルの選択

2. 「次へ」 ボタンをクリックして、「一般情報」ページを表示します。このページには、ローカル・コンピューターから情報が自動収集されます。

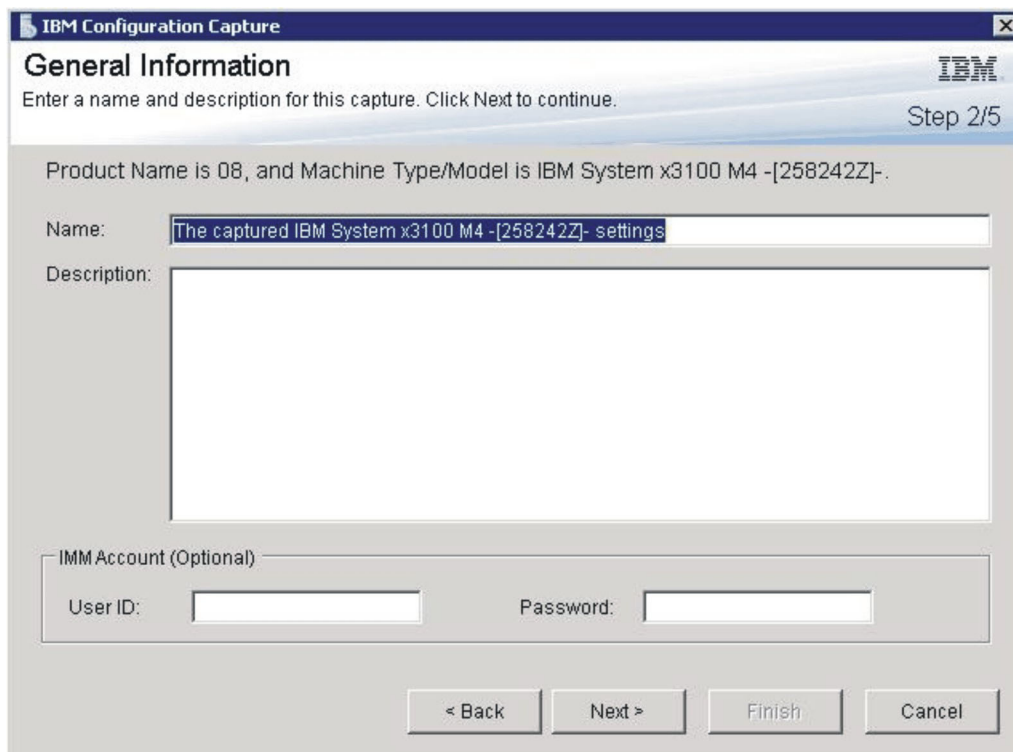


図 103. 「一般情報」ページ

3. 「一般情報」ページで「次へ」ボタンをクリックします。 IBM Configuration Capture はローカル・コンピューターの IMM/UEFI/UEFI (Romley プラットフォーム) 設定値の収集を開始します。

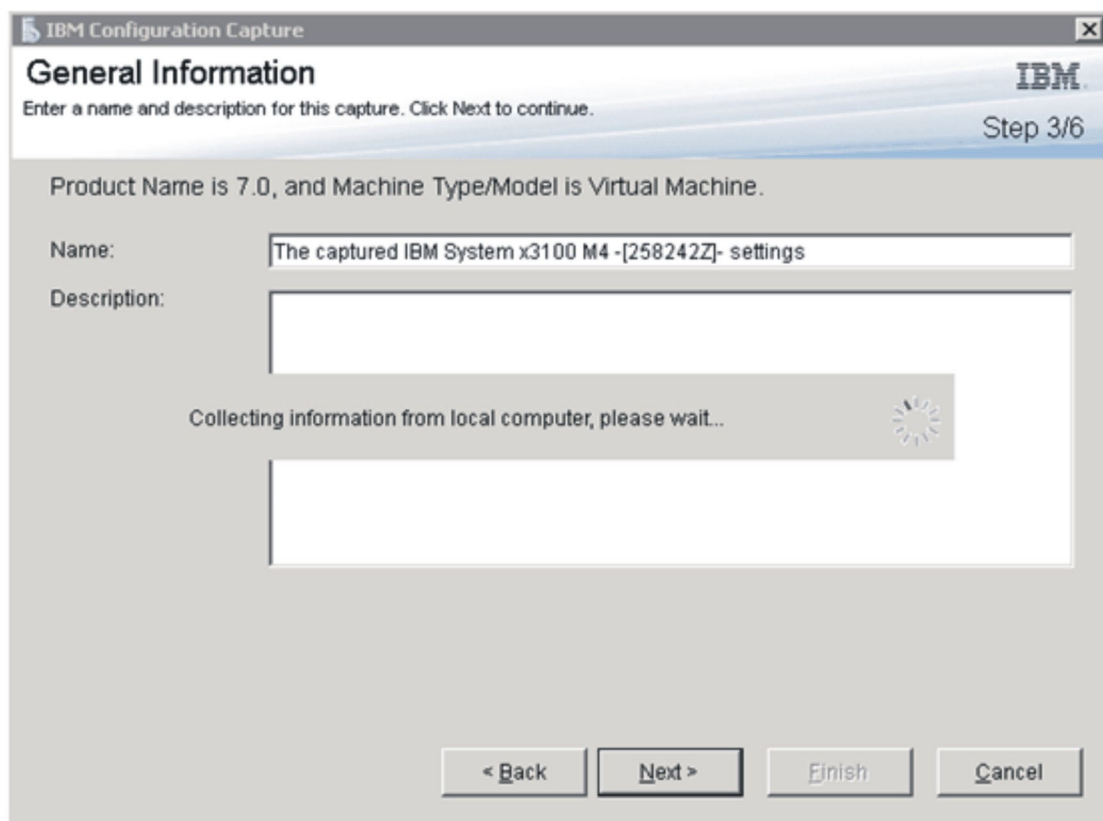


図 104. 情報の収集

4. 数分後、IBM Configuration Capture による設定値の収集が完了します。「設定の選択」ページが開き、キャプチャーされた設定がリストされます。ここから、エクスポートする設定を選択できます。

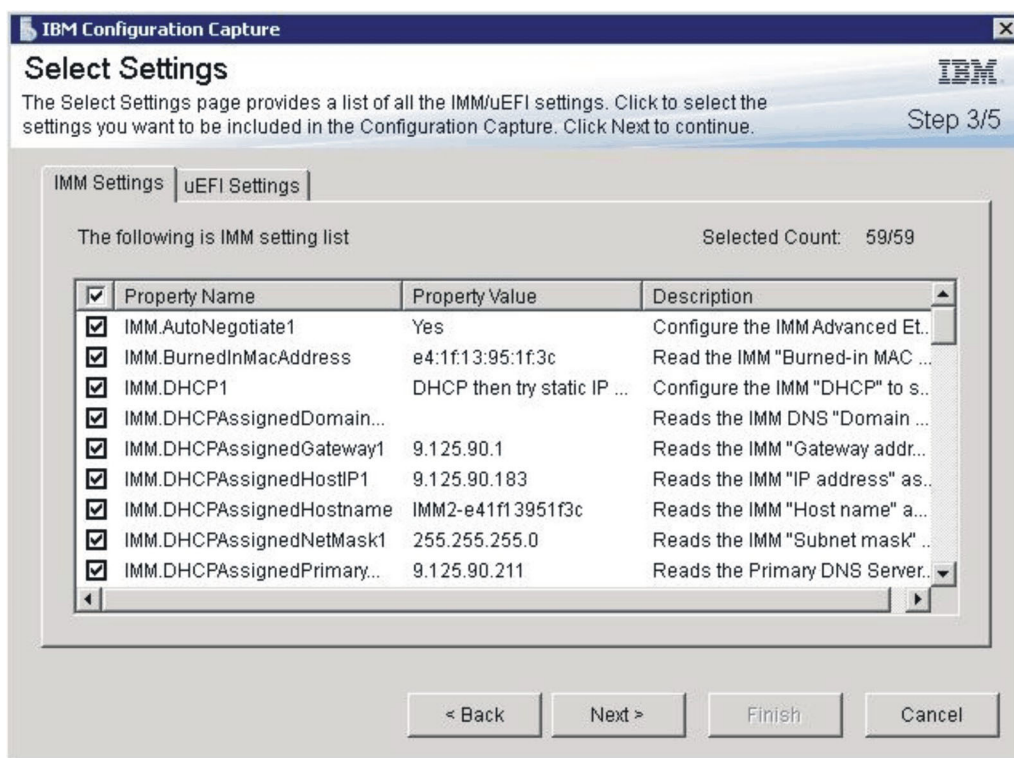


図 105. IMM 設定値

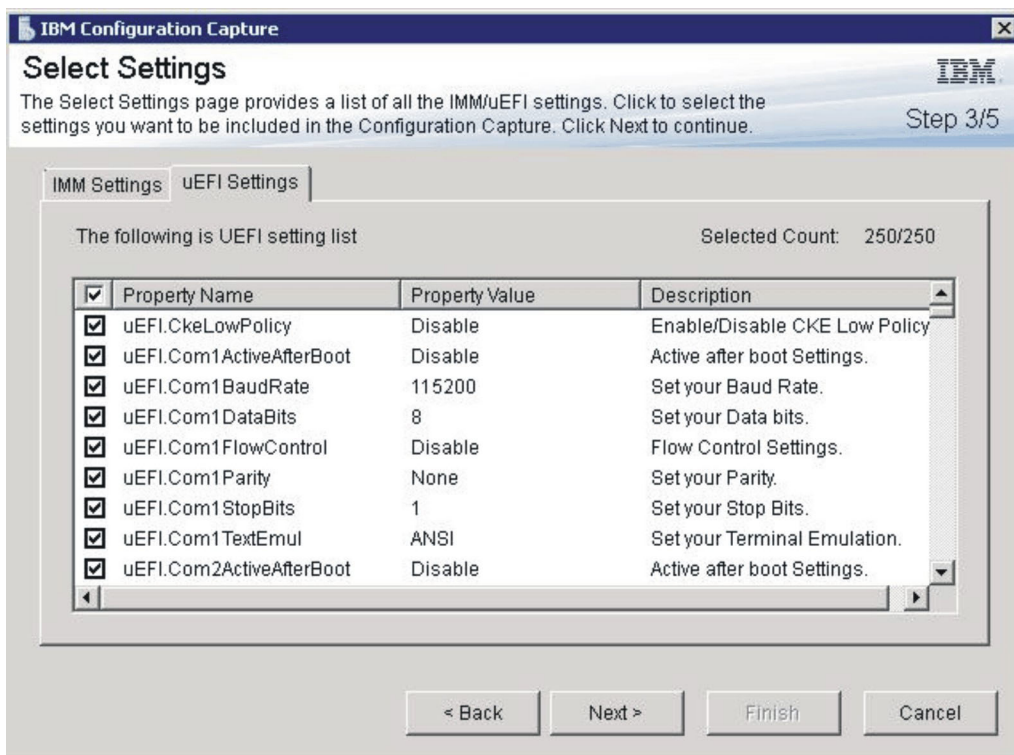


図 106. uEFI 設定値

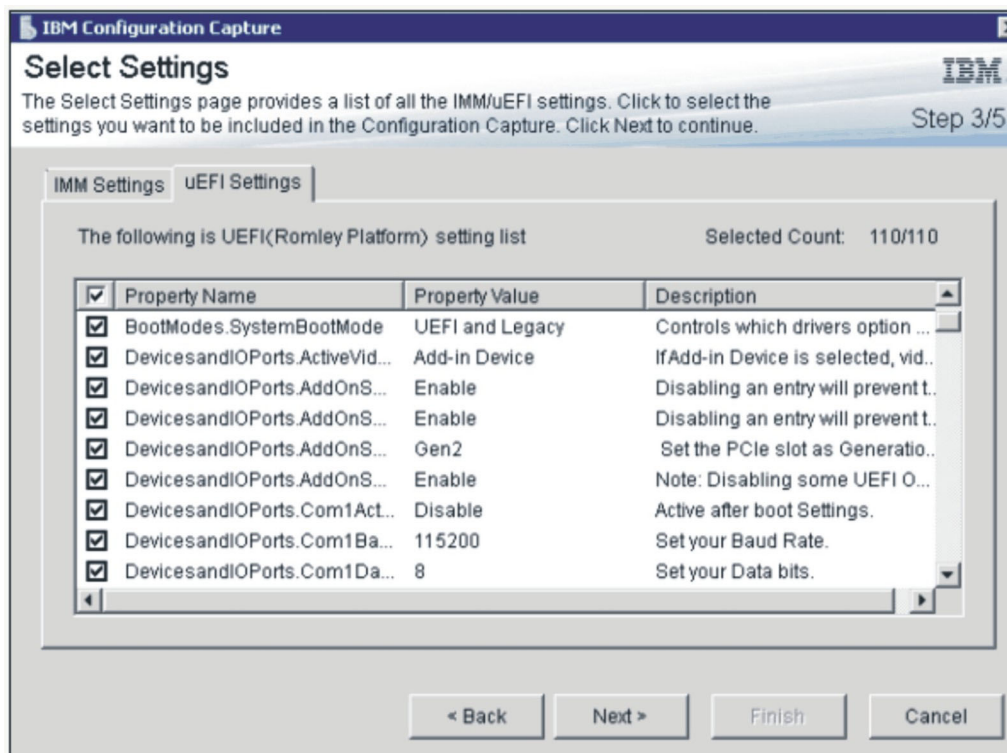


図 107. UEFI (Romley プラットフォーム) 設定値

注: ローカル・コンピューターに IMM、UEFI、または UEFI (Romley プラットフォーム) モジュールがない場合、または IMM アカウントが正しくない場合は、キャプチャーが失敗することがあります。キャプチャーが失敗した場合は、「**Information**」リンク・ボタンをクリックして詳細を表示できます。

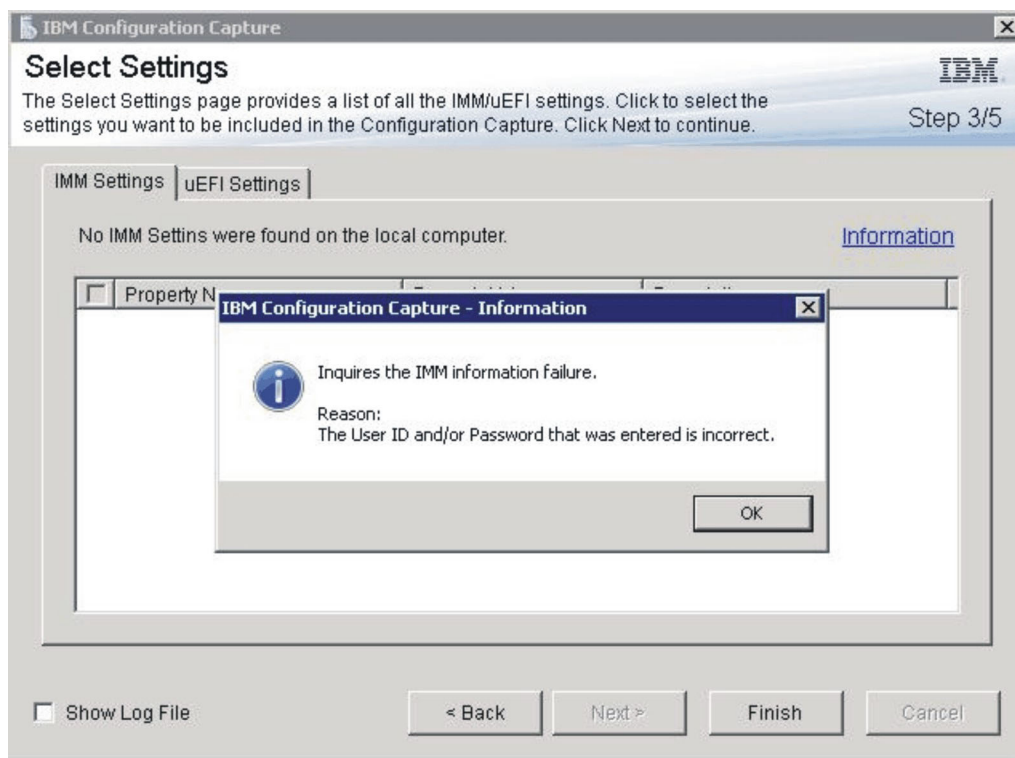


図 108. 「IMM Account」が正しくない

5. 必要な設定を「設定の選択」ページから選択し、「次へ」ボタンをクリックします。構成記述 .xml ファイルにエクスポートできる設定が「エクスポート」ページにリストされます。

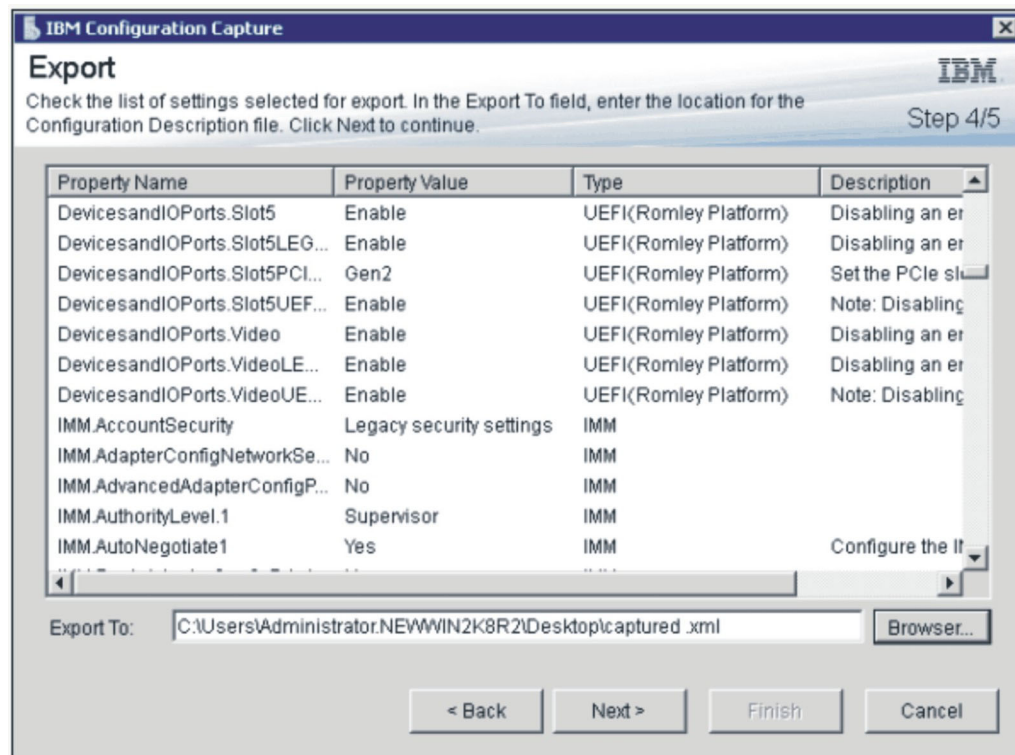


図 109. 「Export」ページ

6. 「次へ (Next)」をクリックします。「エクスポートが正常に完了しました」ウィンドウが開きます。

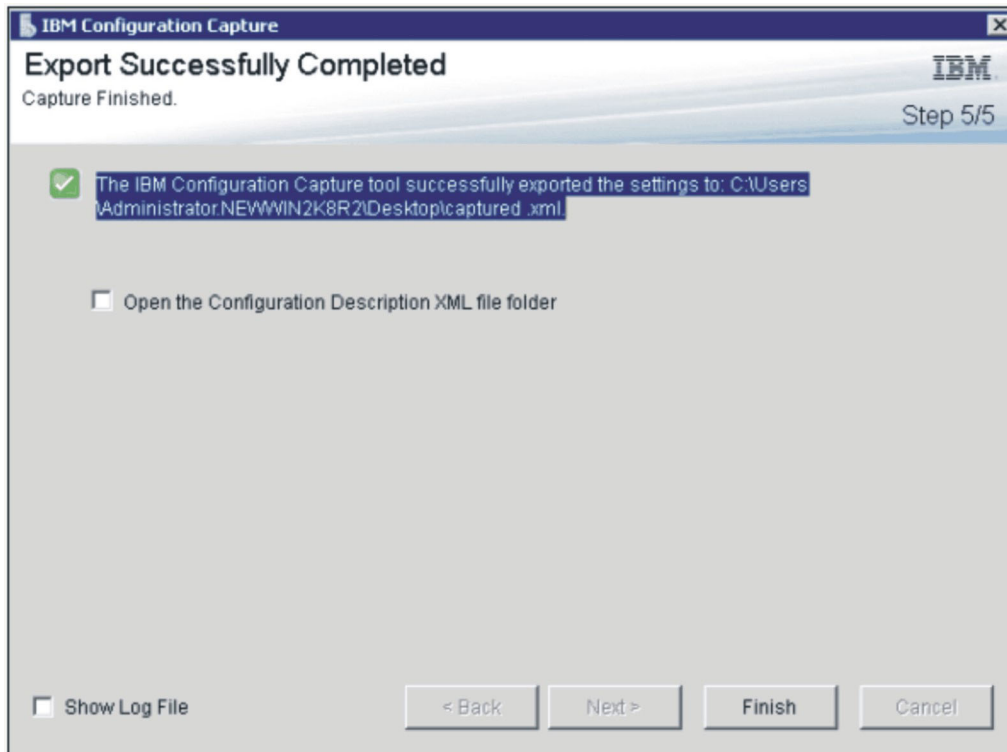


図 110. エクスポートが正常に完了しました

注: キャプチャーした Configuration Description ファイルを任意の IBM Configuration Pack Editor にエクスポートして管理することができます。詳しくは、24 ページの『構成項目の作成』を参照してください。

第 4 章 ハードウェアおよびソフトウェアのサポート

このセクションのトピックでは、IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager v5.0 によってサポートされるハードウェアおよびソフトウェアについて説明します。

サポートされる Microsoft System Center 製品

IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager 5.0 ソリューションでは、以下の Microsoft System Center 製品がサポートされます。

- Microsoft System Center Configuration Manager 2007 R2
- Microsoft System Center Configuration Manager 2007 SP2
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 SP1
- Microsoft System Center Configuration Manager 2012 R2

サポートされるクライアント・システム

IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager では、以下のクライアント・システムがサポートされます。

表 2. サポートされているシステム

製品ファミリー名	マシン・タイプ
System x3630 M4	7158
BladeCenter HS23E	8038,8039
BladeCenter HS22V	7871,1949
BladeCenter HS22	7870,1936,7809,1910
BladeCenter HS23	7875
System x3850 X6	3837
System x3550 M2	7946,4198
System x3550 M3	7944,4254
System x3550 M4	7914
System x3200 M2	4367,4368
System x3200 M3	7327,7328
System x3620 M3	7376
System x3630 M3	7377
System x3250 M4	2583
System x3100 M4	2582
System x3750 M4	8722,8733,8752
System x3250 M3	4251,4252,4261
System x3250 M2	7657,4190,4191,4190
System 3630 M4	7158

表 2. サポートされているシステム (続き)

製品ファミリー名	マシン・タイプ
Flex System x222 コンピュート・ノード	7916
Flex System x440 コンピュート・ノード	7917
Flex System x220 コンピュート・ノード	7906,2585
Flex System x240 コンピュート・ノード	8737
NeXtScale ノード	5455
System x [®] iDataPlex [®] dx360 M2 サーバー	7321,6380,7323
System x iDataPlex dx360 M3	6391
System x3650 M4	7915
System x3650 M4 HD	5460
System x3650 M2	7947,4199
System x3650 M3	7945,4255,5454
System x3530 M4	7160
System x3500 M4	7383
System x3300 M4	7382
System x3500 M2	7839
System x3500 M3	7380
System x3400 M2	7836,7837
System x3400 M3	7378,7379
System x3750 M4	8752
System x3250 M5	5458
System x3650 M4 BD	5466

クライアント・マシンにサポートされるオペレーティング・システム

IBM Configuration Pack for Microsoft System Center Configuration Manager では、以下のオペレーティング・システムがサポートされます。

- Windows Server 2003 SP2/R2
- Windows Server 2003 SP2/R2 x64
- Windows Server 2008 SP1/SP2
- Windows Server 2008 SP1/SP2 x64
- Windows Server 2008 SP1/R2
- Windows Server 2012 R2

第 5 章 トラブルシューティング

- IBM Configuration Pack Editor の使用中に問題が発生した場合は、InstallationFolder¥logs フォルダでログ情報を確認できます。このログ・フォルダは、製品がアンインストールされるときに自動的に削除されます。
- エンドポイント上の IBM Configuration Pack の評価ログをエクスポートする場合は、以下の手順に従います。
 1. 評価の後、「イベント ビューアー」を立ち上げます。
 2. 「Windows ログ (Windows Logs)」ツリー・ビューを展開します。
 3. 「アプリケーション (Application)」ノードを右クリックし、「イベントに名前を付けて保存 (Save Events as)」をクリックします。

以下の方法を使用して、プロパティが存在し、IMM アカウントが正しいかどうかを確認することもできます。

- 次のコマンドを入力して特定の IMM/uEFI プロパティを取得します。

```
asu.exe show propertyname
```

例: **asu.exe show IMM.HTTPPort**

- 次のコマンドを入力して、特定の IMM/uEFI プロパティをアカウントとともに取得します。

```
asu.exe show propertyname --user UserID --password Password
```

例: **asu.exe show IMM.HTTPPort --user admin --password esW2Ad**

- このスクリプトで評価対象設定を取得できない場合は、「評価レポートの表示 (Evaluation Report View)」セクションに値は返されず、SCCM クライアント・エージェントはその評価対象設定を非標準とみなします。この評価対象の設定値の詳細は、Windows のアプリケーション・ログから取得できます。アプリケーション・ログで使用される用語とその説明を以下に示します。

[Not Found ASU]

指定のロケーションに ASU.exe ファイルが見つかりませんでした。

[TargetOS]

現行オペレーティング・システムのバージョン (64 ビットまたは 32 ビット)。

[Found ASU]

ASU.exe ファイルのロケーション。

[Property]

評価対象プロパティの名前。

[Set ACCOUNT]

ユーザーが IBM Configuration Pack Editor で IMM アカウントを設定したかどうか反映されます。

[TimeOut]

評価がタイムアウトになったかどうか示されます。

[Return Code]

ASU.exe ファイルの戻りコード。評価対象設定が見つかった場合の戻りコードは 0 です。それ以外の場合は、0 より大きい戻りコードが返されます。 ASU 戻りコードについて詳しくは、Web ページ <http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/docdisplay?lnocid=TOOL-ASU> を参照してください。

[Error Output]

評価対象設定が見つからない場合、このコードは障害の理由を記録します。

[Output]

評価対象設定が見つかった場合、このコードは ASU.exe ファイルの検索結果を記録します。

- IBM Configuration Capture は、起動プロセスでシステム・ドライブの IBM_Support¥DCM¥logs フォルダにログ・ファイルを記録します。例えば、ご使用のシステム・ドライブが C: の場合、ログ・ファイルは C:¥IBM_Support¥DCM¥logs¥ フォルダの下に記録されます。
- IBM Configuration Capture は、IBM サーバーからのすべての IMM/UEFI/UEFI (Romley プラットフォーム) 設定値をキャプチャーできますが、キャプチャーされた設定値の一部は IBM Configuration Pack Editor の共通設定リストに組み込まれない場合があります。 IBM Configuration Pack Editor は、その設定がインポートされた後では、その設定をリストできません。 Editor はその設定の型を String 型とみなします。

IBM Configuration Pack Editor - Setting Editor

Select the property that you wish to monitor for compliance. If the property list does not include the desired property, type it in the Property Name field.

Property Name: IMM.DuplexAutoDisable

Description:

Comparator: Equals Value: Auto

Severity: Information

☐ Remediate noncompliant IMM/UEFI setting values on client automatically. The remediation action may be failed if the target setting is readonly.

Expected Value: Auto

When the property "IMM.DuplexAutoDisable" "Equals" "Auto", the property is compliant on the endpoint. Otherwise, the property is non-compliant and returns a severity of "Information".

OK Cancel Apply

図 111. IBM Configuration Pack Editor - 「Setting Editor」 ページ

図 111 では、IMM.DuplexAutoDisable プロパティは IBM Configuration Pack Editor の共通設定リストにないため、「詳細」フィールドおよび「予測値」フィールドは空になります。IBM Configuration Pack Editor は、IMM.DuplexAutoDisable プロパティの型を String とみなします。各種の型について詳しくは、15 ページの表 1 を参照してください。

著作権表示および商標

著作権表示

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。

これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。

ん。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

MW9A/050

5600 Cottle Road

San Jose, CA 95193

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。

実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Acrobat、および Portable Document Format (PDF) は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における商標です。

Intel[®]、Itanium[®]、および Pentium[®] は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。



Printed in Japan